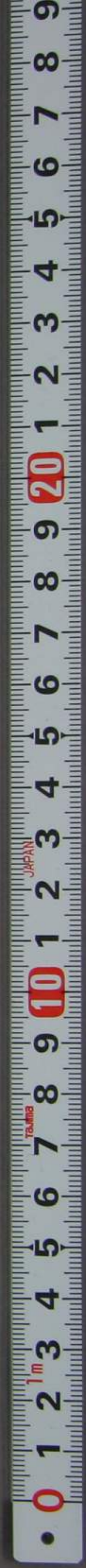




管轄外ノ内外
 英法意見
 國人ニ關スル



114
A2739

此ノ意見ハ樞密院議長閣下ノ囑命ニ依リ日本政府ノ爲ニ
編述スル所ナリ
一千八百八十九年十月東京ニ於テ

第一章 目次

歸化條例	一
移住民	一
英國船ノ所有	八
英國殖民地ニ於ケル歸化	九
生得臣民	十
正出子及國籍ニ關スル裁判所ノ宣告	十
定住地法律	十
生來定住	十
選擇定住	十
平常居住地法律	十

大正十一年四月
侯爵邸寄贈

第二章 民事裁判管轄權

英國裁判所ニ起訴スルノ概則	二十一丁
定住人若クハ平常居住人	二十四丁
他ノ種類ノ人	二十六丁
管轄外ニ召喚狀ヲ發スル原理	二十八丁
契約管轄權	三十二丁
私犯管轄權	三十三丁
財産差押ノ管轄權	三十三丁
臣民ニ對スル管轄權	三十四丁
外國ニ於テ爲シタル契約ニ關スル法律	三十六丁
外國ニ於テ爲シタル私犯ニ關スル法律	三十六丁

組合ニ對スル訴訟ノ場合	三十九丁
會社ニ對スル訴訟ノ場合	四十一丁
訴訟參加人ノ場合	四十二丁
法權ハ必ス成文律ヲ以テ付與セサルヘ	
カラスト謂フ原則	四十三丁
分訴召喚狀	四十四丁
成文律ヲ以テ認許シタル特別ノ場合	四十五丁
代人送付	四十七丁
告知ヲ爲サル場合	四十八丁
差留ノ場合	五十一丁
管轄權ノ定義	五十四丁
三哩帶	五十四丁

外國ニ在ル證人	五十六丁
遠行禁止狀	五十八丁
歲入法	六十丁
所得稅	六十丁
外國配當金ニ對スル所得稅	六十一丁
遺囑認定稅	六十三丁
遺贈稅	六十四丁
相續稅	六十五丁
不動產ニ對スル所得稅	六十九丁

第三章 刑事裁判管轄權

第一節 英國内ニテ罪ヲ於犯シ外國ニ逃

七十丁

レタル者ニ對スル裁判管轄權
 罪人引渡條約ノ目錄
 七十丁

第二節 英國外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ
 對スル裁判管轄權
 八十九丁

外國ニ於テ犯シ英國ニ於テ處罰シ得ヘ
 キ罪目ノ重大ナルモノ
 九十三丁

外國兵役服從條例
 九十八丁

歲入ニ關スル犯罪
 百丁

奴隸賣買及海賊罪
 百二丁

大海ニ於テ水手ノ犯セル罪
 百四丁

版圖沿海ニ於ケル犯罪
 百十二丁

第三節 條約ニ依レル在外英國臣民ニ對

スル裁判管轄權	百十四丁
治外法權ノ討究	百十五丁
治外法權條約ノ目錄	百二十五丁
無政府ノ邦國ニ在留スル英國臣民ニ對 スル裁判管轄權	百三十丁
全上ノ如キ裁判管轄權ヲ執行スル邦國 ノ目錄	百三十三丁
第四章 倒産裁判管轄權	百三十七丁
英國ニ於テ倒産裁判ヲ受クヘキ者	百三十七丁
倒産裁判管轄權ニ服スヘキ者	百三十八丁
倒産事故	百四十二丁

解責令ノ結果	百四十四丁
倒産ニ關スル各國間ノ認識ニ關スル成 文律外ノ例規	百四十八丁
英國慣例ノ大意	百五十九丁
第五章 會社事件ニ關スル裁判管轄權	百六十一丁
一外國會社ノ登録	百六十一丁
二外國會社ノ閉鎖	百六十三丁
三英國會社ノ外國株主	百六十七丁
召喚狀ヲ外國ニ發スルコト	百六十九丁
四裁判所ノ非常權	百七十一丁

第六章 婚姻事件ニ於ケル裁判管轄權

「婚姻ノ能力

百七十三丁

一身上ノ不能力

百七十三丁

外國ニ於ケル英國人ノ婚姻

百七十六丁

領事婚姻

百七十八丁

子女ノ正私

百七十九丁

私生子ヲ婚姻ニ依テ正出子ト爲スコト

百八十一丁

離婚裁判權

百八十二丁

外國離婚ノ認識

百八十四丁

英國ノ制規

百八十六丁

夫妻居住地ノ法律

百八十八丁

「ニボエ」事件

百九十一丁

百九十三丁

「ベセル」事件ニ依リ基督教ヲ奉セサル國

百九十六丁

ニ於ケル婚姻ヲ論ス

全上ノ婚姻ハ如何ナル程度ニマテ之ヲ

百九十九丁

認識スヘキヤ

一夫多妻的婚姻

二百三丁

「ハイド」事件

二百三丁

蓄妾ノ事

二百九丁

養子女ノ認識

二百十二丁

「ベセル」事件ニ關スル評論并解剖

二百二十丁

第七章 幼者ノ後見人事件ニ關スル裁判管

轄權

二百二十五丁

英國「チャンスリー」法廷ノ裁判權
外國撰任ノ結果
放蕩者

二百二十五丁
二百二十八丁
二百三十丁

第八章 風癲者ニ關スル裁判管轄權
「ロールド、チャンセロール」ノ裁判權
風癲ニ關スル外國判決ノ効力
英國ニ在ル財産ノ引渡

二百三十一丁
二百三十一丁
二百三十二丁
二百三十三丁

第九章 死者財産ニ關スル裁判管轄權
動産ノ遺囑
英國遺囑裁判手續

二百三十六丁
二百三十六丁
二百三十六丁

定住地法律ノ適用
遺囑ノ定義
英國臣民ノ外國ニ於テ爲シタル遺囑
外國判決ノ結果
外國管理人ノ認識
不動産ノ遺囑

二百三十七丁
二百三十八丁
二百四十三丁
二百四十五丁
二百四十七丁
二百五十二丁

十一千八百七
十年歸化條
例ノ要領
外國人ノ地位

第一章 國籍

「何人モ父母ノ國ヲ棄去スル能ハス」ト言ヘルハ往時英國普通法ノ格言ナリシト雖トモ多少煩雜ヲ來スノ基因トナリシカハ終ニ之ヲ以テ英國法律ノ一部ト認メサルニ至リタリ然レトモ此ノ改良ハ一千八百七十年ニ於テ所謂歸化條例ト稱スルモノヲ議決シタルニ由リ始メテ成効ヲ見ルコトヲ得タリ蓋シ此ノ條例ハ現今英國國籍法ノ基礎ヲ爲セルモノナルヲ以テ茲ニ其ノ條款ノ大要ヲ摘載スルハ復タ敢テ無益ノ業ニアラサルヘシ

第二條 外國人ハ今後英國臣民ト同シク合衆王國內ニ於テ各種ノ動産及不動産ヲ享有獲得スルコトヲ得

本條ハ一千七百年ノ殖民條例ニ抵觸スルコトナシ乃チ

同條例ニ依レハ合衆王國外又ハ領地外ニ出生シタル者ハ(假令歸化若クハ移住民トナルモ)樞密院ニ列シ若クハ上下兩院ノ議員トナリ又ハ文武官トナルコトヲ得ストアリ且同條例ニ於テ外國人ハ市會國會及其ノ他ニ關スル特權ヲ享有スルノ資格ナキコトヲ明示スルモノナリ

第三條 既ニ歸化シタル外國人ト雖トモ其ノ出生國トノ條約ニ於テ許ストキハ脫籍ノ宣言ヲ爲シ自ラ其ノ資格ヲ棄却スルコトヲ得

第四條 女皇陛下ノ版圖内ニ生レタル理由ニ依リ英國生得臣民タル者ニシテ其ノ出產ノ時ニ於テ外國ノ法律ニ從ヒ其ノ國ノ臣民トナリ尙ホ其ノ國ノ臣民トシテ丁年ニ達シ不能力ダラサル者ハ脫籍ノ宣言ヲ爲スコトニ因リ英國

臣屬ノ棄絶

臣民タラサルコトヲ得

此ノ規則ハ其ノ父英國臣民ニシテ女皇陛下ノ領地外ニ生レタル者ニ適用スルコトヲ得

第六條 外國ニ在ル英國ノ臣民其ノ國ニ歸化スルコトニ因リ女皇陛下ニ臣屬ノ義務ヲ棄絶スルコトヲ得

但シ此ノ條例ノ議定前已ニ歸化シタル者ハ其ノ發布以來二箇年内ニ於テ英國臣民タルノ志願ヲ宣言スルコトヲ得ルノ但シ書アリ

第七條 凡ソ外國人ニシテ歸化願ヲ爲ス前八箇年ノ内ニ五箇年以上合衆王國內ニ住居シタル者又ハ同年間公務ニ従事シタル者ニシテ歸化シタル後合衆王國內ニ住居シ若クハ公務ニ従事スルノ志願ヲ有スル者ハ歸化證明書ノ爲

歸化證明書

ニ陛下ノ國務大臣ニ出願スルコトヲ得

願書ノ事項ニ誤リナキコト及出願人ノ適當ニシテ忠誠ナルコトハ家屋ヲ有スル四名ノ英國生得臣民ニ於テ之ヲ保トスルコトヲ要ス

國務大臣ハ該證明書ヲ付與スルト否ト及之ニ付テ理由ヲ説明スルト否トハ全ク其ノ權内ニ在リテ專ラ公益ノ便宜ニ隨テ之ヲ措置スヘキナリ

此ノ歸化證明書ハ出願者臣屬義務ノ宣誓ヲ爲スニアラサレハ其ノ効ヲ生セサルモノニシテ已ニ歸化シタル外國人ハ合衆王國內ニ於テ政權及特權ヲ享有スルモノナレハ英國生得臣民及合衆王國ノ臣民ノ負フヘキ各種ノ義務ニ服從セサルヘカラス而シテ下文ノ緊要ナル但シ書アリ曰ク元來外國ノ臣民ニシテ其ノ法律若クハ條約

ニ因リ其ノ國ノ臣民タラサルニ至ルニアラサレハ英國臣民ト見做スヘカラスト

國務大臣ハ英國臣民タルコトニ疑點アル者ニ對シ特別歸化證明書ヲ下付スルコトヲ得此ノ證書ハ若シ疑問ノ生スル場合アルトキハ之ヲ明了ナラシムル爲メ豫シメ下付スル旨ヲ記セリ

此ノ第七條歸化シタル外國人ノ權利ニ關スル項ニ就テハ前ニ云フ殖民條例ノ明條ニ依遵シテ聊カ疑ナキ能ハス何トナレハ其ノ條ニ示シタル不能力者トハ合衆王國外又ハ領地外ニ生レタル人民ニモ及ホスヲ得ヘシ假令人民ハ歸化又ハ移住シタルモ蓋シ歸化ニ關スル此ノ挿句ハ後ノ條例ニ依リテ實際廢滅ニ屬セルヲ以テ歸化シ

タル外國人ハ樞密院ニ列シ又ハ上下兩院ノ議員トナリ得ヘキ資格ヲ有セルモノナリトノ説ハ稍其ノ實ニ近キカ如シ

第八條 英國臣民ニシテ此ノ條例ニ依リ一タヒ外國人トナリタル者ト雖トモ國籍證明書ヲ受ケ再ヒ英國臣民ノ身分ヲ復スルコトヲ得外國ニ在リテ前ニ歸化シタル者其ノ法律又ハ條約ニ依リテ其ノ國ノ臣民タラサルニ至ルニアラサレハ英國臣民ト見做スコトヲ得ス而シテ前ニ述ヘタル如ク國務大臣ニ於テ適當ナリト認ムルトキハ此ノ證明書ヲ下付セサルコトアリ
茲ニ於テ最モ注意ヲ要スヘキハ即チ法律上ノ外國人トナリタル者即チ英國臣民ニシテ臣屬義務ヲ棄却シタル者ハ

臣屬ノ宣誓

外國人ト同一ノ手續ヲ以テ臣屬義務ヲ負フヘキコトヲ誓フニ於テハ再ヒ英國臣民トナルコトヲ得ト雖トモ第三條(反對ノ場合)ニ於テハ一旦歸化シタル外國人ハ條約ニ因リ其ノ手續ヲ爲スニアラサレハ其ノ本來ノ義務ニ復スルコトヲ得サル是レナリ

第九條 臣屬ノ宣誓ハ左ノ如シ

某謹テ法律ニ從ヒビクトリヤ女皇陛下及其ノ皇嗣子孫ニ對シ忠誠信實ナル臣屬義務ヲ負フコトヲ宣誓ス 皇天照覽アレ

既婚婦

第十條 既婚婦ハ其ノ夫ノ在籍ニ從ヒ其ノ國ノ臣民トス生得英國臣民ニシテ結婚ニ因リテ外國人トナリタル寡婦ハ此ノ條例ニ依リ外國人ト見做スヘキモノニシテ其ノ寡婦

寡婦

子女

移住民

タルノ間ハ英國臣民タルノ復籍證明書ヲ受クルコトヲ得
 其ノ父英國臣民ニシテ外國ニ歸化シタル者ノ子女又ハ
 其ノ母英國臣民ニシテ寡婦トナリ且外國ニ歸化シタル
 者ノ子女ハ其ノ幼年ノ間父又ハ母ノ歸化シタル國ニ住
 シ其ノ國ノ法律ニ依テ歸化シタル者ハ其ノ國ノ臣民ニ
 シテ英國臣民ト見做スヘカラス
 其ノ父又ハ其ノ寡婦タル母ニシテ國籍ヲ復シ若クハ歸
 化シタル場合ニ於テハ其ノ子女幼年ノ間父又ハ母ト共
 ニ英國領地内第一ノ場合又ハ合衆王國內第二ノ場合ニ
 居住シタル者ハ英國臣民ト見做ス
 第十三條 移住證書下付ニ關スル國王ノ特權ノコトハ茲
 ニ論及セス

英國船ノ所
有

移住民トハ君主ノ特許ニ依リ臣民タルノ權利及特許ヲ
 得タル者ヲ云フ而シテ此ノ特許證書下付ノコトハ當今
 既ニ廢滅ニ屬セリト雖トモ特ニ注意ヲ要スヘキハ殖民
 條例ハ又移住民ニモ適用シ得ヘキモノナルヲ以テ各移
 住民ハ固ヨリ樞密院ニ列シ及上下兩院ノ議員トナリ又
 ハ文武官トナルコトヲ得サルハ明白ナリトス
 第十四條 此ノ條例ハ外國人ニシテ英國船舶所有者タル
 コトヲ許サス
 一千八百五十四年商船條例ニ依レハ英國船トハ(第一)英
 國臣民若クハ(第二)移住民又ハ歸化シタル外國人ニシテ
 全部所有スル船舶ヲ云フ
 第一ノ場合ニ於テ臣民ニシテ他國ニ歸化シタルトキハ

英國殖民地
ニ於ケル歸
化

英國船ノ所有主タルヲ得ス但シ再ヒ英國臣民タルノ身
分ニ復スル許可ヲ得テ其ノ所有主タルノ全期間ハ陸
下ノ領地内ニ居住スルカ又ハ領地内ニ在リテ實地業務
ヲ營ム會社ノ組合員タルトキハ此ノ限ニ在ラス第二ノ
場合ニ於テハ移住民又ハ歸化シタル外國人ニシテ英國
領地内ニ住居スルカ或ハ領地内ニ於テ實地業務ヲ營ム
會社ノ組合員タル間ハ英國船ノ所有主タルコトヲ得
第十五條 英國臣民ニシテ外國人トナリタル事實ニ依リ
其ノ脫籍前ニ爲シタル行爲ニ付其ノ義務ヲ免ル、コトヲ
得ス

第十六條 殖民地ハ其ノ境域内ニ在テ享有セシムヘキ爲
メ歸化ノ特權ヲ許可スルコトニ關スル法律ヲ制定スルノ

生得臣民

權ヲ有ス其ノ法律ハ通常ノ方法ニ依リ女皇ノ許否ニ從フ
ヘキモノトス

生得臣民トハ如何ナル人々ヲ包括シテ稱スルカヲ定ムル
ハ殊ニ必要ナリトス

第一英國版圖内ニ生レタル者

此ノ規則ハ父ノ國籍如何ヲ問ハサルモノトス例ヘハ英國
内ニ於テ出生シタル子ハ其ノ父母佛人ナルモ英國法律ニ
依レハ英國臣民トナリ佛國法律ニ依レハ佛人トナリ爲ニ
國籍重複ノ混雜ヲ來タスヲ免レス故ニ斯ノ如キ場合ニ於
テハ此ノ條例ニ依リ其ノ子ヲシテ脫籍ノ宣告ヲ爲サシム
ルコトヲ得ルナリ

第二英國版圖外ニ於テ生レタル者ニシテ出生ノトキ其ノ父英國生得臣民タリシ場合
 斯ノ如キ人ハ其ノ出生國ノ臣民タルコトヲ請願シ及此ノ條例ニ依リ脱籍ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
 但シ出生ノトキ其ノ父英國ノ敵國ニ奉仕シテ實務ヲ執リタル者ノ子ハ例外ナリトス
 第三版圖外ニ生レ第二ノ種類ニ入ルヘキ者ノ子女此ノ場合ニ於テモ前項ト同一ノ規則ヲ適用ス
 之ヲ畧言スレハ凡ソ英國版圖内ニ生レタル者ハ(前ノ例外ヲ除キ)總テ英國臣民ニシテ假令外國ニテ生ル、モ其ノ兩親英國臣民タル者ノ子孫ハ亦同シク英國臣民ナリトス
 一千八百五十八年英國生得臣民ト見做スヘキ權利ヲ確

定スルノ條例ヲ議決シタリ蓋シ此ノ條例ニ依レハ英國ニ定住スル者又ハ英國内ニ於テ各種ノ動産不動産ヲ所有スル者ハ上等裁判所内ノ遺囑法廷ニ請願シテ英國生得臣民ト認メ得ヘキ權利ヲ有スルモノナリトノ認定書ヲ受クルコトヲ得而シテ此ノ法廷ノ認定書ハ陛下及各人ニ對シ總テ有効ナルモノナレハ請願開廷ニ當リ檢事長被告人トナリ又此ノ裁定ノ結果ニ依リ損益ノ關係ヲ有スル虞アル者ヲ召喚シテ其ノ對手人タルコトヲ得セシム
 此ノ法令ヲ正出子宣告令ト云フ英國生得臣民及正出子權又ハ有効結婚ニ因リ生得臣民ナリト認メ得ヘキ各人ニシテ英國内ニ定住シ若クハ英國内ニ於テ動産不動産ヲ有スル者ハ其正出子證明ヲ法廷ニ請願スルコトヲ得

定住地

略言スレハ英國ニ於テ施行スル身分法ノ全部ハ國籍法ニ依ラスシテ定住地法律ニ屬スルモノナリト云フヲ得ヘシ」定住地法律ハ已ニ教科書ニテ詳説シタルヲ以テ茲ニ論スルノ要ナシト雖トモ定住地法律ナル語ハ編中屢散見スルヲ以テ今少シク其ノ意ヲ説明スルハ多少ノ便ナシトセス」定住トハ人ヲシテ一ノ社會ニ拘束スル關係ヲ謂フ身分トハ同社會内ニ在テ他ノ輩侶ニ對スル關係ナリ是ヲ以テ其ノ社會ニ適用スヘキ法律ニ依テ其ノ關係ヲ判定シ其ノ結果ヲ規定セサルヘカラサルコト明ナリトス今一例ヲ舉ケンニ其ノ人ノ成年ナルヤ否ヤノ疑問ヲ決セシニハ定住地法律ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス何トナレ

ハ此ノ事ハ其ノ日常互ニ通交スル人々ト婚姻及契約等ヲ爲スノ能力ニ關スレハナリ是ニ依テ之ヲ觀レハ定住ハ或ル點ニ於テ國籍又ハ居住ト其ノ性質ヲ同クス然レトモ二者必ス同一ノモノニアラス」定住トハ法律上ノ觀念ニシテ法律ニ依リ一個人ト一地方若クハ一國トノ間ニ成定スル關係ヲ謂フ故ニ法律ハ總テノ成年者ニ向テ定住ヲ授クルモノトス而シテ此ノ定住ハ他ノ新キ資格ノ爲ニ其ノ位置ヲ奪ハル、マテハ其ノ人ノ確定資格タルヘキモノトス」定住ニ二種アリ法律上出生ニ因リ得タルヲ生來定住ト謂フ成年ニ達シ自ラ變更シテ新ニ得タルモノヲ選擇定住ト云

生來定住ヲ棄絶スルノ意志アリタルノ證據確定スルニア
 ラサレハ法律ハ新選ノ定住ヲ認許セス
 意志ハ行爲ノ之ニ伴フニアラサレハ單ニ言語ノミニ由リ
 テ之ヲ證スルヲ得ス又行爲ハ言語ニ由ルカ又ハ他ノ明白
 ナル方法ヲ以テ示サ、レハ之ヲ證明スルヲ得ス
 既ニ死去シタル人ノ定住ヲ定メントスルニ際シ難問ノ起
 ルコトヲ免レズ此ノ場合ニ於テ法律ハ常ニ生來定住ノ推
 測ヲ下シ舉證ノ責ハ其ノ變更ヲ陳述スル人ニ在リトス即
 チ斯ノ如キ陳述ヲ爲ス人ハ法語ノ所謂歸住ノ意志ナルモ
 ノナキコトヲ表示セサルヘカラス故ニ將來病氣全快ノ望
 ミニ依リ或ハ負債償贖ノ爲メ或ハ富ヲ作ルガ爲ニ永遠居

幼者定住

住ヲ轉スルモ歸住ノ意志ヲ斷絶セサル場合ニ於テハ單ニ
 其ノ轉住ノ久シキニ涉ルノ事實ヲ以テ充分ノ證據ト爲ス
 ナ得ス何トナレハ斯ノ如キ場合ニ於テハ全ク其ノ地ニ留
 住ノ意志存スルコトヲケレハナリ
 結婚ニ因リ出生シタル子ハ父ノ定住ニ從ヒ結婚外ニ出生
 シタル子ハ母ノ定住ニ從フ若シ兩親明白ナラサルトキハ
 其ノ出生地ヲ以テ定住トシ兩親并ニ出生地共ニ不分明ナ
 ルトキハ發見地ヲ以テ定住トス而シテ其ノ子成年ニ達ス
 ルマテハ場合ニ應シテ父又ハ母ノ定住ニ從ヒ變動スルモ
 ノトス
 妻ノ定住ハ其ノ夫ニ從フ

妻ノ定住

平常居住

往時國籍法ノ保持セル地位ハ定住地法律ノ爲ニ奪ハレタル如ク今ヤ定住地法律モ亦平常居住地法律ノ爲ニ其ノ地位ヲ奪ハレントスルノ勢アリ

斯ノ如キ變遷ハ固ヨリ極メテ徐々タラサルヲ得ス然レトモ其ノ變遷スル所ノモノハ遂ニ一定ノ法律主義トナリ平常居住地法律ハ定住地法律ニ劣ルモ國籍所在地ノ法律ニ優リタル地位ヲ保有シタルコトヲ證スルニ足ルノ例實ニ鮮少ナリトセス

下文ニ舉示スル平常居住地法律適用ノ例ハ以テ定住地法律ト同一ナル觀念ニ基ケルコトヲ示スニ足ルモノナリ即チ一ノ社會ニ在テ永ク其ノ居住ヲ定メタル人ハ其ノ社會

ノ法律ヲ遵奉シテ之ニ服従スルノ必要アリト云フコト是ナリトス蓋シ平常居住地法ヲ適用スルコトノ遂ニ避クヘカラサルコトハ世人始メテ定住地法律ノ適用ヲ嚴密ニセサルヘカラサルコトヲ了解セシトキニ於テ已ニ明瞭ナリ

キ

第二章 民事裁判管轄權

英國法理ノ大陸諸國ノ制ト相異ナル要點ハ英國裁判所ニ於テハ或ル稀有ノ場合ヲ除ク外國民ナル語ヲ認識セサルニ在リ蓋シ英國法律ハ佛國法律ノ如ク國民ト外國人トノ區別ヲ立テ國民ノ利益ニ注意スルコトナシ故ニ其ノ法廷ハ獨リ英人ノミニ止マラス外人ノ爲メニモ亦同シク開廷スルモノニシテ苟モ其ノ權内ニ在レハ原告者ノ國籍如何ヲ問フコトナク又訴訟ノ故障ハ英人英國屬地人并ニ外國人ニモ均シク適用シ得ヘキモノタリ是ヲ以テ凡ソ英國人相互ノ間又ハ英國人ト外國人ノ間又ハ外國人相互ノ間ニ起ル訴訟ヲ英國上等裁判所ニ提出セントスルニハ唯タ一定ノ要件ヲ具備スルヲ要スルノミ

英國裁判所
ニ起訴スル
ノ概則

其ノ要件トハ下ノ三項ヲ云フ第一外國ノ土地ニ關スル訴訟ハ提起スヘカラス何トナレハ此ノ如キ土地ニ關シテハ其ノ所在國ノ裁判所ニ於テ純全ナル管轄權ヲ有スレハナリ而シテ其ノ他ノ訴訟ニ至テハ外國ニ在ル土地ノ借料請求等ノ如キモノト雖トモ亦英國裁判所ニ於テ受理スルコトヲ得ヘシ
第二原告若シ常ニ管轄地外ニ居住スルトキハ被告ノ出願ニ因リ訴訟入費ニ對スル保證金上納ヲ命セラレ、コトアルヘシ但シ被告勝訴トナルトキニ當リ裁判執行狀ヲ發シ得ヘキ管轄地内ニ於テ他ニ責務ヲ負ハサル不動産ヲ所有スルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三訴訟ヲ起サントスルトキ被告外國ニ在ル場合ニ於テ

女皇ノ令狀
ハ海外ニ及
ホリトノ
規則ノ例ハ
并ニ原告ハ
物件所在地
ハサカニ從
ラサルヘカ
言ノ例外格

ハ許可ヲ得スシテ召喚狀ヲ送付スルコトヲ得ス而シテ此
ノ許可ハ管轄地外召喚狀送付規則ニ該ル特別ノ場合ニ限
リ之ヲ與フヘキモノトス是レ「女皇令狀ハ海外ニ及ホサス」
ト云ヘル格言ノ原理ニ對スル除外例ニシテ該原理ハ今日
猶ホ依然トシテ召喚狀及執行狀等總テ民刑兩事件ニ關ス
ル司法召喚狀ニ適用スヘキモノナリトス
此等ノ古言ハ自ラ威嚴ヲ具ヘ君主ノ大權ヲ尊重シ之ヲシ
テ他ノ干侵ヲ免レシメントスルノ意アルニ至テハ夫ノ民
法ノ所謂原告ハ物件所在地ノ法廷ノ管轄ニ從フヘシトノ
格言ト大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ此ノ格言ハ或ル國殊ニ英國
「トウ井ード河以北ノ地方ニ於テハ今尙ホ之ヲ化生シタル
智慧ノ記念トシテ保存シ且現ニ之ヲ遵守セリト雖トモ予

ハ未ダ此ノ格言ノ理由ニ付完全ナル辨明アルヲ見サルナ
リ負債者ハ保護セサルヘカラス債主ハ起訴以前ニ追求セ
サルヘカラスト云フハ予決シテ知言ト稱スルコトヲ得サ
ルナリ況ンヤ斯ノ如キ場合ニ於テ債主ハ或ル國ニ於テハ
起訴スルコトヲ得サルニ於テヤ
物件所在地ノ法權トハ恐クハ近世之ヲ用井ル意味ヨリ一
層廣潤ナリシナラン
然レトモ十九世紀ニ至リ商業上ノ必要ニ依リ或ル國ニ於
テ此ノ原理ノ變更ヲ來セシナルヘシ現今ニ在リテハ債主
ハ何レノ場合ヲ問ハズ負債者ノ行ク處ニ從テ追求スルヲ
要セス或ル場合ニ於テハ女皇ノ令狀ハ其ノ邦域以外ニモ
及ホスコトアリ

此ノ問題ハ至大至難ノモノニシテ此ノ意見書ニ於テ詳説スルヲ要セス只タ之ニ關スル英國慣行規則ノ大要ヲ簡明ニ述フルヲ以テ充分ナリトス

管轄地内ニ定住シ又ハ平常居住ヲ定メタル人ニ對シ出訴セントスルトキハ法廷ハ此ノ管轄外ニ送付スヘキ召喚狀ノ許可ヲ與フヘシ此ノ規則ハ外國人并ニ英國臣民ニ均シク適用ス只タ此等ノ間ニ於テ差違ノ生スルハ被告ニシテ英國臣民ナルトキ又ハ英國領地内ニ在ル外國人ナルトキハ女皇ノ令狀ヲ送附シ若シ被告ニシテ外國領地内ニ在ル外國人ナルトキハ召喚狀ヲ發シタル旨ヲ通知ス之レ其ノ異ナル所ナリ

英國法律ハ英國外ニ在ル英國人一般ニ對シ其ノ管轄權ヲ

執行スルヲ要セス英國内ニ定住若クハ平常居住ヲ定メタル者ニ及スヘキモノナレハ數多ノ外國人ヲモ此ノ分類ニ含蓄シタルコト明カナリ此等ノ人ニ對スル總テノ訴訟ハ既ニ述ヘタル單一ノ例外ヲ除キ裁判所ノ許可ヲ受ケタル後提出スルヲ得ヘシ而シテ許可ヲ與フルニ際シ裁判所ハ注意ヲ用井サルヘカラス蓋シ裁判官ノ據テ以テ措置スル所ノ原理ハ畧左ノ如シトス若シ訴訟ノ主旨鎖細ナルコト明白ナルトキハ許可ヲ與ヘサルヘシ又原告ニ於テ出願ノ主旨トシテ陳述シタル事實ニ由リ若クハ被告ノ否拒セサル事實ニ由リ原告起訴ノ理由ナキコト或ハ其ノ理由ハ法律ノ許サ、ルコト明白ナルトキハ之ヲ與ヘス(例ヘハ條例ニテ廢棄シタルモノ又ハ既ニ確定裁判ノ下リタルモノ)然

レトモ此等ノ規則ノ存スルニ拘ハラズ裁判所ハ此ノ初審
出願ノ時ニ於テ訴訟ノ價值ヲ審理スルニアラサルナリ
定住者又ハ平常居住者タル部類ニ入ルヘカラサル被告ニ
關シテハ左ノ場合ニ限り許可ヲ得テ起訴スルヲ得ヘシ而
シテ此等ノ場合ハ外國人并ニ英國臣民ニ均シク適用スル
モノトス

第一訴訟ノ目的物ハ全ク裁判管轄地内ニ在ル土地ナル場
合

第二其ノ土地ニ關シテ證書遺囑書契約義務等ノ解釋修正
解除又ハ執行等ヲ要スル場合

第三臨終ノ際管轄地内ニ定住シタル死者ノ動産處分ニ關
スル訴訟ノ場合

第四文書ニ認メタル信託^{トラステ}ニ就キ管轄地内ニ在ル財産ニ關
スル部分ノ執行ニ關スル場合但シ此ノ場合ニ於テハ其
ノ受託者ハ被告ニシテ英國法律ニ從ヒ信託ヲ執行スヘ
キコトヲ要ス

第五破約ニ因リ起リタル訴訟即チ其ノ契約ハ何地ニ於テ
爲スモ管轄地内ニ於テ履行スヘキ明文アリテ其ノ破約
モ亦管轄地内ニ起ル場合(但シ被告蘇蘭愛爾蘭内ニ定住
又ハ平常居住シタルトキハ此ノ限ニ在ラス)

第六管轄地内ニ於テ或ル行爲ヲ止メ又管轄地内ニ起ル侵
害ヲ豫防若クハ除去スル爲メ禁令ヲ請願スル場合但シ
之ニ損害要償ヲ附帶スルモ或ハ然ラサルモ亦同シ

此等ノ規則ハ甚タ綿密ナルモノニシテ其ノ釋義ニ至テハ

管轄外ニ召喚狀ヲ發スル原理

裁判所ニ於テ多クノ議論アリ然レトモ其ノ綿密ナルコト及此ノ三十五年間ニ種々ノ變更ヲ爲シタル事實ニ依リ英國ニ於テ不在人ニ關スル管轄權ノ施行ニ最モ注意セシコトヲ證スルニ足ルナリ抑法律ノ執行力ハ其ノ之ヲ發布セル主權者ニ服從セル界域ノ範圍内ニ止ルヘキモノナルハ立法上ノ原理ニシテ以上列記ノ慣例ニ關スル問題ハ此ノ原理ニ違反シタルモノナレハ其ノ性質甚ダ緻密ナルモノト知ルヘシ蓋シ國家ハ何等ノ訴訟ト雖トモ不在被告ニ對シテ起訴スルヲ得ヘキ規則ヲ發布シ以テ原告ヲシテ管轄地内ニ在ル被告ノ財産ヲ以テ其ノ請求ヲ充タスノ機會ヲ得セシムルノ權ヲ有スルモノトス然レトモ立法院ノ斯ノ如キ規則ヲ裁可スルニ當リ更ニ一層高尚ナル目的ヲ有セ

現時ノ制ノ無力ナルコト

サルヘカラス即チ此等ノ規則ハ商業上ノ必要ニ應スルト同時ニ又各國ノ習慣ニ於テ正理ト認ムル所ノ原則ノ精神ニ抵觸セサランコトヲ期スルヲ以テ其ノ目的トセサルヘカラス亦此ノ各類共通ノ方法ニ由リテ以テ召喚ヲ有効ナルモノト爲サ、ルヘカラス則チ被告ハ召喚ヲ受テ猶ホ出頭セサル如キ無力ノモノタルヘカラス
現今此ノ管轄地外ノ召喚狀ハ必ス應セサルヘカラサルモノナリトスルヲ得ス十中七迄ハ欠席裁判トナリテ原告ハ「セリフ」官ノ部下ヲシテ差押ヘシムヘキ一物タモ發見スルコト能ハサルナリ若シ原告ニシテ所謂惡錢ニ次テ善錢ヲ投スルノ策ニ出テ被告カ差押フルノ價值アル財産ヲ有スル國ニ於テ裁判執行ヲ爲サント欲スト假定センニ一ノ嚴

三十
格ナル法規アリテ其ノ途ニ横ハルヲ如何セン即チ海外ニ在ル被告少クモ外國人ニ對シテ與ヘタル判決ハ被告ニ於テ自ラ出頭シテ其ノ管轄權ニ服從スルヲ諾セサルモノナルヲ以テ之ヲ認許執行スルヲ得スト云フコト是レナリ蓋シ此ノ法規ハ商業ノ發達モ未タ能ク其ノ嚴峻ヲ減却セシムルコトヲ得サルモノナリ
故ニ被告國內ニ於テ財産ヲ所有シ其ノ敗訴トナルニ方リ之ヲ差押ヘラル、ノ恐アル場合ニ非サレハ其ノ出頭ヲ強ユルノ方法アルコトナシ斯ノ如キ制度ノ無効ナルコト言ヲ俟タスシテ明ナリ
法律ノ精神ハ未タ現時ノ社會ノ精神ヲ吸收シタルモノニアラス其ノ結果タルヤ原告ハ物件所在地ノ法權ニ從フト

ノ格言ハ條理ニ違ヘルヲ以テ之ヲ調和セン爲メ法律規則ヲ制定スヘキノ必要ハ各國ノ既ニ認知スル所ナリ然レトモ各國各自法理ニ適フモノト思惟スル所ニ從テ箇々別々ニ之ヲ制定シタルカ故ニ此等ノ法律規則ノ間ニ於テ少シモ共通整備ノ點アルヲ見サルヘシ歐洲諸國ハ各自ノ規則ヲ確執シ自己ヲ改革セス(獨リ英國ヲ除キ)故ニ諸制度ノ歸着スヘキ大原則ヲ認識セス從テ斯ノ如キ原則ニ基ケル判決ハ治外ニ於テ効力ヲ有スルコトナシトス
萬國貿易上ノ關係日ヲ逐テ旺盛ヲ來スノ今日ニ於テ斯ノ如キ弊害ハ其ノ結果ノ及フ所甚タ大ナリトス而シテ近來稍ク之ヲ救治スルノ措置ヲ爲スノ運ニ至レリ
各國相互ニ民事裁判執行ヲ爲スヘシトノ問題ハ罪人引渡

此ノ問題ニ
關スル件ヲ
規約スルコ
至ルハ近キ
ニ在リ

ノ件ト均シク條約ヲ以テ措置スルノ日蓋シ遠キニアラザ
ルヘシ而シテ此等條約ノ綱領ハ訂盟國相互ニ不在被告召
喚ニ關スル法律ヲ認識シ及成ルヘク僅少ノ除外例ノ外諸
裁判ヲ執行スルコトヲ契約スルニ在リトス管轄地外ニ召
喚狀ヲ送付スルコトニ關スル英國ノ規則ハ夫ノ萬國通商
ノ必要ニ適ヒタルモノトシテ法律家ノ認識セル原理ノ精
神ニ協ヘリ蓋シ此ノ規則ノ基ク所ハ訴訟事件ノ目的物管
轄地内ニ存在セルニ由ルカ或ハ訴訟ノ原因管轄地ニ於テ
生スト云ヘル事實ニ在リトス之ニ次テ論スヘキ重要ナル
モノハ契約及私犯ニ關スル規則是レナリ

外國判決ノ問題ハ予カ著書ニ於テ詳論スルヲ
以テ此ノ意見書ニ於テ論究スルノ要ヲ認メス

契約ニ於テハ各種ノ制度ニ由リ區々ノ規則アリ其ノ管轄

契約管轄權

私犯管轄權

權ヲ定ムルハ主トシテ其ノ管轄地内ニ於テ契約ヲ取結タ
ルカ又ハ管轄地内ニ於テ破約シタルカ又ハ管轄内ニ於テ
履行スヘキ場所ヲ明示シタルニ因リ之ヲ定ム而シテ此等
ノ規則ハ皆正理ニ基ケルモノトセリ之ニ反シテ單ニ其ノ
國人ト契約ヲ取結ヒタル事實ヲ以テ管轄權ヲ定メントス
ルハ不當ナリトス
私犯ノ場合ニ於ケルモ其ノ犯行ハ管轄地内ニ於テ行ヒシ
カ又非行者ハ國民ナリシカノ事實ニ由リ管轄權ヲ定ムル
ヲ正當トス而シテ被害者ノ國籍ニ依ルハ正當ニアラサル
ナリ
訴訟ノ原由及被告ノ居住地ヲ不問ニ付シ財産ノ存在スル
國ヲ以テ管轄權ヲ定ムルノ制度モ亦一般ノ非難ヲ免レヌ

財産差押ノ
管轄權

此ノ法律ハ蘇格蘭ニ於テ管轄權ヲ定ムル爲メノ財産差押法トシテ今尙ホ行ハル而シテ財産ハ何程ノ少額ナリト雖トモ苟モ之ヲ差押ヘテ以テ居住ノ規定ニ適フコトヲ得ハ足レリトス例ヘハ訴訟ノ原因「ブラシル」國ニ起リタルカ又ハ被告日本國ニ居住スル場合ニ於テモ蘇格蘭ノ裁判所ハ之ニ對スル訴訟ヲ受理スルニ妨ケアルヲ見サルナリ被告ノ國籍ニ基ケル管轄權ニ就テ之ヲ論スルトキハ一國ノ立法部ハ其ノ裁判所ヲ經テ不在臣民ノ上ニ多少ノ約束權ヲ有スルコト至當ナリトスルハ一般ニ是認スル所ナリ然レトモ此ノ原理ヲ應用シテ何レノ場合ニ於テモ總テノ國民ニ管轄權ヲ及ホスハ過嚴ニ失セサルカ亦一國民ニ限リ之レヲ適用スルハ却テ寛容ニ過キサルカノ疑ナキ能ハ

臣民ニ對スル管轄權

外國ニ於テ

ス英國ノ規則ハ海外ニ居住シ其ノ裁判管轄外ニ在ル無數ノ英國臣民ニ及ホサ、ルナリ之ニ反シテ國內ニ於テハ既ニ前ニ示セル如ク啻ニ定住シタル者ノミナラス又平常居住ヲ定メタル者ニモ適用スヘキモノトス此ノ平常居住者ヲモ包括スルノ理由ハ充分明白ナリ何トナレハ人ハ居住ニ因リ信用ヲ得信用ニ因リ日常ノ業務ヲ得ヘケレハナリ「平常居住」トハ實ニ漠然タル語ニシテ當時未タ法廷ノ解釋ヲ得サルモノナレトモ一千八百八十三年ノ倒産條例中ニモ又此ノ語ヲ用非タリ即チ「起訴前一箇年以内英國内ニ平常居住シ又ハ住宅ヲ有シ又ハ業務ノ場所ヲ定メタル云々」トアリテ一層其ノ意味ヲ明細ニ示セリ外國ニ在リテ爲シタル行爲ニ關シ管轄權ヲ定メタル後英

爲シタル
爲ノ適法
何ヲ定ム
法ル如

契約

國裁判所ハ英國臣民及外國人ヲ如何ニ取扱フカヲ茲ニ論究スルハ至便ナリトス

外國ニ於テ取結ヒタル契約ニ關シテハ英國裁判所ハ彼ノ所謂國際私法ノ(國際私法ト云フモ學者等大ニ其ノ用語ニ付駁論アルニ拘ハラズ)規則ニ依レリ之ヲ畧言セハ契約ヲ取結ヒタル場所ノ法律ハ契約ノ諸式并ニ契約ノ關係ヲ完備セシムル爲ニ必要ナル手續ヲ支配シ又契約ヲ履行スヘキ場所ノ法律ハ契約ノ解釋ヲ定ムルモノトス

私犯ニ關シテ英國ハ一種固有ノ規定ヲ施行スルモノトス即チ外國ニ於テ侵シタル私犯ニ關シテハ該外國ノ法律ニ於テモ又英國法律ニ於テモ共ニ私犯ナリト認メタルモノニアラサレハ英國ニ於テ起訴スヘカラス

私犯

此ノ規則ノ前部ハ普通ニ適用スル主義ニ屬ス即チ人ハ各其ノ所在國ノ法律ニ服従スヘキモノニシテ其ノ法律ハ成文律ト不文律トヲ論セサルナリ又國家并ニ隣人ニ對シテ行爲ノ正トナリ或ハ非トナルハ法律ノ規定シタル義務ニ依ルヘキモノニシテ法律ニ依リテ判決ヲ下サ、ルヘカラスト云フニ在リ自國ノ法律ハ外國ニ在テ爲シタル行爲ヲ檢束スルコトナシ而シテ非行ハ私犯ノ成立ニ必要ナルヲ以テ此ノ規則ノ前部ハ敢テ論辯ヲ要セス然レトモ其ノ後部ニ至テハ之レヲ法律トスルハ不當ナリト愚考セリ而シテ其ノ理由數多アリテ此ニ之レヲ詳載スルコト能ハサルナリ

果シテ之レヲ以テ我カ英國法律ノ一部ナリトスルトキハ

特別場合ノ
管轄權

其ノ適用上複雑ヲ免レス而シテ其ノ極不明ニ歸スヘシ今
 予ハ左ノ數言ヲ陳述スルヲ以テ充分ナリト信ス即チ此ノ
 規則ハ一千八百七十三年ノ裁判所條例（ジュヂヤクエツル）議決以來少シモ之
 ナ論究セシモノナキコト又此ノ條例ノ一章ハ此ノ論ニ緊
 要ナル關係ヲ有スルコト并ニ我カ普通法ノ源泉タル古代
 ノ訴訟判決例ニ此ノ規則ノ存在セシコトヲ證明スルニ足
 ルヘキ必要ナル確說ヲ枚舉スルハ甚タ困難ナルコト等足
 ナリ

以上論述スル所ハ英國裁判所ノ管轄權ハ國內ニ在ラサル
 通常人ニ對スル民事ノ場合ヲ舉示シタルモノナレハ或ル
 特種ノ場合ニ於テ更ニ考察ヲ要スヘキモノアリトス

外國組合

組合員

第一全ク外國ニ於テ營業スル組合ニ對シ英國國內ニ於テ起
 訴セント欲スル場合ニハ通常ノ規則ニ依ルヘシ而シテ訴
 訟ノ原因ハ管轄地外ニ召喚狀ヲ送付スル許可ヲ得ヘキ種
 類ニ屬シ實際裁判所ノ許可ヲ得タルモノナラサルヘカラ
 ス組合員ハ外國人タリトモ英國臣民タリトモ又ハ國籍ヲ
 同クセサルモ皆同一ノ規則ニ依ルヘキモノニシテ其ノ組
 合ノ組織ニハ依ラサルナリ然レトモ組合ニ關スル召喚規
 則ニ依レハ組合ニ對シ發シタル召喚狀ハ組合ニ送付スヘ
 キモノナリト雖トモ其ノ組合員ノ内一名若クハ二名以上
 ニ之ヲ送付スルコトヲ許セリ故ニ若シ組合員ニシテ暫ク
 タリトモ英國國內ニ在ルトキハ其ノ組合ニ對シテ發シタル

英國ニ支店
ヲ有スル組
合

通常ノ召喚狀ヲ送付セラル、コトアリ(此ノ召喚狀ハ許可
ヲ得スシテ送付シタルモノナレハ管轄地内ニ限り用井ヘ
キモノトス)

第二組合ニシテ其ノ營業ノ本部ヲ外國ニ置キ其ノ支部英
國內ニアルトキハ管轄内ニ於テ專ラ營業スル土地ニ於テ
許可ヲ得スシテ其ノ營業ヲ董督管理スル者ニ對シテ通常
召喚狀ヲ送付スルヲ得ヘシ然レトモ手代ノ如キ者ニ送付
スヘカラス

第三此ノ規則ハ一人ニテ組合ノ名義ヲ以テ業務ヲ營ミ實
際其ノ他ニ組合員アラサルトキニモ適用スルコトヲ得ヘ
シ

會社

英國法律ニ依レハ組合ハ法人ニアラスト雖トモ會社ハ法
人ナリトス故ニ召喚狀ハ其ノ會社事務ノ管理ヲ信託シタ
ル人ニ送付スヘキモノニシテ他ノ人ニ之ヲ送付スヘキモ
ノニアラス是ヲ以テ召喚狀ハ社長又ハ株主ニ送付スヘカ
ラサルモ事務長書記長出納役書記等ニ對シ之ヲ送付スル
ヲ得ヘシ

會社管轄地外ニ在ル場合ニ於テ若シ外國ノ法律ニ會社ノ
爲メ召喚ニ應スヘキ人ヲ定メタル明條アルトキハ其ノ條
ニ從ヒ必要ノ書類ヲ送付セサルヘカラス然レトモ會社ハ
英國内ニ代理店ヲ有シ前ニ示シタル適合ノ人アレハ之レ
ニ送付スルコトヲ得

第三者

訴訟参加人

被告若シ其ノ訴訟外ノ人ニ對シテ分割金若クハ賠償金ヲ請求スルノ權アリト思惟スルトキハ其ノ人ニ對シ第三者告知狀ナルモノヲ發スヘキ許可ヲ受クルコトヲ得ヘシ而シテ又此ノ告知狀ハ管轄地外ニモ送付スルノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモノトス尙ホ又管轄地内ノ一人若クハ二人以上ニ對シテ既ニ適當ニ起訴シタルトキハ管轄地外ニ在リテ連帶若クハ輪番ニ其ノ義務ヲ負フヘキ人アルヲ發見スルコト屢之レアリ此ノ場合ニ於テハ管轄外ト雖トモ此ノ訴訟ニ必要若クハ至當ナル人ニ對シテ召喚狀ヲ發スルノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモノトス蓋シ左ノ事件ノ如キ

外國ニ在ル
參加對手人
ニ對スル反
訴

法權ハ必ス
成文律ヲ以
テ付與セサ
ルヘカラス

ハ此ノ類ノ適例ナリ曾テ四十四名ノ保險者一隻ノ船ヲ保
險シタルニ其ノ船航海中ニ沈没セリ而シテ其ノ内英國内
ニ住居セル者ハ僅ニ二名ナルカ故ニ先ツ通常ノ手續ニ依
テ此ノ二名ニ對シテ訴訟ヲ始メ遂ニ外國ニ在ル殘餘ノ四
十二名ヲモ被告トシテ加入セシムヘキ許可ヲ得ルニ至リ
タリキ
被告ハ原告ニ對シ又ハ訴訟外ノ他人ニ對シテ反訴ヲ要ス
ル場合ニ當リ此等ノ參加對手人管轄地外ニ在ルニ拘ラス
其ノ加入ヲ必要若クハ至當トスルトキハ之ニ對シテ反訴
ノ許可ヲ受クルヲ得
此等ニ類似セル場合ニ適用スヘキ普通ノ原則ハ管轄地外
ニ召喚狀ヲ送付スルノ手續ヲ爲スヘキ許可ヲ與フルノ權

ト謂フノ原

分訴ノ召喚
賣買證書ヲ
所持スル外
國人ノ場合

ハ裁判所ノ固有ニアラスシテ成文律若クハ條例ノ下ニ制定セラレタル裁判所規則ノ明文ニ於テ認許スヘキモノナリト云フ即チ是ナリトス故ニ裁判所カ此ノ原則ヲ推及シテ對手人管轄外ニ在ル場合ニ於ケル分訴召喚狀ニ適用スルハ正確ナリト云フヲ得ス何トナレハ裁判所ハ此ノ場合ニ必要ナル書類ノ送付ヲ許スヘキ權力ヲ有スルノ明文ナキヲ以テナリ而シテ此ノ問題ハ左ノ如キ場合ニ於テ生スルモノナリ例ヘハ原告勝訴トナリ被告ノ所有セル財産ニ對シテ執行狀ヲ發シ物件搜索中賣買證書ヲ發見スルコトアリトセンニ若シ此ノ賣買證書ノ所有者英國内ニ在レハ「セリフ」官ハ直ニ之ニ對シテ分訴スルヲ得而シテ裁判所ハ判定債主ト賣買證書所有者トノ爭訟ヲ判決スルモノニシ

成文律ヲ以
テ認許シタ

テ同官ノ請求ニ依リ召喚狀ヲ發シテ原被兩造ヲ組立テ然ル後「セリフ」官ハ其ノ勝訴者ニ物品ノ引渡ヲ爲ス然レトモ他人ノ所有ニ歸スルノ恐アル物品ヲ取扱フコトヲ避ケント欲スルトキハ分訴召喚狀ヲ發セサルヘカラス而シテ其人外國ニ在ル場合ニ於テ之ヲ裁判所ノ管轄内ニ移サンニハ或ル成文律ノ許セル權力ニ依リテ之ヲ爲サ、ルヘカラス若シ此ノ權力アルトキハ本件ヲ處辨スルニ便利ナラシ蓋シ斯ノ如キ權力ヲ必要トスルハ正理ニ協ヒタルモノ、如シ然リト雖トモ現今猶ホ未タ其ノ權力ヲ完備セサルヲ以テ管轄外ニ向テ召喚狀ノ送付ヲ許可スル判決ハ其ノ當ヲ得タルモノニアラサルナリ

裁判所條例ニ據リ構成シ且前文ノ召喚狀其ノ他ノ書類ノ

送付ニ必要ナル權力ヲ認ムル裁判所規則ノ外ニ國會ノ議決條例ニ依リ特ニ管轄地外ニ送付シ得ヘキ書類左ノ如シ

離婚裁判所ニ提出スヘキ總テノ歎願書但シ夫妻權回復ニ關スル歎願書類ヲ除ク

總テノ遺囑ニ關スル訴訟事件ノ召喚狀

風癲者ニ關スル歎願書

倒産ニ關スル歎願書

此等ノ召喚狀又ハ歎願書ハ其ノ送付ヲ受クヘキ人其ノ裁判所管轄内ニ在ル場合ニ限ルモノトス仍ホ此ノ規則ノ詳細ハ後章ニ於テ論究スル所アラシテ訴訟ヲ始ムヘキ書類ニシテ管轄外ノ人ヲ召喚シ得ルモノハ以上ノ外他ニ之レアラサルナリ

外國ニ在ル被告其ノ他ノ人ニ對シテ更ニ他ノ二種ノ方法ヲ行フコトヲ得ヘシ是レ予カ將ニ論辨セントスル所ナリ抑英國法律ニ依レハ民事訴訟ヲ始ムルノ召喚狀ハ直ニ被告ニ送付スヘキモノトス然レトモ若シ原告ニ於テ送付ノ効ナキ所以ヲ證明スルトキハ裁判所ハ被告ノ爲メニ代ルヘキ第三者ニ對シ送付ヲ命スルノ權ヲ有セリ而シテ訴訟ノ告知狀ハ此ノ第三者ヲ經テ被告ニ送達スレハ充分ナリトス斯ノ如キ許可ヲ與フルハ被告故サラニ其ノ送達ヲ避ケントスル場合ニ限ルヲ通例トス然レトモ被告外國ニ在リトノ事實ハ假令此ノ訴訟ヲ避ケン爲メ特ニ遁レタルニモセヨ^{（代理人送付ノ許可ヲ與フヘキノ理由ト爲スニ足ラス）}ト雖トモ管轄地外ニ在ル被告ニ對シ召喚狀若クハ其ノ場

合ニ依リ告知狀ヲ送付スヘキ許可ヲ得タル以上ハ直ニ其
ノ被告ニ對シ送付スヘキモノニシテ斯ノ如キ場合ニハ代
人送付ニ關シテモ同一ノ規則ヲ適用スヘキモノトセリ而
シテ裁判所ハ外國ニ在ル被告ニ送付スヘキ許可ヲ與ヘタ
ル場合ニ於テ原告若シ其ノ直接送付ノ効ナキ理由ヲ舉示
スルトキハ被告ノ代リニ或ル特定ノ人ニ向テ代人送付ヲ
爲スノ許可ヲ附加スルコトアリ
或ル他ノ場合ニ於テ訴訟ノ告知ヲ省畧スルコトアリ即チ
管轄地内ニ在レハ通知ヲ受クヘキ人ニシテ管轄地外ニ在
ルトキノ如キ是ナリ然レトモ不在者ニシテ此ノ事件ニ關
シ一モ直接ノ利害ヲ有セサルトキハ法廷ノ助力ヲ受クヘ
キ人ノ便益ヲ圖リ不在者アルニ拘ラス其ノ手續ヲ始ムヘ

キコト必要ナリトス又左ノ場合ニ於テハ告知ヲ省畧ス
一千八百三十年幼者財産取扱條例ニ依レル場合
一千八百五十年財産管理人條例ニ依レル場合
一千八百七十六年分割條例ニ依レル場合
一千八百七十七年整理財產條例ニ依レル場合
一千八百八十二年整理土地條例ニ依レル場合
以上ノ目ハ特ニ專門ニ係ルヲ以テ茲ニ之ヲ列記スルニ止
マルノミ
此等ノ場合并ニ代理送付ノ場合ニ於テハ一般ニ新聞紙上
ニ廣告シ利害ヲ有スル對手人ヲシテ知了セシムヘキナリ
前項ニ示シタル場合ハ英國法理ノ基礎ト爲ス所ノ一ノ論
點ヲ含有ス蓋シ英國内ニ在ル場合ニ於テ其ノ人ヲシテ裁

判所ニ出廷セシムルノ目的ハ若シ原告ニ於テ之ヲ請求シ且裁判所ニ於テ正當ナリト認ムル場合ニ於テ其ノ人ナシテ或ル行爲ヲ爲サシメンコトヲ命スルニ在リ而シテ其ノ行爲トハ例ヘハ幼者ノ財産管理人タル場合ニ於テ不動産貸與契約ノ執行ヲ命スルカ如キ是ナリ而シテ其ノ不在ナル場合ニ際シ裁判所ニ於テ他人ニ命シテ必要ナル借地權ヲ行ハシムルモ敢テ不當ノ所爲ト謂フヘカラス何トナレハ上文ニ叙述シタル如ク其ノ人ハ訴訟事件ニ於テ直接ノ利害ヲ有セサレハナリ而シテ法廷ハ素ト其ノ人又ハ其ノ人ノ財産上ニ管轄權ヲ施行スルモノニアラス唯タ其ノ權内ニ在ル人ノ權利ヲ保護スルノミ然レトモ此ノ場合ニ於テ或ル事件ヲ執行スルノ必要アルカ故ニ裁判所ハ第三者

差留ノ場合ニ起ルヘキ

ニ命シテ之ヲ爲サシメサルヲ得ス而シテ裁判所ハ其ノ管轄權内ニ在ラサル人ニ對シ命令ヲ下スコト能ハス若シ夫レ學理上ヨリ之ヲ論スルトキハ法廷命令(差止狀若クハ命令狀ノ如キ)ハ外國ニ在ル人ニ對シテ發スルヲ得サルモノナリ其ノ故ハ法廷ハ斯ノ如キ場合ニ其ノ命令ヲ執行スル權力ヲ有セストスルニ在リ蓋シ斯ノ如キ命令ハ制裁力ヲ有セサルモノニシテ他言ヲ以テ之ヲ云ヘハ所謂無害ノ電光ト一般ナリトス夫レ夫妻權ノ復權歎願書ヲ管轄外ニ送付スルヲ許サ、ルハ此ノ理由ニ基ケルナリ何トナレハ此ノ場合ノ判決ハ或ル事件ノ執行ヲ命スルモノナレハナリ又此ノ理由ニ因リ裁判所ハ管轄外ノ人ニ對シテ差留ヲ請

求前記ノ如クスル場合ニ管轄地外ニ召喚狀ヲ送付スヘキ
 認可ヲ與ヘルコト頗ル嚴肅ナリトス而シテ此ノ規定ハ裁
 判所ヲシテ全ク前項記載ノ主義ニ違反スルノ權力ヲ有セ
 シメサルナリ蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テ法廷ニ向テ停止若
 クハ禁止ヲ請求スルコトヲ得ル行爲トハ當時管轄外ニ在
 ルノ人他日管轄内ニ於テ作サントスル行爲ヲ謂フモノニ
 シテ其ノ人若クハ其ノ代理者管轄内ニ來リテ其ノ行爲ヲ
 遂クル迄ハ此ノ法廷ノ命令ハ中止ニ在ルモノトス斯ノ如
 キ場合ニ於テ制裁ハ完全ナルモノニシテ命令ニ順フモノ
 ハ保護シ從ハサルモノハ罰ス故ニ斯ノ如キ命令ハ所謂無
 害ノ電光ニアラサルナリ
 通常民事訴訟ノ判決ハ法廷命令ニアラスシテ對手双方間

ノ争點タル權利ノ疑問ニ關スル宣告ニ過キサルコトハ今
 更ニ喋々スルヲ要セサルナリ又茲ニ財産ニ關スル判決ノ
 原理ヲ推究スルノ必要アルコトナシ
 差留狀ハ決シテ管轄外ニ在ル人ニ對シテ發セスト云フハ
 大體ノ規則ナリト雖トモ管轄内ノ人ニ對シテハ法廷ハ無
 限ノ命令權ヲ有スルモノニシテ管轄外ニ於テ爲スヘキ又
 ハ爲スヘカラサルコトヲ命令スルコトヲ得
 例ヘハ英國ニ在ル人ニ命令シテ外國ニ在ル土地ニ關シテ
 契約ヲ履行セシムルコトアリ又更ニ屢起生スル場合ハ同
 一ノ事件ニ關シ同一ノ被告ニ對シ一ハ英國ニ於テ一ハ外
 國ニ於テ二箇ノ訴訟ヲ起ス如キ是ナリ蓋シ此ノ場合ニ於
 テ裁判所ハ或ル確定ノ規則ヲ活用シ原告ヲシテ其一方ヲ

解訴セシムルコトアリ

管轄權ナル語ハ既ニ前論ニ於テ屢用キル所ナリ蓋シ英國ニ於テハ二箇ノ意義ニ之ヲ用ウ其ノ一ハ能力ナル佛語ニ等シク裁判所ノ權力ニ適用スルモノニシテ乃チ法廷ハ云々ノ事ニ對シ又ハ云々ノ人ノ上ニ法權ヲ有スト云フカ如シ其ノ二ハ此ノ法權力ヲ執行スヘキ範圍ヲ指示スルモノニシテ例ヘハ法權ノ外ニ在ル人即チ管轄外ニ在ル人ト云フ場合ノ如キ是ナリ

上等裁判所ノ管轄權ハ英蘭全土ニ及フヘキモ蘇格蘭愛爾蘭「アイル、オブ、マン」海峽諸嶋及大英殖民地ニ及ハス尙ホ又法律ノ明文ナキトキハ海邊低水線外ニ及ハサルモノトス又議院ノ立法權ニ關シテ國土ノ區域ハ「三哩限」トシテ知ラ

レタル程限マテ及ホシ得ヘキコトニ付テハ未タ信任スヘキ定説ヲ舉クルヲ得サルヲ以テ彼ノ有名ナル女皇對「カイ」事件ニ於テ判事長「コックバーン」氏ノ語ヲ引用スルノ便ナルニ若カス曰ク他國ノ認諾ニ基キ且他國ノ權利ト抵觸セス沿岸三哩帶ヲ此ノ國ノ領地ト爲シ之ヲ貌列顛國ノ一部分ト認ムルコトヲ得ルトキハ議院ハ之ニ關スル立法權ヲ有スルコト論ヲ待タス何トナレハ法廷ノ執行スル裁判權ノ基礎ハ領地ノ上ニ存スレハナリ故ニ議院ニ於テ斯ノ如キ土地ニ對シテ立法權ヲ有スルハ復タ明カナリトス而シテ議院已ニ此ノ權ヲ執行スルトキハ此ノ國ノ裁判官タル者ハ其ノ義務上議院ノ制定ニ關スル法律ノ効力ヲ全カラシメサルヘカラス而シテ其ノ責ハ立法院ニ在テ存スル

カ故ニ立法院專ラ之ニ任セサルヘカラスト此ノ點ハ刑事
管轄權ノ部ニ於テ再論スル所アラシ

外國ニ在ル證人

民事訴訟ニ於テ最モ必要ナルハ管轄外ニ在ル證人ノ訊問
ヲ命スヘキ法廷ノ權力是レナリ而シテ其ノ目的トスル所
ハ訴訟事件ノ關係人ヲシテ法廷ニ於テ其ノ情實ヲ盡シ以
テ處罰付召喚狀ニ依リ管轄外ニ在ル證人ノ出頭ヲ強迫ス
ルコト能ハサルヨリ生スルノ不便ヲ成ヘク除去スルニ在
リ證人ノ訊問ニ二様アリ而シテ其何レノ方ヲ採ルヘキカ
ヲ定ムルノ權力ハ其ノ受理シタル法廷ノ擇ム所ニ任ス
第一ノ方法ハ證人ノ住居セル國ニ於テ或ル人ヲ撰テ宣誓

外國ニ在ル

證人ヲ訊問
ナルニ箇ノ
方法

ノ上訊問ヲ執行スルコトヲ委任スルニ在リ通常訊問及反
對訊問ハ本國ニ於テ之ヲ調整シ問答書ト爲シテ之ヲ該委
員ニ送付シ而シテ答書ハ委員ヨリ法廷ニ送ルモノトス
更ニ複雑セル場合ニ於テ其ノ事實ヲ問答體ニ陳述セシム
ルコト難ク殊ニ反對訊問ヲ必要トスルトキハ原被兩造ハ
夥多ノ費用ヲ辨シ其ノ證人ノ住居セル地ニ相談人及代言
人ヲ差添ヘ委員ヲ其ノ地ニ派出スルノ認許ヲ受クヘキモ
ノトス
對審始マリタルトキ該證人ヲ英國ニ於テ訊問スヘカラサ
ルノ充分ナル理由ヲ法廷ニ示スニアラサレハ此ノ願ヲ許
サス又法廷ニ於テモ證人ノ證據ハ爭點ノ判斷ニ緊要ナリ
ト認ムルニアラサレハ此ノ願ヲ許サ、ルナリ

遠行禁止狀

一千八百六十九年ニ於テ負債ノ爲ニ獄ニ繋クノ制ヲ廢シ
 從テ訴訟中ノ逮捕ト稱スルモノモ廢サレタル以來遠行禁
 止狀モ全ク不用トナリタリ遠行禁止狀トハ被告カ遠國へ
 出立スルヲ禁スル令狀ナリ
 然レトモ尙ホ此ノ令狀ヲ發スルコトヲ許ス場合アリ即チ
 裁判官ハ五十磅以上ノ訴訟ニシテ原告勝訴ノ理由アルコ
 ト明カナリト認メ被告ハ將ニ外國ニ行カントスル事實ア
 ルコトヲ信スルニ足ルヘキ理由アリテ且被告ノ不在ハ此
 ノ訴訟執行ニ付實際原告ノ不利ヲ來タスノ恐アル場合ニ
 限リ被告ノ遠行ヲ停ムル爲メ此ノ令狀ヲ發スルコトヲ許

ス如キ是ナリ
 被告ハ法廷ノ許可ナクシテ英國外ニ出テサル爲メ請求金
 額以内ノ保證金ヲ納ムルコトヲ得又裁判所ハ訴訟事件ニ
 付キ原告ノ不利トナル規定ヲ解釋スルハ極メテ嚴密ニシ
 テ假借スル所ナシ故ニ負債アリトノ單簡ナル事實ノミチ
 以テ充分ナル出訴ノ理由トスルニ足ラサルモノトス
 判決調印終レハ被告ハ直ニ解禁セラレ、ナリ何トナレハ
 訴訟手續ハ茲ニ終局ヲ告クレハナリ
 會社閉鎖ノ場合ニ於テハ裁判所ハ潛匿セル株主ヲ捕縛ス
 ルノ權力ヲ有ス是レ遠行禁止狀ヲ發シ得ルノ權力ト稍同
 シキモノナリ

歲入法

一千八百五十三年ノ發布ニ係ル租稅規則ノD號表ニ依リ
所得稅ハ左ノ類ニ從ヒ上納スヘキモノトス

第一總テ合衆王國內若クハ其ノ他ノ國ニ在ル所有財產ヨ
リ合衆王國內ニ住居スル各人ノ年々收得スル利益金ニ
對シ

第二合衆王國內ニ住居スル人ニ屬スヘキ年益金ニシテ合
衆王國內若クハ其ノ他ニ於テ營ム職業商業ヨリ生スル
モノニ對シ

第三總テ英國臣民若クハ英國臣民タラサルモ又合衆王國
内ニ住居セサルモノト雖トモ合衆王國內ニ在ル各種ノ
財產若クハ合衆王國內ニ於テ營ム職業商業等ヨリ年々

所得稅ヲ納ムヘキ人

得タル利益金ニ對シ

故ニ之ヲ略言スレハ所得稅ハ合衆王國內ニ住居スル各人
ヨリ其ノ所得全額ニ付テ徵收ス又合衆王國內ニテ利益ヲ
有スル各人ヨリ其ノ利得額ニ付テ徵收スルモノナリ

外國配當金

大英國内ニ住居スル人ニ拂フヘキ外國配當金年金又ハ他
ノ年々支拂フヘキ金額ニ付テノ所得稅ハ此等ノ配當金若
クハ年金支拂ヲ托セラレタル者ヨリ直ニ英國銀行ニ拂納
ムヘキモノトス

外國會社

外國ノ貿易商社ニ關シテ頗ル困難ノ場合起ルコトアリ而
シテ之ニ關スル條例ハ左ノ如ク解釋ヲ下セリ
法律ニ從ヒ設立シ且英國ニ於テ登錄シタル會社ニシテ總
テノ業務ヲ外國ニ於テ行ヒ其ノ利益モ亦外國ニ於テ收得

シタルモノト雖トモ其ノ業務ヲ支配スル者英國ニ在ルノ
 一事實アレハ前述第二ノ場合ニ該當スルモノトス
 會社ニシテ外國ニ設立シ英國内ニ代理店ヲ有スルトキハ
 其ノ英國ノ代理者カ得タル利益ニ對シテハ第三ノ場合ヲ
 適用スルモノトス
 代理者カ英國内ノ株主ニ對シ會社全體ノ利益ヲ配當スル
 トキハ其ノ配當金ノ中外國ニテ收得シタル利益ニ對スル
 分ニ關シテモ尙ホ前項ノ末段ヲ適用スルモノトス
 右ノ定義ニ依レハ外國ニ在ル英人ニシテ外國ニ於テ收得
 シタル金員ヲ英國龍動銀行者ニ送致スルモノハ其ノ送金
 ニ對シテ所得税ヲ拂フヲ要セサルモノトス
 海關稅ノ徵收法ハ次章ニ於テ之ヲ論スヘシ

遺囑認定稅
 ノ性質
 エスト
 一氏
 說
 コ
 依
 ル

遺囑認定遺贈并ニ相續ニ付テノ稅ニ關シテハ再ヒ定住法
 ニ論及セサルヘカラス
 遺囑認定稅ハ死者ノ動產ヲ集收シ負債ヲ消却スル爲メ政
 府ヨリ財産管理人ニ與ヘタル保護ノ價值ト看做スコトヲ
 得ヘシ
 集收スヘキ財産ノ所在地ハ其ノ課稅ニ必要ナル論據ニシ
 テ遺產者ノ定住地ハ此ノ問題ニ干與セサルモノナリ
 英國内ニ在ル死者ノ動產ハ遺囑認定書又ハ遺產管理狀ニ
 依リ法廷ノ保護及認許ヲ得タル至當ノ人ニアラサレハ之
 ニ干渉スルコトヲ許サス若シ犯ス者ハ嚴刑ニ處スヘキモ
 ノトス外國ニ於テ死シタル者ノ遺囑認定許可ニ付テハ後
 章ニ論スル所アルヘシ本章ニ於テハ遺囑者ノ國籍及住居

遺贈税ノ性質

ニ論ナク英國ニ在ル總テノ財産ニ付テハ遺囑認定税ヲ拂ハサルヘカラスト云フヲ以テ足レリトス
代理者ニ直接ニ認許シタル權力ニ依リ其ノ所有ニ歸スヘキ總テノ財産ニ對シテハ其ノ何レノ地ニ在ルヲ問ハス遺囑認定税ヲ納ムヘキモノトス
遺贈税ハ死者ノ生者ニ譲リタル動産ノ引渡ニ對シテ政府ニ收ムヘキ税ヲ云フ此ノ場合ニ於テ疑問ヲ決スヘキハ財産ヲ贈與スル人ノ定住地ノ法律ニ依ルヘキモノニシテ必スシモ財産所在地ノ如何ヲ論スルヲ要セス「ウエストレーキ氏ハ此ノ規則ヲ左ノ如ク釋示セリ凡ソ動産ヨリ生スル通常遺贈及遺留財産遺贈ノ税ハ遺贈者其ノ臨終ノ際合衆王國內ニ定住シタルトキニノミ限リ拂フヘキモノトス而

相續税ノ性質

シテ受贈者ノ定税ハ論點ニ必要ナキナリ該税ハ遺贈物并ニ遺留財産ノ全額ニ對シテ拂フヘキモノニシテ其ノ遺産ヲ集收スルニ用井タル遺囑認定書及遺産管理狀ノ何タルヲ問ハサルナリ
相續税ハ其ノ性質遺贈税ニ類シ死者ヨリ生者ニ譲リタル動産ノ引渡ニ對シテ政府ニ納ムヘキ税ナリ然レトモ引渡シタル財産ハ死者ノ財産ニアラスシテ死者ハ只タ其ノ生存中之ニ關シテ利益ヲ有セルニ止ルヲ以テ其ノ死去ニ依リ他人ノ利益之レニ代テ生スルナリ
以上ノ場合ニ於テ新ニ利益ノ生スル人ノ所有權ハ其ノ財産確定ニ基クモノナリ故ニ遺産者ノ定住地ハ問題ニ關セサルモノトス

遺贈税ノ場合ノ如ク相續者ノ定住地モ亦論點ニ關係ナシ
 又財産ノ確定人即チ原所有者ノ定住モ均シク論點トスル
 ニ足ラサルハ確乎理由アルカ如シ故ニ此ノ税ニ關スルノ
 議論ハ財産確定書ノ性質ニ由リ決スヘキモノニシテ納税
 義務ヲ制定シタル條例ハ大貌利顛國內ノ確定書ニ適用ス
 ヘキモノト解釋セリ

確定書即チ遺囑書結婚契約書又ハ生者相互ノ間ニ於テ動
 産ノ讓渡ヲ爲シ若干人ノ便益ノ爲メ受托者ニ引渡シタル
 モノハ受托者ニシテ直ニ合衆王國內ノ裁判所ノ管轄權ニ
 服従スルトキハ之ヲ英國内ノ確定書ト謂フ

前項ノ制限ヲ必要トスル理由左ノ如シ即チ裁判所ノ干涉
 ナ要スヘキ争訟ニシテ定書ニ關シタルコトニ於テハ受托

者ヲ以テ對手人トセサルヘカラス然レトモ該法廷ノ管轄
 權ニ服従セサル以上ハ決シテ對手人ト爲スヘカラス而シ
 テ對手人ト爲ス能ハサルトキハ法廷ハ事件ヲ裁決スル能
 ハサルナリ

前ニ記述シタル特別ノ場合ニ於テ成文法律ニ依ルモ
 ノハ此ノ限ニ在ラス仍ホ第四十六丁ヲ參考スヘシ

例ヘハ英國ノ受托者カ有スル外國資産ノ利益ヲ相續スル
 ニ於テハ其ノ税ヲ拂フヘキモノト定メタリ「サー、ジヨルジ、
 ゼスセル」氏曰ク此ノ動産ハ英國受托者ノ掌中ニ在ルモノ
 ナレハ英國ニ於テ訴ヲ起スニアラサレハ之ヲ受托者ヨリ
 取戻スコト能ハス是レ相續税上納ニ關シテ眞正ノ理由ナ
 リトス乃チ財産ヲ取戻サント欲スレハ必ラス英國ニ來ラ
 サルヘカラスト

英國法廷ニ
服從スヘキ
受托者

又受托者ハ或ル他ノ國ノ法律ニ依リ其ノ國ノ裁判所ニ服從スルコトアルヘシ然レトモ是レ敢テ差異ヲ生スルコトナシ何トナレハ相續税ハ英國政府ニ對シ拂フヘキカノ間ニ對シテハ其ノ答辨ハ受托者已ニ英國裁判所ノ管轄權ニ服從スル以上ハ(假令純全ナラサルモ)固ヨリ然リト答フヘケレハナリ

然ラハ如何ナル受托者ハ英國裁判所ニ服從スヘキヤヲ決スルニハ復ヒ民事訴訟管轄權ノ問題ニ論移セサルヘカラス而シテ左ノ答案ヲ得ヘシ

第一英國内ニ在ル者

第二英國外ニ在リト雖トモ英國内ニ定住若クハ平常居住スル者

不動産相續

第三特別規則ニ依リ英國ノ法律ニ從ヒ執行スヘキ證書ニ付テ信託執行(英國内ニ在ル財産ニ關シテ)ノ訴訟起ル場合ニ際シテ外國ニ在ル者

以上ノ規則ニ付テ特別ノ變則及例規ヲ舉示スルノ必要アルヲ見サルナリ

不動産相續ニ關シテハ其ノ所有財産英國内ニアレハ租税ヲ拂フヘキモ英國外ニ在ルトキハ之ヲ拂フヘキ限ニ在ラスト知ルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テ遺囑又ハ財産確定ノ信託ヲ受ケタル者ハ特別ニ英國裁判所ノ管轄權ニ從フヘキモノトス受托者英民ニシテ不動産ハ外國ニ在ルトキハ英國裁判所ハ通則ニ依リ管轄權ヲ有セサルモノトス故ニ不動産ノ場合ハ曩キニ掲ケタル通則ニ從フヘキモノナリ

原籍アル州ノ法律ニ依リ裁判ナシ
 テ其臣民ノ他方ニ依リ裁判ナシ
 以テ其約ニ依リ居住民ニシテ成ル
 同條ニ示スル所ニ依リ國外ニ立
 法ニ依リ其住民ノ地ニ於テ一
 ノ住民トシテ其地ニ於テ一
 市モ其内ニ合シ其地ニ於テ一
 人ヲ其民トシテ其地ニ於テ一
 「フ」ニシテ其民トシテ其地ニ於テ一
 ハ犯罪ノ後ニシテ其地ニ於テ一
 トムノ理由ニシテ其地ニ於テ一
 前ノ條ニシテ其地ニ於テ一
 ハ利ノ缺キタルヲシテ其地ニ於テ一
 モ引渡シ得ルニシテ其地ニ於テ一
 引渡アリ然レトモモ力ハ成ル
 スト引渡アリ然レトモモ力ハ成ル
 既ニ審理ヲ終ヘ放免セラレハ
 引渡サルモノトス但シ或ル他ノ
 ルトキハ審理結了シ宣告執行ヲ
 終ル迄引渡シテ停止ス而

シテ引渡シノ請求ニ附帶スル證據ハ其ノ引渡シ請求ヲ受
 ケタル國ニ於テモ亦犯罪トナルニ足ルヘキモノタラサル
 ヘカラス
 有罪ト認めラレタル者其ノ逃匿セル國ノ法律ニ依リ期滿
 ナテテ不論罪ニ屬スルトキハ引渡シテ爲サ、ルモノトス
 國事犯ニ關スル犯罪ニ付テハ特ニ例外ト爲シ其ノ有罪ト
 認めラレタル者ニ於テ國事犯ノ嫌疑ニ因リ審理ヲ開カン
 爲メ請求シ來レル旨ヲ示ストキハ引渡シテ許サ、ルヘシ
 二箇國若クハ三箇國以上ヨリ引渡シ請求アルトキハ其ノ
 最モ重キ罪ヲ犯シタル國ニ引渡スヘシ
 必要證據ハ二箇月以内ニ提出スヘシ然ラサレハ其ノ有罪
 ト認めラレタル者ヲ放免ス又引渡シテ爲シタルトキハ以

殖民地ニ於
ケル逃亡罪
人

前ノ犯罪又ハ他ノ理由ニ因リ之ヲ引戻シタル國ニ留メ置
クコトヲ得ス但シ其ノ罪人寄寓ノ國ニ歸ルノ機會ヲ有シ
ナカラ之ヲ利用セサルカ又ハ一旦該國へ歸ルノ後再ヒ其
ノ本國ニ赴クトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ條ハ引渡シ後ニ
犯シタル罪ニ適用セス
女皇ノ領地内ノ或ル地方ニ逃匿シタル罪人ニ關シテハ一
千八百八十一年逃亡罪人條例ノ規定ニ依リ女皇陛下ノ領
地内ノ或ル地方ニ於テ叛逆海賊又ハ其ノ所犯地ノ法律ニ
依リ十二箇月以上ノ重懲役又ハ之ヨリ重キ刑ニ處スヘキ
罪ヲ犯シタル者他ノ地方ニ於テ發見セララルトキハ此ノ
條例ニ規定シタル官司ヨリ發シタル逮捕狀ヲ以テ之ヲ捕
縛護送スヘキモノトス

或ル犯罪ニ付テ告發サレ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者
ヲ互ニ引渡スヘキ爲メ英國ノ締結シタル各國條約ハ左ノ
如シ

奧太利國一千八百七十四年

- 一 謀殺罪又ハ謀殺未遂罪
- 二 殺人罪
- 三 貨幣偽造變更ノ罪偽造變更シタル貨幣ヲ流通行
使シタル罪
- 四 偽造變更シタルモノヲ復ヒ偽造變更シタル罪(紙
幣又ハ他ノ證券官私文書ヲ偽造變更シタルモノヲ
包括ス)
- 五 騙取ノ罪又ハ竊盜罪

- 六 詐偽ヲ以テ金錢物件ヲ得タル罪
- 七 倒産ノ法律ヲ犯シタル罪
- 八 物品受託人銀行者代理人仲買人財産管理人會社ノ頭取又ハ社員若クハ役員ノ詐偽罪ヲ犯シ現行法律ヲ以テ犯罪者ト定メタル者
- 九 強姦罪
- 十 誘拐罪
- 十一 子女掠略罪
- 十一(イ) 畧取及脅迫監禁ノ罪
- 十二 強盜罪
- 十三 放火罪
- 十四 暴行脅迫ヲ加ヘ強奪シタル罪

- 十五 文書又ハ他ノ方法ニ由リ金錢ヲ貪ル意志ヲ以テ脅迫シタル罪
- 十六 海上ノ船舶ヲ沈没破壊スル罪及其ノ未遂犯
- 十七 生命ヲ毀損シ又ハ身體ニ殘酷ノ傷害ヲ加フルノ意志ヲ以テ海上船舶内ニ於テ毆打創傷スル罪
- 十八 海上船舶内ニ於テ二人以上共謀シテ船長ノ權力ニ抵抗シ若クハ抵抗セントスル罪
- 十九 偽證罪又ハ偽證教唆ノ罪
- 二十 故意ヲ以テ財産ヲ毀損スル罪但シ其ノ犯罪ハ公訴シ得ヘキモノタルヲ要ス
- 二十一 前條ノ罪目ニ關スル事前事後ノ從犯ノ罪但シ其ノ從犯ハ締約國雙方ノ法律ニ依リ罰シ得ヘキ

モノタルヲ要ス

白耳義國一千八百七十六年

罪目ハ前ニ同シ但シ十一項(イ)ヲ除去シ更ニ左ノ目ヲ加フ

二十二 國際法ニ依ル海賊罪

二十三 惡意アル毆打又ハ猥褻ノ強迫罪

又九項ニハ左ノ目ヲ加フ

十歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル罪

十歳以上十二歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル罪

婦女ニ對シ猥褻ノ強迫ヲ爲シタル罪又ハ十二歳未

滿ノ女子ヲ姦淫セント企テタル罪

一千八百七十七年ニ至リ左ノ目ヲ加ヘタリ

二十四 婦女ヲ墮胎セシムルノ意ヲ以テ藥料ヲ整調

シ又ハ機械ヲ使用シタル罪

二十五 重婚罪

二十六 子女ヲ放棄シ又ハ之ヲ見棄テ又ハ之ヲ不法

ニ留置シタル罪

二十七 鐵道汽車内ニ於テ人ニ危害ヲ加フルノ意ヲ

以テシタル行爲ノ罪

二十八 物件金錢高價ノ證券又ハ其ノ他ノ財産ニシ

テ強竊盜又ハ騙取シ得タルユトヲ知りテ之ヲ受ケ

タル罪

「ブラジル」國一千八百七十二年

其ノ條約内ニアル罪目ハ一項乃至十八項二十一項及

二十二項トス

子女殺傷罪ハ此ノ條約ニアルモ其ノ未遂罪ハ特ニ之ヲ刪除セリ

丁抹國一千八百七十三年

一項乃至十八項(十一項イ)ヲ除ク及二十二項

一項ノ内ニ謀殺共犯罪ヲ追加セリ

佛蘭西國一千八百七十六年

一項乃至十六項十八項乃至二十一項二十五項乃至二十八項

海上ノ犯罪ニ左ノ項ヲ追加ス

甲英國船又ハ佛國船ノ水夫カ他ノ英國船又ハ佛國船ニ對シテ爲シタル掠奪又ハ不法ノ暴行又ハ定規ノ

免狀ヲ備ヘサル外國船ノ水夫ニシテ英國船又ハ佛

國船其ノ水夫及其ノ荷物ニ對スル掠奪又ハ不法ノ

暴行ノ罪

乙或ル船ノ水夫又ハ水夫ニアラサル者其ノ船舶ヲ海

賊ニ渡ス罪

丙或ル船ノ水夫又ハ水夫ニアラサル者詐僞又ハ暴行

ヲ以テ其ノ船舶ヲ掠奪スルノ罪

左ノ目モ亦此ノ條約内ニ在リトス

二十九 墮胎罪

三十 猥褻ノ侵害又ハ假令暴行ヲ加ヘサルモ十二歳

未滿ノ幼女ニ對スル猥褻ノ行爲ノ罪

三十一 重大ノ危害ヲ加ヘ身體ヲ傷害シタル罪

三十二 法官警察官及其ノ他ノ官吏ヲ侵害スル罪

三十三 締約國双方ノ法律ニ依リ犯罪ヲ構成スルニ

足ルヘキ方法ヲ以テ奴隸ヲ賣買スル罪

日耳曼國一千八百七十二年

一項乃至十八項(イ)ヲ除ク及二十一項

「グアテマラ」國一千八百八十五年

一項乃至二十二項二十四項乃至二十八項三十一項乃

至三十三項

九項ハ白耳義國條約ト同シ

十六項ハ海上船舶ヲ沈没破壊スル爲メニ共謀スル罪

ヲ含ム

又左ノ目ヲ追加セリ

三十四 適法ノ官許ヲ受ケスシテ貨幣偽造ニ使用ス

ル諸道具及機械ヲ其ノ情ヲ知テ製造スル罪

「ヘイナ」國一千八百七十四年

一項乃至二十二項

畧取誘拐スルノ罪ハ十一項(イ)ニ入ラス

十六項「グアテマラ」國條約ニ同シ

伊太利國一千八百七十三年

一項乃至十八項及二十一項

二十二項ハ左ノ如ク解釋スヘシ

國際法ニ依リ海賊罪トハ締約國ノ臣民ニアラサル

者海岸又ハ遠洋ニ於テ掠奪ヲ恣ニシ其ノ引渡シヲ

請求シタル國ノ市民ヲ傷害シタルトキ又ハ引渡シ

ヲ請求シタル國ノ臣民海賊ヲ爲シ締約外第三者ノ國ニ加害シタル者引渡シ請求ヲ受ケタル締約國ノ境域内ニ在リテ未タ其ノ國ノ審理ニ從ハサルモノヲ云フ

「ルキゼンブルク國一千八百八十年

一項乃至十五項十九項乃至二十一項二十三項乃至二十五項三十一項三十二項及三十四項

九項ハ白耳義國條約ニ同シ

和蘭國一千八百七十四年

一項乃至九項十三項十九項(僞證教唆罪ヲ除ク)及二十一項

魯西亞國一千八百八十六年

一項乃至十九項二十一項二十二項二十四項三十一項及三十三項

九項ニ左ノ目ヲ加フ

十六歳未満ノ女子ヲ姦淫シタル罪又ハ其ノ未遂罪

猥褻ノ侵害

十六項ハ海上船舶ヲ破壊スル爲ニ共謀シタル罪ヲ含ム

又左ノ如キ通款アリ

規約外ノ犯罪ト雖トモ締約國雙方ノ現行法律ニ依

リ引渡ヲ許可スルヲ得ヘキモノナルトキハ引渡シ

請求ヲ受ケタル國ノ認諾ニ依リ之ヲ許可スルヲ得

ヘシ

「サルバドル」國一千八百八十一年

「グアテマラ」國條約ニ同シ

西班牙國一千八百七十八年

一項乃至二十八項三十一項乃至三十四項

九項ハ白耳義國條約ニ同シ

瑞典國及諾威國一千八百七十三年

一項乃至十八項十一項(イ)ヲ除ク及二十一項

瑞西國一千八百八十年

一項乃至十五項十九項乃至二十一項

十一項(イ)ハ脅迫監禁罪ヲ除ク

「トンガ」國一千八百七十九年

「トンガ」國ニ在ル英國臣民ハ治外法權ヲ特有ス

英國境域内ニ在ル「トンガ」國臣民ハ謀殺罪又ハ謀殺未遂罪并ニ左ノ諸罪ニ對シ引渡ヲ爲スヘキモノトス
騙取罪又ハ竊盜罪
詐譌倒産ノ罪
偽造罪

亞米利加合衆國一千八百四十二年

謀殺罪又ハ謀殺未遂罪并ニ左ノ諸罪アリト認めタル者ハ之ヲ引渡スヘキコトヲ相互ニ約諾セリ

海賊罪

放火罪

強盜罪

偽造罪

偽造紙幣ノ行使罪

「ウルグワエ」國一千八百八十四年

一項乃至十四項十六項乃至十八項二十項乃至二十八項三十一項及三十三項

九項ハ白耳義國條約ニ同シ

二十項ハ一箇年以上ノ監禁ヲ以テ罰スヘキ犯罪ニ限ルモノトス

二十八項ハ英貨二百磅以上ノ價值アル物品ヲ得タルトキニ限ルモノトス

三十一項ハ其ノ創傷ニ因リ不治ノ疾病ヲ醸シ又ハ自働スヘカラサルニ致リ又ハ肢體機關ヲ殘虧喪失セシメタル場合ニ限ルモノトス

本問題ニ關
スル理論ノ
大略

假定ノ證例

第二節 英國外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ對スル裁判管轄權

立法ノ原則ニ依レハ人ハ暫時ニテモ其ノ現ニ在留スル國ノ法律ニ從フヘキモノニシテ其ノ國ニ在ル間ハ須臾モ其ノ法律ノ羈絆ヲ免レサルモノトス例ヘハ茲ニ英人アリ「カレイ」ヲ出發スルニ際シ偽造罪ヲ犯シタリトセンニ是レ佛國法律ニ對スル罪ニシテ犯罪人同國內ニ於テ逮捕セラレタルトキハ其ノ法律ニ依テ審判懲罰セラレヘキモノトス「若シ後日ニ至リ此ノ犯罪人ヲ西班牙國ニ於テ發見スルトキハ之ヲ佛國ニ引渡スヲ至當トス然レトモ若シ英國内ニ於テ發見スル場合ニ於テハ自國ノ臣民ニ對スル引渡シ請

求ニ應スルコトヲ要セスト謂ヘル普通ノ原則此ノ原則ハ英佛條約中ニモ記載セリニ依リ英國ハ其ノ引渡シヲ拒絕スルヲ得ヘシ

以上記載スル二個ノ理論即チ立法ノ原則ト罪人引渡シノ原理ト相俱ニ存立シ以テ國內刑法并ニ國際刑法ノ兩者ヲシテ同時ニ其ノ作用ヲ有セシムルカ故ニ制裁ノ効力ニ於テ大ニ其ノ完全ヲ缺クコトナキヲ得ス蓋シ一方ニ於テ佛國ノ法律ハ該假定ノ偽造犯罪者ニ對シ其ノ効力ヲ及ホスヲ得ス何トナレハ犯罪者ハ已ニ同國政府ノ領地内ニ在ラスシテ英國内ニ在ルヲ以テ當然ニ其ノ引渡シヲ請求スルヲ得サレハナリ又他ノ一方ニ於テハ英國ノ法律ハ此ノ偽造犯罪者ニ其ノ効力ヲ及ホスヲ得ス何トナレハ英國法律

國會ノ全能
權ト雖トモ
此ノ難トモ
處理スルニ
不充分ナル
コト

ハ他國政府ノ保護ノ下ニ在ル英國臣民ノ行爲ヲ拘束セザルヲ以テ其ノ通例トスレハナリ

然レトモ茲ニ更ニ一ノ政治上ノ說アリ即チ國會^{サムニボテンス}全能權ノ說是ナリ蓋シ全能トハ其ノ管轄疆域内ニ於テ全能ナルノ謂ニシテ此ノ最高權ハ稍前二說ノ所缺ヲ補充スルニ足ルヘシ例ヘハ若シ我カ英國立法者ニ於テ至當ト思惟スルトキハ明日法律ヲ制定シテ從來「モン」ト「カーロ」ニ於テ賭博罪ヲ犯セル者ニ嚴刑ヲ加フルコトヲ得ヘシ而シテ裁判所ハ此ノ法律ヲ執行スルノ義務ヲ免レサルモノトス斯ノ如ク外國ニ於ケル英國臣民ノ犯罪ヲ罰スル爲ニ法律ヲ設クルハ英國々會ノ權内ニ在ルコト明ナリト雖トモ斯ノ如キ法律ハ缺席裁判ヲ爲シ其ノ罰トシテ法律ノ保護ヲ與ヘサル

場合ヲ除ク外ハ完全ナル制裁ヲ有セサルナリ何トナレハ若シ罪人ニシテ仍ホ外國ニ在ルトキハ之ヲシテ裁判所ニ出頭セシムルノ道アルコトナク且假令法律ニ依テ缺席裁判ヲ行フトモ裁判所ハ其ノ言渡ヲ執行スルノ方便ナカルヘケレハナリ

加之各國條約ノ通規ニ依レハ罪人引渡シハ其ノ引渡ノ請求ヲ爲ス國ノ版圖内ニ於テ犯セル罪ニ限ルモノトセリ故ニ假令英國ノ法律ヲシテ外國ニ於テ犯セル偽造罪ヲ英國内ニ處罰スルヲ得ルモノタラシムルモ西班牙國ハ佛國「カレイ」ニ於テ偽造罪ヲ犯セル者ヲ英國ニ向テ引渡スコトヲ拒絕スルヲ得ヘシ

是ニ依テ之ヲ觀レハ以上陳述スル缺點ノ幾分ヲ補充セン

外國ニ於テ
犯シ英國ニ
於テ處罰シ
得ヘキ罪目
ノ重大ナル
モノ
一千五百四
十三
年
反
逆
罪

ト欲スルトキハ先ツ罪人引渡法ヲ大ニ改正セサルヘカ
サルナリ

英國ノ法律ハ外國ニ於ケル犯罪ノ内特殊ノ性質ヲ有スルモノ若クハ重大ノモノニ限り之ヲ處理セントスルナリ例ヘハ國家并ニ君主ニ對スル罪及殺人罪ノ如キ其ノ重要ナルモノナリ

此ノ問題ニ關スル成文法律ノ大意ヲ左ニ記述セン

一千五百四十三年ニ於テ議院ノ議決シタル王國版圖外ニ於ケル反逆罪審判條例ニ左ノ言ヲ掲ケタリ曰ク王國版圖外又ハ其ノ領地外ニ於テ犯シタル或ル種類ノ反逆罪及其ノ陰蔽藏匿罪ニ關シテ多少ノ疑問ヲ生シ或ハ此等ノ罪ハ此ノ國ノ慣習法ニ依リ之ヲ英國内ニ於テ審理判定スヘカ

ラスト論スルモノアルカ故ニ茲ニ此等ノ犯罪ハ總テ王國
 裁判官ノ審判ニ屬スヘキモノナルコトヲ確定スト
 蓋シ右ノ疑問ハ此ノ時ヨリ九箇年前ニ議決シタル條例ニ
 起因セリ該條例ハ大反逆罪ニ關スルモノニシテ外國ニ在
 ル罪人ハ其ノ罰トシテ法律ノ保護ヲ受クルコト能ハサル
 コトヲ規定セリ又此ノ一千五百三十一年ノ條例并ニ次代
 ニ至リ一千五百五十二年同伴ニ付議決シタル條例ノ條項
 中ニハ總テ王ノ臣民并ニ移住民其ノ他ノ者ノ反逆ヲ企ツ
 ルトキハ云々ト記セリ
 其ノ後各種ノ反逆罪ニ關シ制定シタル法律少シトセス而
 シテ此等ノ法律ハ皆國內并ニ外國ニ於テ犯シタル罪ニ適
 用スルモノトス

一千七百九十七年抗抵教唆罪

一千七百九十七年反亂ノ爲ニ誓テムルコト

一千八百十二年

惡意ヲ以テ水夫若クハ兵卒ヲ教唆シテ其ノ職務ヲ怠ラシ
 メ又ハ君主ニ對スル臣屬義務ヲ擲棄セシメント謀リ或ハ
 之ヲ煽動シテ何等抗抵反逆ノ罪ヲ犯サシメントスル者ハ
 其ノ犯罪ノ場所ハ英國ニ於テスルト又ハ海上ニ於テスル
 ニ拘ラス重罪犯ヲ以テ處罰スヘキモノトス
 之ト均シク暴動反亂ヲ起シ治安ヲ妨害シ又ハ之ニ類スル
 目的ヲ以テ誓ヲ爲シ若クハ人ヲシテ誓ヲ立テシメ又ハ誓
 ニ類スル盟約ニ加入シ若クハ人ヲシテ加入セシメタル者
 モ其ノ犯罪ノ場所英國内ニ在ルト海上ニアルトナ問ハス
 均シク重罪ヲ以テ論セラレヘシ
 此ノ條規ハ後之ヲ擴張シテ反逆罪謀殺罪又ハ死刑ニ當ル
 ヘキ他ノ重罪ヲ犯スコトヲ約スル誓ニモ及ホスニ至レリ

一千八百二
年官吏ノ犯罪

外國ニ在ル官吏ニシテ其ノ職務ヲ盡サンカ爲メ又ハ其ノ職務ヲ盡サンカ爲メト稱シテ犯シタル罪ハ英國ニ於テ裁判シ英國ノ法律ニ依テ之ヲ罰スヘキモノトス而シテ有罪ト宣告セラレタルトキハ文武官其ノ他何等ノ官職ニ就クコトヲ得ス

犯罪ノ現場ニ於テ證據物ヲ拾收スル爲メ特別ノ規定ヲ設ケタリ

一千八百六
十一年
貨幣鑄造ニ
關スル犯罪

海軍提督裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタル英國貨幣ニ關スル罪ハ罪人何レノ地ニ於テ逮捕セラレ、トモ英國ニ於テ審判スヘキモノトス而シテ或ル場合ニ於テハ此ノ法律ハ外國ノ貨幣ニモ適用スルコトアリ

一千八百六
十一年

一千八百六十一年ノ法律ハ英國刑法ノ大半ヲ含入スルモ

十一年
謀殺罪并ニ
殺人罪

ノナリ蓋シ此ノ法律ニ依ルトキハ外國ニ於ケル謀殺罪若クハ殺人罪ノ場合ニ於テ其ノ犯罪地ハ女皇ノ領地内ニ在ルト領地外ニ在ルトヲ問ハス又殺サレタル者ハ女皇ノ臣民ナルト否ニ拘ラス苟モ犯罪人ニシテ女皇ノ臣民ナルトキハ謀殺罪ト殺人罪トヲ論セス又正犯ト從犯トニ拘ラス英蘭又ハ愛爾蘭ノ内犯罪人ヲ逮捕シタル地又ハ犯罪人ノ監留セラレ、地ニ於テ審判スルコトヲ得ルモノトセリ又死去若クハ死去ノ原因英蘭或ハ愛爾蘭ニ在ルトキハ其ノ犯罪ノ審判ニ關シ之ト同一ノ條項ヲ制定セリ

一千八百六
十九年
倒産者ノ犯
罪

左ノ罪目ハ負債監禁ヲ廢シタル條例(一千八百六十九年負債者條例)ノ制定スル所ナリ曰ク倒産ノ宣告ヲ受ケタル者又ハ示談償却ノ場合ニ至リタル者ニシテ請願書捧呈若ク

ハ償却着手ノ後又ハ之ニ先ツコト四箇月内ニ英國ヲ去リ
其ノ財産ノ内債主ニ分配スヘキ部分二十磅以上ヲ携帯ス
ルトキ或ハ之ヲ携帯シテ國ヲ去ラントシ若クハ其ノ準備
ヲ爲シタルトキハ重罪ヲ以テ論スヘシ但シ陪審人ニ於テ
其ノ不正ノ意志ヲキコトヲ認定スルトキハ此ノ限ニ在ラ
スト

一千八百七
十年
違法服役

此ノ犯罪モ條約中倒産法ニ對スル罪ト云ヘル條項ニ準シ
引渡シヲ爲スヘキ罪目ノ内ニ編入スルヲ得ヘキモノナラ
ント雖トモ實際此ノ點ニ關シテ多少ノ疑問アルヲ免レス
左ノ事項ハ一千八百七十年外國兵役服役條例ニ依リ違法
服役ノ名目ヲ以テ犯罪ト制定セリ
一、英國臣民ニシテ女皇ノ領地内若クハ領地外ニ於テ女皇

ノ許可ヲ請ハスシテ陛下ト平和ヲ保ツ某外國ト交戦中
ノ某外國陸海軍ノ官職又ハ業務ニ就キ若クハ就ンコト
ヲ承諾スルコト
二、英國臣民ニシテ斯ノ如キ官職又ハ業務ニ就ク目的ヲ以
テ女皇ノ許可ヲ請ハスシテ女皇ノ領地ヲ去リ若クハ去
ラシカ爲ニ乗船スルコト
三、英國臣民又ハ英國臣民ニアラサル者ト雖トモ英國領地
内ニ於テ人ヲ誘導シテ前項ノ罪ヲ犯サシムルコト
四、何人ニテモ前記ノ官職又ハ業務ニ就カシメンカ爲ニ事
實ヲ曲庇シ他人ヲ誘導シテ英國領地ヲ去ラシメ若クハ
領地内ニ於テ乗船セシムルコト
五、船長又ハ船舶ノ持主ニシテ女皇ノ許可ナク領地内ニ於

一千八百七十六年
八月十六日
ル犯人ニ關スル犯罪

テ前記第一項并ニ第二項ノ犯罪者或ハ第四項ノ犯罪者
ノ爲ニ誘導サレタル者ヲ乗船セシメ若クハ乗船セシム
ルコトヲ約シ若クハ現ニ之ヲ船中ニ搭載スルコト
其他違法造船違法遠征及違法分捕ノ名目ニ屬スル行爲モ
若シ女皇ノ領地内ニ於テ犯シタルモノナルトキハ犯罪ト
看做スヘキモノトス
全部若クハ半ハ英國臣民ニ屬スル船舶又ハ船員ノ半數以
上英國臣民ナル船舶ヲ用井沿岸三「リーグ」二「リーグ」ハ三海
哩内ニ於テ或ル特殊ノ方法ヲ以テ戰時禁制品ノ賣買及密
貿易ニ從事スル者及英國臣民ニ屬セサル船舶ヲ以テ沿岸
一「リーグ」内ニ於テ右ノ業ヲ營ム者ハ罰金ニ處シ或ル場合
ニ於テハ船舶ヲ併セテ沒收スルコトヲ得但シ何人ト雖ト

モ外國ノ官職ニ在ル者ハ該船中ニ在ルモ之ヲ留置スルコ
トヲ得サルモノトス
全部又ハ半ハ英國臣民ニ屬スル船舶若クハ船員半數以上
英國臣民ナル船舶ニシテ規定ノ信號ヲ受ケナカラ進行ヲ
停ムルコトヲ肯ンセスシテ追捕ニ會ヒ逃走中擒獲ヲ免レ
ンカ爲メ其ノ荷物ノ幾分ヲ海中ニ投棄シ若クハ破毀シタ
ルトキハ同船舶ハ沒收ノ宣告ヲ受クヘキモノトス
密貿易ノ防止ニ從事スル船若クハ歲入局ノ人員又ハ小舟
ニ向テ發砲スル者ハ重罪ヲ以テ論ス
總テ犯罪ト定メラレタル行爲ニシテ何レノ國ニモ屬セサ
ル水上ニ於テ犯シタルトキハ大海ニ於ケル犯罪ト看做シ
現ニ犯罪人ノ發見サレタル土地又ハ犯罪人ヲ引致シタル

土地ニ於テ審判スヘキモノトス

奴隸賣買ニ關スル法律并ニ奴隸賣買ヲ禁止センカ爲メ外
國ト締結シタル條約ヲ執行スル爲メノ法律ハ一千八百七
十三年ニ至テ確定セラレタリ該法律ハ奴隸賣買ノ嫌疑ア
ル船舶ノ檢視逮捕裁判所ノ構成船舶并ニ奴隸ノ取扱方及
犯罪人并ニ從犯人ノ審判處罪ニ關スル事項ヲ制定セリ
海賊罪ハ數多ノ法律ニ於テ之ヲ規定シ且釋義ヲ下セリ然
レトモ書冊ノ記スル所ノ通説ニ依レハ海賊罪トハ陸地ニ
於テ重罪トナルヘキ強奪暴行ノ罪ヲ海上ニ於テ犯スヲ謂
フ
海賊ハ凡ソ人類ノ讎敵ナルヲ以テ何レノ土地ニ於テ之ヲ
審判スルモ妨ナシ何トナレハ之ヲ追捕シ之ヲ剿滅スルハ

國際法ノ各人ニ許與スル權利ナレハナリ海賊若シ抗敵ス
ルトキハ之ヲ殺戮スルヲ得ト雖トモ若シ之ヲ征服シ或ハ
已ニ生擒シタルトキハ法律ニ從テ之ヲ審判處罰セサルヘ
カラス

一國ノ臣民相互ニ大海ニ於テ強奪ヲ爲ストキハ海賊罪ヲ
以テ之ヲ論スヘキモノトス

某國ノ臣民他國ノ臣民ニ對シテ大海ニ於テ強奪ヲ行フタ
ル場合ニ於テ兩國間相互ニ平和ヲ保ツトキハ海賊罪ヲ以
テ之ヲ論スト雖トモ若シ兩國交戦中ノトキハ然ラス蓋シ
其ノ相互ノ掠奪ハ單ニ抗敵ノ行爲ト視做スカ故ニ交戦國
ノ間ニハ海賊罪アルコトナシ是レ普通ニ是認スル所ナリ
トス

大海ニ於ケル
犯罪

昔時ニ於ケル
海軍提督
ノ裁判權

女皇對「カ
イン」事件
ニ於ケル
「シー、ゼ」
「コック、ボ
ル」氏ノ意
見

大海ニ關スル原則ニ依レハ海上ニ於テ英國ノ船舶内ニ在
ル人ハ總テ英國ノ法律ニ服従スヘキモノトス何トナレハ
斯ノ如キ船舶ハ法律上合衆王國ノ版圖ノ部分ナレハナリ
英國法律及書籍ヲ讀ム者ノ爲ニ大海ニ於ケル犯罪ニ關ス
ル語ヲ解釋スルコト必要ナラン即チ海軍提督ノ裁判權又
ハ英國海軍提督裁判所ノ裁判權ト云ヘル語是ナリ
英國往時ノ慣習法ニ依レハ凡ソ犯罪ハ必ス之ヲ犯シタル
州ニ於テ審判スルヲ要シ陪審人モ必ス其ノ州人ニ限ルモ
ノトセリ然レトモ數多ノ州ハ海濱ニ位スルヲ以テ各州境
土ノ限界ヲ確定スルコト必要ナルニ至レリ總テ港灣其ノ
他兩岬ノ間ニ在ル海江ハ境土ノ部分ト爲シ外海ニ面スル
沿岸ハ低水線ヲ以テ限界トセリ而シテ船舶ヲ以テ海上ノ

交通ヲ始メシ以來海上ニ於ケル犯罪ヲ懲罰スルノ必要起
レリ然ルニ慣習法ノ管轄權并ニ手續ハ斯ノ如キ犯罪ニ適
用スルコトヲ得ス何トナレハ斯ノ如キ犯罪ハ一州境土内
ニ於テ犯シタルモノニアラサレハナリ是ニ於テ乎此等ノ
犯罪ニ關スル國王ノ裁判權ハ之ヲ海軍提督ニ委任スルニ
至レリ蓋シ海軍提督ハ海上ニ於テ君主ノ大權ヲ執行スル
ヲ以テナリ之ニ等シク海上ニ於テ發見シタル死體ノ檢視
モ亦海軍提督ノ撰任シタル検屍官ニ委任セリ
海軍提督裁判所ト慣習法裁判所トノ間ニ往々管轄權ノ爭
論ヲ醸生スルニ至リタルヲ以テ其ノ限界ヲ嚴密ニ劃定シ
低水線ヲ以テ海水ノ浸沾セサル地域ト斷定セリ是ニ於テ
高水線并ニ低水線ニ於ケル裁判管轄權ハ全ク潮勢ノ状態

海軍提督ノ
裁判管轄權
ヲ刑事裁判
所ニ移シタ

ニ依テ確定スルモノトセリ内國沿岸ニ於ケル海軍提督ノ
裁判管轄權ハ以上開陳スル所ノ如シ而シテ大海ニ於ケル
犯罪ハ海賊罪ノ場合ヲ除ク外海軍提督ノ裁判權ニ依テ之
ヲ審問シ若クハ審問セント試ミタルコトナシ但シ英國ノ
船舶ハ此ノ限ニ在ラス又外國ニ屬スル海水ノ限界ニ關シ
テハ凡ソ潮水ノ達シ且大船ノ通スル所ハ假令橋梁ノ下ヲ
流ル、河水ト雖トモ之ヲ海水ノ部分ト視做シ此所ニ在ル
英國船ニ關スル裁判權ハ英國海軍提督ニ屬スルモノトセ
リ然レトモ此ノ場合ニ於テ外國ノ裁判所ハ共ニ其ノ裁判
ニ參與スルコトヲ得ヘシ
終ニ海軍提督ノ裁判權ヲ中央刑事裁判所ニ移シ其後同一
ノ權ヲ各州ニ於テ開ク巡廻裁判所ニ分與スルノ規定ヲ作

ルコト

大海ニ於ケ
ル犯罪ニ關
スル原理

レリ

之ヲ要スルニ前段記述スル二原則ハ左ノ如ク畧解スルヲ
得ヘシ曰ク凡ソ英國船ニ在ル外國人及英國臣民ノ犯罪ハ
英國ニ於テ英國ノ法律ニ依テ審判スヘキモノトス曰ク英
國外ノ海上ニ於ケル外國船ニ乗込タル外國人ノ犯罪ハ英
國ニ於テ審判スルコトヲ得スト
又其ノ附屬セサル外國船ニ於テ英國臣民ノ犯セル罪ハ英
國船ニ於テ犯シタルモノト同一ノ手續ヲ以テ之ヲ審判ス
ヘキ規定アリ
從犯ノ事ハ別ニ之ヲ規定セリ總テ海軍提督裁判所管轄内
ニ於テ重罪ノ從犯者トナル者ハ重罪ヲ犯シタル場所ノ何
レニ在ルヲ問ハス又右管轄内ニ於テ之ヲ始メ他ノ場所ニ

外國船ニ乘
込タル英國
臣民

從犯

前記ノ犯罪
於殖民地ニ
於テ審判ス
ルコト

於テ之ヲ完結スルト或ハ右管轄内ニ於テ之ヲ始メ且之ヲ
完結シタルトナ論セス均シク重罪ヲ以テ之ヲ論シ英國ニ
於テ審判スヘキモノトス
大海若クハ外國ノ港内ニ於ケル英國船ニ於テ罪ヲ犯シタ
ル英國臣民及大海ニ於ケル英國船ニ於テ罪ヲ犯シタル外
國人ハ女皇ノ領地内何レノ地ト雖トモ其ノ現ニ在留スル
土地ニ於テ審判スルヲ得ルコト宛モ同地ニ於テ罪ヲ犯シ
タルト同一ナルヘシ然レトモ審判處罰ハ必ス英國ノ法律
ニ據ルヘキモノトス
海上ニ於テ毆打ヲ受ケ若クハ其ノ他海上ニ起リタル原因
ニ依リ殖民地ニ於テ死去スル者アルトキハ犯罪者ヲ處ス
ルコト恰モ海上ニ於テ犯罪ヲ完成シタルト同一ナルヘシ

客船ニ於ケ
ル犯罪

水手ノ犯罪

客船乗客ノ犯セル或ル種ノ罪ハ船員ニ於テ之ヲ陸上ノ治
安裁判所ニ托シテ審判スルコトヲ得ヘシ
一千八百五十四年商船條例ニ依レハ現ニ英國船ニ雇ハレ
若クハ三箇月前迄其ノ雇トナリタル船長水夫又ハ見習ニ
シテ女皇ノ領地外ノ陸土若クハ海上ニ於テ財産又ハ身體
ニ關スル罪ヲ犯ストキハ英國海軍提督裁判所ノ管轄内ニ
於テ犯シタルト同一ニ審判處置スヘキモノトス
斯ノ如キ事件ニ關スル控訴ハ英國領事等ニ提出スヘキモ
ノトス而シテ領事等ハ宣誓ヲ施シタル上之ヲ審査シ若シ
必要ト認定スルトキハ犯罪人ヲ監視ニ付シ成ルヘク速ニ
犯罪人ヲ女皇陛下ノ船舶若クハ英國臣民ニ屬スル船舶ニ
搭載シテ合衆王國又ハ英國領地ノ内同事件ヲ審判スルノ

權力ヲ有スル裁判所ノ在ル土地ニ護送シテ審判ニ付スヘシ護送船ノ着スルトキハ犯罪人ヲ警察官ノ監視ニ付シ裁判官ノ前ニ引渡スヘシ

一千八百六十六年前ニ於テハ英國版圖沿海ニ於ケル外國船ニ乗込タル外國人ニ對シ海軍提督ノ裁判管轄權ヲ及ホスナ得ルヤ否ヤノ問題ニ關シテ夥多ノ疑點ヲ存セリ尤モ版圖沿海トハ海岸ヨリ三哩内ノ海面ヲ謂フモノナリ然レトモ同年ニ至リ有名ナル「フランコニヤ」號事件ノ起ルニ及ヒ裁判官列席ノ上此ノ問題ニ關シ充分ノ討議ヲ盡セリ

「フランコニヤ」號ハ獨逸ノ國旗ヲ翻シ「フェルジナンド、カイ」ンノ指揮スル獨逸船ナリシガ「ダヴァー」ノ沿海二哩半ノ處ニ於テ英國汽船「ストラスクライド」號ニ衝突シ同船ヲシテ

沈没セシメ且其ノ乗客一名ヲシテ溺死セシメタリ是ニ於テ船長「カイン」ヲ殺人罪ニ處シタレトモ遂ニ法律ノ問題ヲ刑事控訴院ニ移シテ審議スルニ至レリ此ノ罪囚ノ辯護人ハ本人ハ大海ニ於テ外國航海ニ從事スル外國船ニ乗込タル外國人ナルヲ以テ英國裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニアラスト辨論セリ

檢察官ハ之ニ對シテ衝突ノ當時兩船共英國海岸ヨリ三哩以内ニ在リシヲ以テ英國版圖内ニ於テ犯シタル罪ト視做シ英國裁判所ニ於テ審判スヘキモノナリト駁論セリ

精密ノ討議ヲ盡シタル後十三名ノ裁判官ノ内六名ハ英國ノ版圖ヲ以テ所謂三哩限界ニ及フモノトシ此ノ犯罪ヲ以テ英國裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト主張セシト雖トモ

版圖沿海ニ於ケル犯罪

過半数ノ裁判官ハ此ノ限界(三哩限界ヲ云フ)ヲ以テ法律ノ確定スル所ニアラスト爲シ版圖ハ低水線ノ外ニ及ハサルカ故ニ此ノ犯罪ハ英國ニ於テ審判スヘキモノニアラスト論斷セリ

是ニ於テ囚人ヲ放免セリ
 此ノ著名ナル事件ノ結果トシテ一千八百七十八年ニ至リ版圖沿海裁判管轄權條例ヲ議決セリ此ノ條例ニ依レハ女皇ノ臣民又ハ其ノ臣民ニ非ラサル者ト雖トモ女皇版圖沿海ニ屬スヘキ外海ニ於テ罪ヲ犯ストキハ假令其ノ犯罪ハ外國船ニ於テスルモ又ハ外國船ニ依テスルモ均ク海軍提督ノ管轄權ニ屬スヘキモノトス而シテ版圖沿海ニ屬スヘキ外海トハ沿岸低水線ヨリ二リ一グ内ニ在ル外海ノ部分ヲ謂フトアリ

殖民地

總テ外國人ニ向テ求刑スル場合ニ於テハ女皇陛下ノ國務大臣ノ中一人之ニ同意シ其ノ意見ニ於テ訴訟事件ヲ提起スルコトヲ可トスル旨ノ認可狀ヲ得ルニアラサレハ合衆王國內ニ於テ訴訟ヲ起スコトヲ得ス但シ殖民地ニ於テハ知事ヲ以テ國務大臣ニ代ハラシム

此ノ條例ハ海賊罪ノ訟ニ於ケル裁判管轄權ヲ規定スルコトナシ

裁判官(フランコニヤ)號事件ニ關シテ開キタル法律廷ノ裁判官ヲ云フ(フ)ノ判決アルニ號事件ニ關シテ開キタル法律廷ノ裁判官アリ曰ク女皇陛下及地ニ其ノ子孫ノ外裁判管轄權ハ合衆王國及其他總テ陛下領地ニ沿フ所ノ外海ノ内陛下版圖ハ防禦及并ニ安寧ニ必要ナル部分ニテ及フモノナルコトヲ防衛前ニ於テ然リトシ又現ニ此ノ外海ノ部分ニ於テ犯シタル罪ハ犯罪者ノ何人タルトモ問ハス之ヲ法律ニ依テ處罰スルコト事宜ニ協ヘリト

帝國殖民地ニ於ケル英國臣民ノ地位ニ關スル事項ハ此ノ

意見書ニ於テ論及スヘキ限ニ在ラス然レトモ殖民地ト境
ヲ接シ開明政府ノ裁判管轄ノ下ニ在ラサル土地ニ於テハ
帝國議院ハ英國臣民ニ對シ立法權ヲ執行スルコトヲ茲ニ
陳述スルコト有益ナラン而シテ此ノ問題ハ本章ノ次節ニ
於テ講究スヘシ

海軍提督裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタル罪ハ犯罪者所在
ノ殖民地ニ於テ審判スルコトヲ得ト雖トモ必ス英國ノ法
律ニ依ルモノニシテ同殖民地ノ法律ニ從フヘカラサルコ
トハ既ニ記述シタルカ如シ

第三節 條約ニ依レル在外英國臣民ニ對スル裁判
管轄權

治外法權ノ
討究

吾人ハ本章ノ始ニ於テ罪人引渡條約ニ依リ國家ハ其境内
ニ於テ犯シタル或ル特別ノ犯罪ニ對シテ其ノ在外ノ臣民
ヲ制御スルヲ得ルノミナラス同一ノ場合ニ於テハ補助ノ
請求ヲ受クル國(即チ罪人引渡ノ請求ヲ受クル國)ノ臣民ニ
非サル外國人ハ均ク其ノ裁判權ニ屬セシムルヲ得ルコト
ヲ講究セリ又第二節ニ於テ吾人ハ境外ニ於テ其ノ臣民
ノ犯セル罪ニ對シ一ノ國家ハ條約ニ拘ラス立法權ヲ施行
スル例證ヲ舉示セリ
是ヨリ進テ討究スヘキハ治外法權ノ問題ナリトス治外法
權トハ一ノ邦國カ條約ニ依テ得ル所ノ一種特別ノ權利ニ
シテ他ノ條約國境内ニ在ル其ノ臣民ニ對シ管ニ立法權
ヲ施行スルノミナラス同國境内ニ於テ其ノ法廷ヲ設置

シ以テ其ノ法律ヲ執行スルヲ謂フ
 此ノ問題ニ關シテハ二三ノ原理ナキニ非スト雖トモ其ノ
 適用ニ至テハ各條約ノ明文ニ存スル特權讓與ノ要件ニ從
 テ其ノ趣ヲ異ニセサルヲ得ス
 先ツ陳述スヘキノ要點ハ未開ノ邦國ニ於テモ猶ホ一國ノ
 境内ニ在ル外國人ハ其ノ法律ニ服從セサルヘカラスト云
 ヘル原則ヲ適用スルヲ得ルコトハ管ニ治外法權ノ許サ、
 ルノミナラス其ノ認容スル所ナリト云フニ在リ若シ反對
 ノ條約文ナキ場合ニ於テハ野蠻國ニ在ル英國人ハ其ノ國
 ノ君主ニ假ノ服從ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ此ノ假ノ服
 從ノ繼續スル間ハ其ノ本國政府ハ此ノ英國人ニ對シ一モ
 權力ヲ有セスト云ヘル原則モ亦國ノ開未開ヲ論セス均ク

適應スルモノトス

然レトモ右假設ノ場合ニ於テ英國人ノ在留スル國ノ政府
 ハ該英國人ニ對スル權力ノ幾分ヲ條約ニ依テ其ノ本國政
 府ニ讓與スルコトアリ

此ノ場合ニ於テ英國人カ其ノ本國政府ニ服從スルヲ得ル
 ハ其ノ在留國ノ君主自ラ其ノ權力ヲ擲棄セシニ依ルモノ
 ニシテ決シテ其ノ本國君主本來ノ權利ニ由ルニアラス其
 ノ服從ヲ要スルノ權利ハ素ヨリ其ノ在留國君主ノ掌中ニ
 存スルコトハ宜ク了知セサルヘカラサルナリ
 右ノ如キ場合ニ於テ此ノ權利ヲ第三ノ國ニ讓與スルコト
 ハ普通ノ慣例ニアラスト雖トモ之ヲ爲スハ其ノ國君主ノ
 權内ニアリトス例ヘハ若シ日本ニ於テ與ヘンコトヲ欲シ

獨逸ニ於テ受ケンコトヲ肯ンスルトキハ日本ハ其ノ國內ニ在留スル英國臣民ニ對スル法權ヲ獨逸ニ讓與スルヲ得ルモノトス

然ラハ英國カ治外法權ノ條約ヲ締結シタル國ニ在留スル其ノ臣民ノ上ニ有スル權力ハ一ニ條約ノ明文ニ依テ制限セラル、コト知ルヘキナリ故ニ條約文面ニ於テ讓與セサル大權ハ其ノ國ニ存スルコト勿論ニシテ英國臣民ハ該大權ノ執行ニ服従スルノ義務ヲ免ル、コト能ハス

英國カ讓與ヲ受ケタル權利ヲ執行スルニ當リ其ノ制限ハ條約面ニアラスシテ其ノ理由明カナリ(樞密院令ニ依ルヘキモノトス蓋シ樞密院令ハ條約ニ依テ女皇カ得ル所ノ權利ニ効力ヲ與フルモノナレハナリ)

樞密院令ハ條約ト法律ヲ聯結スル鐵鎖ニシテ此ノ二者ノ制限ヲ均一ニ受クルモノトス條約ハ以テ兩國ノ關係ヲ支配シ法律ハ以テ英國臣民ト其ノ本國政府トノ關係ヲ規定スルモノナリ

若シ樞密院令ニシテ讓與ニ關スル條約款項ニ超越スル場合ニ於テハ同令ヲ執行スル機會ノ起ルニ當リ其ノ効力ノ有無ヲ是非スルヲ得ルモノトス何トナレハ執行セントスル權力ハ條約ニ於テ存スルニアラス又條約ニ依テ得サル所ノ權力ハ法律ニ依テ之ヲ施行スルコトヲ得サレハナリ抑條約ニ依テ得タル權利ノ執行ハ法律ニ服従スヘキモノタリ蓋シ法律之ヲ許スニアラサレハ女皇ハ條約ニ依テ得タル權力ヲ其ノ臣民ノ上ニ執行スル能ハス而シテ法律ハ

女皇ノ領地外ニ在ル臣民ノ上ニ執行スルヲ得ヘキ權力ヲ
 有スルコトナシ是ニ於テ乎條約ニ依レル權利ノ執行ハ議
 院ノ議決ニ關スル條例ノ明文ニ依テ之ヲ認許セサルヘカ
 ラス
 語ヲ更テ之ヲ言ヘハ成文律ノ明文ナキトキハ條約ニ依テ
 得タル權利ヲ執行スルヲ得サルナリ斯ノ如キ成文律ヲ執
 行認可條例ト稱ス
 斯ノ如キ理由アルカ故ニ一千八百四十三年一ノ條例ヲ議
 決セリ其ノ目的ハ女皇陛下ノ領地外ニ在ル邦國及土地ニ
 於ケル陛下ノ裁判權及其ノ他權力ノ執行ニ關スル疑點ヲ
 除去シ其ノ執行ニ効力ヲ有セシムルニ在リ同條例ニ左ノ
 言アリ曰ク女皇陛下ノ領地外ニ在ル邦國并ニ土地ニ於テ

陛下カ現ニ所有シ若クハ將來所有スル總テノ權力并ニ裁
 判權ハ宛モ境土ノ讓與若クハ征服ニ依テ之ヲ得タル場合
 ト同シク之ヲ所有シ執行シ且享有シ得ルコト現ニ正當ニ
 シテ將來ニ於テ同シカルヘシト
 蓋シ此ノ條項ニ關シテ誤解ヲ生セシコト少シトセス
 治外法權ノ特權ヲ讓與シタル邦國ハ英國臣民ニ關シテハ
 宛モ殖民地若クハ征服サレタル土地ト實際同一ノモノト
 誤想セラレタリ斯ノ如キ議論ハ該特權執行ノ據ル所ノ基
 礎即チ條約ヲ輕々看過スルニ職由セスンハアラス該條例
 ノ言辭ノ意義甚タ廣汎ニ失スルカ如シト雖トモ是レ各般
 ノ場合ニ適用センカ爲ニ然ルモノニシテ其ノ意義ニ關シ
 テハ一モ疑問ヲ容ルヘキ所ナシト思考ス之ヲ畧言スレハ

則テ女皇ハ其ノ領地外ニ於テ裁判權ヲ得タリ而シテ女皇
 ハ其ノ裁判權ノ廣狹ニ拘ラス又完全ナル治外法權ナルト
 否トヲ問ハス其ノ裁判權ヲ執行スルコト宛モ其ノ殖民地
 及領地ニ於テ之ヲ執行スルカ如クナルヘシト云フニ在リ
 吾人ハ是ニ於テ全局ヲ貫通スル一聯ノ事實ヲ得タリ
 茲ニ一英人アリ某國例ヘハ日本ニ在留シ日本政府ハ該英
 國人ノ上ニ執行スヘキ或ル權力ヲ英國政府ニ讓與シ英國
 政府之ヲ受ケタリトセンニ讓與セサル他ノ大權ハ日本政
 府ノ掌握スル所タリ
 讓與シタル權力ノ程限ハ江戸條約ニ明記スル所ナリ
 英國政府ニ於テ右ノ權力ヲ執行スル程限方法ハ數多ノ樞
 密院令ニ依テ規定セリ

右ノ權力ヲ執行スルノ能力并ニ權利ハ英國議院ノ賦與ス
 ル所ナリ

以上陳述スル所ハ此ノ難問題ニ關スル真正ノ解釋ナリ其
 ノ然ル所以ノモノハ前既ニ引證シタル外國裁判權條例第
 二項ノ文ニ依テ明瞭ナリトス其ノ文ニ曰ク總テ女皇陛下
 ノ有スル斯ノ如キ權力并ニ裁判權ニ依リ何時ニテモ女皇
 陛下ノ領地外ニ在ル邦國若クハ土地ニ於テ爲シタル行爲
 事蹟并ニ事件ハ凡ソ陛下ノ領地内ニ在ル宗教上并ニ政治
 上兩様ノ裁判所及其ノ他ノ場所ニ於テ總テノ場合ニ對シ
 總テノ目的ノ爲メ有効有力ナルコト宛モ當該ノ邦國若ク
 ハ土地ニ於テ其ノ當時現行ノ地方法律ニ遵由シテ之ヲ爲
 スト同一一般ナルヘシト

殖民地裁判
所ニ於テ犯
罪人ヲ審判
スルコト

右ノ條例ニ於テ必要ノ場合ニハ此等ノ邦國ニ於ケル犯罪
人ヲ英國殖民地ニ送致シテ審判スルヲ得ルコトヲ明記セ
リ然レトモ告發ヲ受ケタル者ハ證據ヲ提出スルノ權利ヲ
有スルモノニシテ若シ殖民地裁判所ニ移サル、トキハ之
ヲ提出スルコト能ハサルヲ以テ其ノ審判前豫メ該證據ヲ
收集シテ之ヲ送付スルモノトス而シテ其ノ行爲ノ有罪ナ
ルヤ否ヤ其ノ罪ノ性質程度及處罰ノ輕重ニ至テハ其ノ犯
罪地ノ法律即チ之ヲ細言スレハ條約ノ明文ニ依リ英國政
府ニ於テ其ノ土地内ニ有効ト宣告シタル法律ニ依テ判定
スヘキモノトス
又同條例ニ於テハ此等ノ邦國ニ設置シタル英國裁判所ニ
於テ有罪ト宣告セラレタル犯罪人ヲ處刑若クハ禁獄ノ爲

ニ殖民地ニ輸送スルヲ得ルコトヲ制定セリ
其ノ後ノ條例(一千八百六十六年外國裁判權條例)ニ依リ女
皇ハ其ノ條約ニ依テ得タル權利ニ遵由シ樞密院令ニ從テ
其ノ領地外ノ裁判所ニ賦與スルコトヲ得ル民刑初審控訴
ノ裁判權ヲ同一ノ方法ニ依リ合衆王國外ニ在ル女皇陛下
ノ領地内ニ於ケル裁判所ニ賦與スルコトヲ得ル旨ノ制定
ヲ爲セリ
大貌烈顛ハ左ノ諸國ト治外法權ノ條約ヲ締結セリ

(參考) 「ハーツレット」氏著通商條約
第一卷五十八丁

「アルシール」國

一千六百八十二年—一千六百八十六年
一千七百二十九年(改訂)

一千八百十六年	同	第八卷八十六丁并 第十四卷一千十八丁
「ポル子ナ」國		
一千八百四十七年		
一千八百五十六年		
清國	同	第十一卷八十六丁
一千八百五十八年		
朝鮮	同	第十五卷八百八十丁
一千八百八十三年		
日本	同	第十一卷三百九十六丁
一千八百五十八年		

「マダガスカル」國	同	第十二卷六百三十四丁
一千八百六十五年		
「モロツコ」國	同	第一卷八十九丁 第三卷九百三十三丁
一千七百二十一年—一千八百一年		
一千八百五十六年(改訂)	同	第五卷六百一十一丁
「マスカット」國		
一千八百三十九年	同	第十卷五百五十七丁
暹羅國		
一千八百五十五年		

「ツリポリ」國

同

第一卷百二十五丁

一千六百六十二年

一千六百七十五年—一千六百七十六年

一千七百十六年(改訂)

一千七百五十一年

一千七百六十二年

一千七百十二年

同

「チユニス」國

第一卷百五十七丁
第十四卷五百四十一丁

(同國ニ於テ英國臣民ハ目下佛國裁判權ノ下ニ在リ又右參考書第十五卷一千六十二丁ニアル一千八百八十三年十二月三十一日付ノ樞密院令ヲ參照スヘシ)

土耳其國

同

第二卷二百七十一丁

一千六百七十五年—一千八百九年(降書)

一千八百九年(條約ヲ以テ確定セリ)

一千八百六十一年

「ザンシバー」國

(同國ニ於テハ英國臣民ハ印度刑法ニ服從セリ)

埃及國

(同國ニ於テハ合議裁判所アリ而シテ其ノ繼續ノ期限ハ一千八百八十四年ニ於テ一千八百八十九年二月一日マテ延期シ今又之ヲ更ニ延期セリ)

北「ボルネオ」國

無政府ノ邦
國ニ在留ス
ル人民ニ裁
判權ヲ及ホ
スコト

一千八百八十一年北ボルチヤ會社カ女皇ヨリ得タル
免許狀ニ依レハ同會社ハ北ボルチヤ國ニ於テ女皇陛
下ノ裁判權ヲ執行スルノ權ヲ有スル旨ノ條規アリ
一千八百七十八年議員ノ議決ニ關スル條例ヲ以テ更ニ裁
判權ノ擴張ヲ爲セリ同條例ニ依レハ女皇陛下ノ領地外ニ
在ル邦國若クハ土地ニシテ之ト治外法權ノ條約ヲ爲スヘ
キ政府ヲ有セサル場合ニ於テ女皇ハ右邦國若クハ土地ニ
在留若クハ往來スル其ノ臣民ノ上ニ權力ヲ施シ裁判權ヲ
行フヲ得ト規定セリ
同條例ハ又支那及日本ノ海岸ヨリ百哩以内ノ距離ニ在ル
船舶ニ乘込タル英國臣民ノ統御ノ爲ニ樞密院ニ於ケル女
皇ハ法律ヲ制定スルヲ得ルコト猶ホ右ノ二國內ニ在留ス

ル其ノ臣民ノ統御ノ爲メ條約ニ依リ法律ヲ制定スルト同
一般ナルヘシト規定セリ又外國裁判權條例ノ下ニ服從ス
ル人ニ對スル訴訟ハ其ノ事件ノ發生後六箇月内ニ提起セ
サルヘカラスト規定セリ
無政府國ニ在ル英國臣民ニ關スル制規ニ付テハ一個ノ論
點ヲ舉示スルノ必要アリ
第一此ノ權力ハ議院ノ議決ニ關スル條例ヲ以テ創定スル
ノ事實ニ依テ見ルトキハ此ノ權力ヲ執行スル爲ニハ成文
律上ノ認許ヲ得サルヘカラスト是レ上來陳述シタル論旨ヲ
扶持スルモノナリ第二ニハ右ノ成文律ハ其ノ明文ノ目的
ニ限リ實際當該ノ土地占有權ト等シキ効力ヲ有スルモノ
トス然レトモ一旦其ノ地ノ土人一個ノ政府ヲ設置スルカ

若クハ他ノ邦國ニ於テ此ノ土地ニ對シ國際法ノ慣例ニ依リ正當有効ノ占有請求ヲ爲スニ至テ右ノ權利ハ直ニ消滅スルモノトス

若シ反對ノ制規ナキ場合ニ於テハ斯ノ如キ國ニ在ル英人ヲ支配スル法律ハ英國法律ニシテ其ノ審判ハ英國裁判所ニ於テ之ヲ行フヘシ然レトモ既開ノ殖民地ト境土ヲ接スル無人ノ土地ハ右殖民地ノ裁判管轄内ニ入ル、コト往々ニシテ之アリ其ノ例即チ左ノ如シ

斯ノ如キ裁判權擴張ヲ認許スル條例ニハ左ノ言ヲ記スルヲ常例トス曰ク此ノ條例若クハ殖民地知事ヨリ右ノ土地ニ司法官トシテ派遣スル吏員ニ發スル委任狀ノ文意ヲ擴張シ女皇陛下及其ノ子孫ニ與フルニ其土地ノ統

治權若クハ占領權ニ對スル請求權利ヲ以テスルモノト思惟スヘカラス又其ノ土地ニ居住スル種族若クハ人民ノ有スル統治權若クハ占領權ノ幾分ヲ奪去スルモノト爲スヘカラスト

南亞弗利加 一千八百六十三年 南亞弗利加洲南緯二十五度以南ノ地方ニ於テハ喜望峰殖民地ノ法律ヲ以テ英國臣民ノ犯罪ヲ處罰セリ

西亞弗利加 一千八百六十一年 「シイーラ、レナ子」殖民地ニ接シ北ハ「リナ、グラデ」河又ハ「ビユロラ」河ニ至リ東ハ「ガリラス」河并ニ五百哩以内ノ地方ニ於テハ「シイーラ、レナ子」殖民地ノ法律ヲ以テ犯罪ヲ處罰シ審判ハ同殖民地知事ノ撰任シタル同地方滞在ノ委員之ヲ掌レリ

西亞弗利加 一千八百七十一年「シイーラ、レナ子」カムビ
 ヤ「ゴールド、コースト」并ニ「ラゴス」殖民地及其ノ近傍ノ保
 護地方ニ於テ女皇陛下臣民ノ犯セル罪及英國臣民若ク
 ハ右殖民地ニ在留ノ人ニ對シテ開明國ノ臣民ニアラサル
 者ノ犯シタル罪ハ右ノ殖民地ニ於テ之ヲ審判セリ
 加奈太 一千八百二十一年及一千八百六十九年 英領亞
 米利加印度地方ニ於ケル犯罪ヲ審問スル爲メ裁判官ヲ
 撰任セリ
 海峽殖民地 一千八百七十四年 馬來半島北緯九度以南
 ノ地方及沿岸二十哩以内ニ在ル島嶼ニ於テ英國臣民又
 ハ同半島ニ在ル國ノ土人ニシテ當時若クハ其ノ前六箇
 月間同殖民地ニ寄寓シタル者罪ヲ犯ストキハ同殖民地

ニ於テ其ノ法律ニ從テ之ヲ審判セリ

大平洋諸島土人保護條例 一千八百七十二年及一千八百
 七十五年 大平洋諸島ノ土民ヲ誘拐奪去スルノ所爲ヲ
 犯ス英國臣民ハ重罪ヲ以テ之ヲ論シ濠洲殖民地ノ裁判
 所ニ於テ之ヲ審判處罰スルモノトス
 此ノ場合ニ於テ從犯ハ正犯ト同罪ニ處スルモノトス又右
 ノ目的ノ爲ニ現ニ使用セラレ若クハ已ニ使用セラレタル
 嫌疑アル英國船若クハ右ノ目的ヲ以テ艤裝セラレタル嫌
 疑アル英國船ハ之ヲ取押ヘルコトヲ得ルモノトス
 土民役夫ヲ運送スル船舶ノ特許ニ關シテハ特別ノ制規ヲ
 設ケタリ
 大平洋中女皇陛下ノ領地若クハ他ノ開明國ノ法權ノ下ニ

アラサル島嶼并ニ土地ニ於テ女皇陛下ハ其ノ臣民ノ上ニ
權力ト法權ヲ施行スルコト讓與若クハ征服ニ依テ斯ノ如
キ權力ヲ得タル場合ト同一般ナルヘシ又陛下ハ右諸島ノ
上ニ大使ノ官ヲ置キ以テ其ノ地方ニ在留スル臣民ノ統御
ニ關スル制規ヲ作り且之ヲ犯ス者ヲ處罰スルノ權ヲ賦與
スルヲ得又陛下ハ大使法廷ヲ設ケテ犯罪ヲ審判セシメ若
クハ英領殖民地ノ裁判所ヲシテ右ノ地方ニ於テ裁判權ヲ
執行シ且犯罪人ヲ同殖民地ニ送致セシムルコトヲ得

英國ニ於テ
倒産處分ヲ
受クヘキ者

第四章 倒産裁判管轄權

一千八百八十三年倒産條例ニ依レハ英國裁判所ニ於テ倒
産處分ヲ受クヘキモノハ英國ニ定住ヲ有スル負債者又ハ
倒産請願書捧呈ノ期日前一箇年内ニ英國ニ於テ常住シ若
クハ住家ヲ有シ若クハ營業所ヲ有スル負債者ニ限ルモノ
トセリ

倒産ニ關スル裁判權ノ事ハ古來商業上ノ必要ノ爲ニ立法
院ノ討議ヲ促シタル至難問題ノ一タリ
吾人ハ倒産法律ノ政策ニ關スル問題ニ論及スルヲ得サル
ヲ以テ茲ニハ只タ有形ノ儘ヲ以テ該法律ヲ講究セントス
抑一千八百四十八年ニ制定シタル法律ハ一千八百六十九
年ニ至テ之ヲ改正シ其ノ後降テ一千八百八十三年ニ至リ

倒産裁判管
轄權ニ服ス
別ヘキ人ノ種

復タ之ヲ改正セリ而シテ僅ニ此ノ最後ノ改正ニ至リ始メ
テ裁判管轄權ノ問題ヲ確定セント試ミタルモノナルカ故
ニ吾人ハ此ノ法律ヲ以テ臣民ト外國人トノ關係ニ付キ最
近ノ學理ヲ含包スルモノト爲スコト能ハサルナリ
倒産裁判ナシテ有効ナラシメント欲スレハ三種ノ人ニ對
シテ之ヲ執行スルヲ必要トス而シテ此等ノ人ハ悉ク或ハ
若干名外國人ニシテ且裁判管轄外ニ在ルモ妨ナシトス三
種ノ人トハ即チ負債ヲ償還スルコト能ハサル負債者及其
ノ財産ニ對スル債主并ニ負債者はナリ
本章ノ始ニ於テ記述シタル制規ハ第一種ノ人ニ關スルモ
ノニシテ其ノ國籍如何ハ問フ所ニアラス只タ多少ノ歲月
間英國内ニ居住シタルカ爲ニ負債ヲ生シタル者ナルヲ要

スルノミ若シ倒産ヲ以テ本人財計ノ困難ヲ調理スル必要
手段ト爲シ其ノ處罰ニ關スル法律ヲシテ不正ノ商業ト驕
奢ノ衣食ヲ矯正スルノ効力アル制裁ヲ有セシムルニ於テ
ハ倒産法律ハ啻ニ負債者ヲシテ一時其ノ困難ノ波濤ヲ避
ケシムル港津タルノミナラス商業貿易ヲ保護スル一方便
タルヲ得ヘシ商業家ハ他人ニ信用ヲ與フルニ際シ自ラ保
護セサルヘカラス若シ其ノ不注意ヨリシテ旅行中其ノ國
ヲ經過スル所ノ外國人ヲ信用スルトキハ是レ其ノ自ラ爲
セル過失ナリトス斯ノ如キ商業家ハ裁判管轄内ニ於テ條
約ヲ結ヒ若クハ條約ニ違反シタル事故ヲ以テ負債者ニ對
スル訴訟ヲ自國ノ裁判所ニ提起スルヲ得ヘシト雖トモ倒
産法律ノ錯雜ナル機關ヲ適用スルコト能ハサルナリ然レ

民事裁判權
ト倒産裁判
權ノ關係

トモ國內ニ常住シ若クハ多少ノ歲月間自己ノ營業所ヲ有シタリト認メ得ヘキ者ニ信用ヲ與フルハ道理ナキコトニアラサルナリ英國法律ハ此ノ兩極端ノ中間ヲ取ラントシタリト雖モ英國ニ於テ不完全倒産ノ制ナキコトハ最モ困難トスル所ナリ蓋シ英國ニ於テハ倒産ヲシテ完全ナラシメンコトヲ務メ裁判所ノ權力ノ及フ限ハ負債者ノ財産ノ全部ニ關涉スルヲ本旨トスルモノトス而シテ此ノ點ニ於テハ獨リ英國ニ於テノミ然ルニアラサルナリ抑、此ノ問題ハ錯雜シタルモノナルヲ以テ詳細ノ論究ハ之ヲ後段ニ譲リ茲ニハ民事ニ關スル裁判權ト倒産ニ關シ負債者ノ上ニ執行スヘキ裁判權トノ間ニ相互ニ關係ヲ有スルコトハ上來陳述シタル所ニ由テ之ヲ知ルニ足ルト云フニ止ムヘ

倒産請願書
捧呈ノ要件

シ而シテ理論上ノ此ノ關係ハ英國法律ニ存スルコトヲ見ルナリ何トナレハ前段ニ於テ已ニ開陳セル如ク被告ニシテ裁判管轄内ニ定住ヲ有シ若クハ常住スル場合ニ於テ裁判所ハ總テ民事上ノ裁判權ヲ執行スレハナリ英國ニハ二個ノ規則アリ而カモ同年ニ實施セラレナカラ其ノ文辭ニ至テハ相互ニ異ナレリ是レ全ク同國ニ於テ單獨立法ノ制ヲ取ルニ依ルモノトス然レトモ右二個ノ規則ハ共ニ同一ノ人ヲ指スコトニ就テハ疑ヲ容ルヘキ所ナシ倒産請願書ヲ捧呈セント欲セハ前已ニ記載シタル要件ノ外更ニ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス一請願ヲ爲ス債主一名若クハ數名ニ對スル負債ノ總額五十磅ニ達スルコト

二負債ハ確定金額ニシテ即時若クハ後日拂渡スヘキモノナルコト

三倒産事故ヲ犯シタル後三箇月以内ニ捧呈スヘキコト

倒産事故即チ請願書捧呈ノ理由ノ定義ニ就テハ茲ニ記載スヘキ點五個アリ

負債者ハ左ノ場合ニ於テ倒産事故ヲ犯スモノトス

一英國其ノ他ニ於テ債主ノ爲ニ其ノ財産ノ讓渡ヲ一名若クハ數名ノ管理人ニ委託スルトキ

二英國其ノ他ニ於テ欺偽ノ手段ヲ以テ其ノ財産全部若クハ幾部ノ讓渡、贈與、引渡若クハ移轉ヲ爲シタルトキ

三英國其ノ他ニ於テ其ノ財産全部若クハ幾部ノ讓渡若クハ移轉ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ財産ノ上ニ責任ヲ付シ

後日其ノ倒産ノ宣告ヲ受クルニ至リ此ノ責任ハ欺偽ノ先得權トシテ無効ニ歸スヘキモノナルトキ

四其ノ債主ヲ阻碍シ若クハ遅延セシムルノ目的ヲ以テ英國ヲ去リ若クハ已ニ英國外ニ在テ歸國セス又ハ其ノ住家ヲ去リ若クハ不在シ又ハ新ニ家住ヲ爲ストキ

五債主勝訴トナリ英國内又ハ裁判所ノ許可ニ依リ英國外ニ於テ倒産狀ヲ負債者ニ送付シ倒産狀ハ判決ニ從テ負債ヲ償却シ又ハ満足ナル方法ヲ以テ其ノ償却ヲ保證シ若クハ示談約束スヘキコトヲ負債者ニ要スルニ當リ負債者ニシテ英國内ニ於テハ七日以内英國外ニ於テハ指定ノ期日内ニ倒産狀ニ應セス又ハ其ノ債主ニ對シ判決負債高ト同額若クハ更ニ高額ノ請求權ヲ有シナカラ本

訴訟事件ト同時ニ之ヲ提出スルヲ得サリシコトヲ裁判所ニ證明セサルトキ

此等専門上精密ノ規定ハ此ノ問題ニ關スル教科書ニ於テ之ヲ註釋辨明セリ

負債者ニ對シ倒産ノ判決ヲ爲ストキハ裁判所ハ關係人ヲ檢査シテ其ノ財産ヲ發見スルノ全權ヲ有スルモノトス若シ檢査ヲ受クヘキ人ニシテ裁判管轄外ニ在ルトキハ外國ニ於テ檢査ヲ行フノ命ヲ發スルコトヲ得

最後ニ至リ解責令ヲ以テ負債者ヲシテ總テ倒産法ニ依リ證明スヘキ負債ニ對スル責任ヲ免レシムルモノトス

吾人ハ是ヨリ倒産裁判ノ執行ニ屬スル第二種ノ人即チ負債者ノ財産ニ對スル債主ニ就テ論セントス

解令ノ結果
負債者ノ財産ニ對スル債主

總テ負債者カ其ノ審判ノ當時既ニ負擔シ若クハ審判前ノ義務タル故ヲ以テ未タ解責令ヲ受ケサル前ニ負擔スル所ノ負債義務ハ其ノ現在ニ屬スルト將來ニ屬スルトヲ問ハス又確實ナルト否トヲ論セス倒産訴訟事件ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得ルモノトス但シ約定書口約若クハ信任違反ノ事由ニ基カサル不確定ノ損害ノ性質ヲ有スル請求ハ此ノ限ニ在ラス

此ノ規定ニ於テハ外國人ト臣民ノ間并ニ内國ニ在ル債主ト外國ニ在ル債主ノ間ニ區別ヲ立テサルナリ

賦金租稅并ニ俸給ニ關スル特例ヲ除ク外總テ負債ハ同等ノ取扱ヲ以テ償却スルモノトス

次ニ負債者ノ財産ニ對スル負債ニ關シテ論述セントス

負債者ノ財産ニ對スル

負債償却ニ供スヘキ倒産者ノ財産トハ倒産訴訟提起ノ當時既ニ倒産者ニ屬シ若クハ附帶シ又ハ其ノ解責前ニ得收シタル財産ヲ通稱スルモノナリ

此ノ場合ニ於テモ英國内ニ在ル財産ト英國外ニ在ル財産ノ間ニ區別ヲ立ルコトナシ從テ外國ニ在ル負債者ト國內ニ在ル負債者ノ間及外國人ト臣民ノ間ニ差異ヲ設クルコトナシ

該條例ニ依レハ英蘭ニ於テ倒産訴訟審問中ニ發シタル總テノ命令ハ蘇格蘭并ニ愛爾蘭ニ於テ之ヲ執行スルヲ得又蘇格蘭并ニ愛爾蘭ニ於テ發シタル命令モ亦均シク之ヲ英蘭ニ於テ執行スルヲ得ルモノトセリ又總テ女皇ノ領地内ニ於テ倒産裁判權ヲ有スル裁判所ハ相互ニ扶持シテ倒産

負債償却
為スコトナ
得サル死人
ノ財産

事件ヲシテ有効ナラシメシコトヲ期スヘキモノトセリ

該條例ハ更ニ負債ヲ償却スルコト能ハサル死人ノ財産ニ對スル倒産事件ニ關シ制規ヲ設ケテ曰ク倒産狀ハ之ヲ死去シタル負債者ノ法律上ノ代人ニ送致シ裁判所ニ於テ必要ノ命令ヲ發スルトキハ其ノ財産ヲ倒産法律ニ據テ處置スルモノトスト

倒産事件ニ於テ用フル口供ニシテ合衆王國外ニ在ル人ニ關スルモノハ當人在住國ノ裁判官又ハ其ノ他宣誓ヲ施スノ權力ヲ有スル人ノ前ニ於テ宣誓スルヲ得而シテ宣誓ヲ施ス人ノ資格ハ英國公使英國領事又ハ公證人ニ於テ之ヲ保證スヘキモノトス

分配金ヲ計算シ及配付スルニ當リ隔遠ノ地方ニ住スル債

成文法律ノ
缺點

主ニシテ其ノ請求ヲ證明スルノ時日ヲ有セスト雖トモ其ノ氏名倒産者ノ帳簿ニ記載シタル者ノ爲ニハ管理人ニ於テ特別ノ處置ヲ爲スヘシ

以上陳述スル所ヲ以テ吾人ハ此ノ問題ニ關シテ成文法律ノ記スル制規ヲ列舉シ盡シタリ而シテ未タ法律ノ規定セサル事項猶ホ數多アルコトハ自ラ明瞭ニシテ此等ノ事項ハ慣習法ヲ執行スル裁判所若クハ輓近漸ク國際私法ノ一部ト認定セラレントスル所ノ原理ヲ應用スル裁判所ノ所轄ニ歸セリ

吾人ノ討究ヲ要スル問題ハ左ノ如シ例ヘハ英國裁判所ニ於テ倒産ノ宣告ヲ受ケタル者外國ニ於テ財産若クハ貸金ヲ有スルトキハ其ノ倒産判決ハ如何ナル程度ニマテ認識

倒産ニ關ス
ル各國間ノ
認識

サルヘキヤ又財産管理人ニ撰ハレタル者ハ其ノ資格ニ於テ認識セラレ且其ノ資格ヲ以テ外國裁判所ニ於テ訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキヤ又外國ニ在ル債主ハ英國ニ於テ未タ訴訟事件落着セサルニ拘ラス倒産者ニ對シテ訴訟ヲ起シ且判決ヲ受クルトキハ外國ニ在ル倒産者ノ財産ニ執行ヲ爲スヲ得ヘキヤ又英國裁判所ニ於テ解責令ヲ發シ倒産者ヲシテ其ノ義務ヲ免レシムルトキハ外國ニ於テ倒産者ニ對スル總テノ請求ヲ消滅スルモノト認識セラル、ヲ得ヘキヤ以上列記スル所及之ニ類スル數多ノ問題ニ對スル答案ハ之ヲ討究スル國ノ法律ニ依テ其ノ趣ヲ異ニスルモノトス即チ不幸ニシテ稍論理ニ違フ所ノ語ヲ以テ之ヲ言フトキハ此ノ答案ハ此ノ問題ニ適應スル國際法ノ原理ニ關

シ當國裁判所ニ於テ有スル見解ニ依テ異ナルモノトス而シテ此等ノ原理ハ各國裁判所ノ合同説ニ依テ確定スヘキモノナリト雖トモ僅少ノ場合ヲ除ク外ハ未タ充分ナル合意ヲ得サルヲ以テ之ヲ舉示スルヲ得ス然レトモ是レ決シテ怪ムニ足ラサルナリ何トナレハ倒産法律ハ何等ノ邦國ト雖トモ必ス之ヲ有スヘキモノニアラス又之ヲ有スル邦國ニ於テモ其ノ原理ニ至テハ大ナル異同アルヲ以テナリ例ヘハ或ル國ニ於テハ倒産ハ商業者ニ限ルヘキモノトシ他ノ國ニ於テハ完全ナル解責ノ制ヲ設クルコトナシ右第一ノ場合ニ於テ裁判所ハ商業家ニアラサル者ニ對スル外國ノ倒産判決ヲ認識スルヲ肯ンセサルヘク又第二ノ場合ニ於テ裁判所ハ外國ニ於テ與ヘタル解責令ノ効力ヲ認識

スルヲ欲セサルヘシ然レトモ某國ニ於テ爲シタル倒産判決ヲ他ノ國ニ於テ認識スルコトニ關シ一定ノ制規ヲ設ケントスルノ計畫既ニ歐洲諸國ノ間ニ起レリ故ニ一方ニ於テハ此等ノ問題ニ適應スル各國ノ法律ヲ精細ニ記述スルコト成シ得ヘキニアラサルコトハ明瞭ニシテ又一方ニ於テハ反對ノ場合即チ外國ニ於テ宣告シタル倒産判決ノ認識ニ關スル英國裁判所ノ處置ニ關シ予カ嘗テ出版シタル如キ詳細ナル解説ヲ此ノ意見書ニ於テ概論スルモノノ裨益ナカルヘシ唯タ法律ノ大要ヲ摘記スルヲ以テ足レリトス一外國倒産ノ事實ハ認識スル所タリ又倒産者ノ財産管理

ニ於テ適用
スル原理ノ
大要

人ニ撰ハレタル官吏ハ英國内ニ在ル其ノ財産ヲ集收ス
ルヲ得而シテ此ノ目的ヲ達センカ爲ニ其ノ財産ニ對ス
ル負債者ヲ訴フルノ權ヲ有ス又財産管理人カ英國内ニ
在ル財産ニ對シテ有スル權利ハ英國内ニ在ル債主ノ權
利ニ勝ルモノトス故ニ債主カ(管理人撰任ノ後或ハ訴訟
未タ落着セサル場合ニ於テハ其前提起シタル訴訟ハ管
理人ノ申出ニ依リ之ヲ制限スルヲ得ルモノトス
二此ノ制規ハ無制限ナルヤ又ハ審判ヲ司リタル裁判所ノ
所在國ニ定住ヲ有スル倒産者ニ限ルヤ甚タ明確ナラス
然レトモ此ノ制規ハ倒産者ノ英國臣民ナルト否ニ拘ラ
ス總テ倒産裁判ニ關スル地方的ノ法律ニ從テ爲シタル
審判ニ適應スルノ跡ナシトセス

三此ノ制規ハ多分動産ニ限りタルモノナラン蓋シ不動産
ハ物件所在地ノ法律ニ從フヘキモノナルヲ以テ外國倒
産裁判ニ依テ定メタル管理人ニ渡スヘキモノニアラス
ト爲セリ
四外國ニ於テ英國裁判ヲ認識セサル場合ニ於テ債主若シ
此ノ事實ニ拘ラス倒産者ヨリ金員ヲ回收シ若クハ倒産
者ニ對スル負債ヲ回收スルトキハ左ノ手續ヲ適應ス
債主若シ英國臣民ナルトキハ該金員ハ財産管理人ノ
使用ノ爲ニ回收シタルモノト視做シ英國裁判所ハ債
主ヲシテ之ヲ倒産者財産ノ爲ニ償還セシムルノ手續
ヲ爲スヘシ然レトモ債主若シ外國人ナルトキハ如何
トモスル能ハス但シ斯ノ如キ債主ハ其ノ既ニ外國ニ

於テ受取りタル金圓ヲ償還スルニアラサレハ倒産者ニ對スル其ノ貸金ノ殘部ニ關シ英國倒産裁判所ニ訴フルコトヲ得サルモノトス

外國債主若シ其ノ判決ニ依テ満足ヲ得ス後日ニ至リ之ニ關スル訴訟ヲ英國ニ於テ提起スルトキハ裁判所ハ之ヲ受理スルヲ拒ミ更ニ債主ヲシテ常例ニ依リ其ノ貸金ヲ證明セシムルモノトス

倒産者英國人ナルトキハ倒産裁判ノ通知ヲ爲スヲ必要トセス何トナレハ財産管理人ノ撰任ト共ニ倒産者ノ財産ハ該管理人ニ附帶スルモノニシテ該管理人ノ權利ハ遠ク倒産事故ノ起リタル當時ニ遡ルヘキモノナレハナリ

五外國ニ於テ既ニ倒産裁判ヲ受ケタル者ニ對シテハ英國

ニ於テ倒産處分ヲ爲スヘカラスト云ヘル制規ハ漸次採用セララル、ニ至レリ

蓋シ此ノ制規ハ前項ニ記載シタル數個ノ制規ヨリ自然ニ生スル結果ナリ然レトモ此ノ問題全體ニ關シテ法律ノ言フ所精細確固ナラス且往々論理ニ反スルコトアルヲ免レス

六前記最後ノ制規ハ所謂同等ノ倒産ニノミ適應スルモノナリトス故ニ外國ニ於テ一ノ組合ニ對シ倒産裁判ヲ爲シタル事實ハ其ノ組合員ノ一名ニ對シ一個人ノ資格ヲ以テ英國ニ於テ倒産裁判ヲ執行スルヲ妨ケサルナリ但シ此ノ場合ニ於テ管理人相互ノ間ニ先得權ニ關スル至難ノ疑問ヲ生スルコトアリ

兩度ノ倒産裁判ニ於テ同一ノ貸金ヲ證明スルコトハ
 成ルヘク之ヲ防ケリ
 七最初約定ヲ爲シタル國ノ法律ニ從テ解責令ヲ得ルトキ
 ハ其ノ義務ハ之ニ依テ消滅スルモノトス
 八債主ニシテ外國倒産裁判所ノ裁判權ニ服シタルトキハ
 最初約定締結地ノ如何ニ拘ラス更ニ他ノ請求ヲ提出ス
 ルコトハ當該外國ノ發シタル解責令ノ許サ、ル所ナリ
 トス
 九帝國議院ノ成文律ニ從テ與ヘタル解責令ハ殖民地ノ裁
 判所ニ於テ之ヲ發スルト否ニ拘ラス女皇ノ領地内一般
 ニ有効タルヘシ但シ殖民地議院ノ成文律ニ從テ與ヘタ
 ル解責令ハ此ノ限ニ在ラス

十此等三個ノ制規ノ外ニ於テハ解責令ヲ認識スルコトナ
 シ
 十一倒産者ノ身分ハ其ノ審判ノ命令ヲ發シタル國ノ境土
 外ニ於テ之ヲ認識スルコトナシ
 以上列舉スル制規ハ此ノ錯雜ナル問題ノ趣意ヲ盡シタル
 モノニアラサルコトハ予ノ自ラ認ムル所ナリ仍ホ論スヘ
 キ點ハ大小共ニ數多アリト雖トモ茲ニ之ヲ論盡スルコト
 ハ企及スヘキニアラサルナリ今假ニ此等ノ制規ヲ以テ某
 外國例ヘハ伊多利ノ法律ト想像スルトキハ此等ノ制規ハ
 即チ同國カ其ノ管轄内ニ於テ我カ英國ノ請求ヲ待タスシ
 テ我カ英國倒産法ヲ執行センカ爲ニ運用スル所ノ機關ノ
 要點ヲ表示スルモノナリ若シ倒産法ノ執行ト効力トナシ

テ其國內ニ限ラシムルトキハ斯ノ如キ機關ハ全ク無用ニ
 歸スヘシト雖トモ商業上并ニ日常生計上ノ事情ハ斯ノ如
 キ限制ヲ容レサルヲ如何セン例ヘハ一英國人書籍ヲ巴理
 ニ注文シ未タ其ノ代價ヲ拂ハサル前倒産ノ宣告ヲ受ケタ
 ル場合ニ於テ英國法律ハ該佛國債主ヲシテ他ノ英國債主
 ト協議セシムルノ權力ヲ有セサルカ故ニ此ノ時ニ於テハ
 全ク佛國法律ノ補助ニ依頼セサルヘカラス蓋シ一ノ邦國
 カ爲シ得ヘキ所ハ唯タ其ノ倒産法ノ効力ハ果シテ何ノ處
 ニマテ及フヲ至當ト爲スヘキカヲ明言スルニ止ルノミニ
 シテ其ノ裁判所ハ外國ニ在ル人ノ上ニ其ノ裁判權ヲ及ホ
 スノ權ヲ有セサルカ故ニ外國ニ在ル人ノ上ニ其ノ執行權
 ヲ及サント欲スレハ其外國ノ好意ニ依頼セサルヘカラス

大意摘記

然レトモ若シ一ノ邦國ニ於テ其ノ裁判所ヲシテ外國倒産
 裁判ノ補助ヲ爲サシムルトキハ外國ノ好意ニ酬ヒ以テ同
 國ノ助力ヲシテ有効ナラシムルヲ得ルナリ何トナレハ歐
 洲大陸諸國ニ於テハ相互主義ヲ以テ原則トスレハナリ
 英國倒産法ノ原則ハ左ノ如ク摘記スルヲ得ヘシ
 總テ英國ニ於テ定住ヲ有シ若クハ常住スル者ハ(商業家ニ
 アラサル既婚女子ヲ除ク外)何人ト雖トモ倒産ノ宣告ヲ爲
 スヲ得ヘキコト
 財産管理人ヲシテ宇宙萬國ニ在ル倒産者ノ財産ヲ集收ス
 ル爲ニ必要ノ處置ヲ爲サシムルコト
 倒産者ニ對スル債主ハ其ノ在住地ノ如何ニ拘ラス財産分
 配ニ與カルヲ得ヘキコト

總テ倒産裁判ニ於テ證明スルヲ得ル義務ニ對シテ解責スヘキコト

既ニ外國ニ於テ裁判ヲ始メタル場合ニ於テハ外國裁判所ノ爲ニ其ノ權ヲ讓ルコト

外國倒産管理人英國内ニ在ル財産ヲ集收スルノ權利ヲ充分ニ認許シ且之ヲ補助シテ集收セシムルコト

外國ノ解責令ハ或ル場合ニ限り之ヲ認識スルコト

第五章 會社事件ニ關スル裁判管轄權

一 外國會社ノ登録

英國會社條例ニ於テハ三種ノ相異リタル會社ヲ認メタリ曰ク株主ノ責任ヲ其ノ株金未納額ニ限ルモノ曰ク保證ニ依テ責任ヲ制限スルモノ曰ク無限責任ノモノ即チ是ナリ而シテ重要ナルハ只タ第一ノ會社ナリトス

有限責任ノ條件ハ左ノ如シ

(以)二十人以上(銀行ハ十人以上)ヨリ成立スル會社又ハ組合ニシテ收利ヲ以テ目的トスルモノハ條例ニ依リ登録スルニアラサレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

(呂)七人又ハ八人以上有有限責任ノ利益ヲ得有セント欲スルトキハ條例ニ從ヒ其ノ會社又ハ組合ヲ登録スルコトヲ

得

會社趣意書ニハ登録シタル會社ノ位置ハ合衆王國內英
蘭蘇格蘭又ハ愛爾蘭ノ何レニ在ルヤヲ他ノ事項ト俱ニ
記載セサルヘカラス

以上ノ條件ニ基キ左ノ原則ヲ論定スルコトヲ得ヘシ組合
員ノ員數ニ關スル規則ハ英國ニ於ケル人民ニ適用スヘキ
モノニシテ其ノ事業ノ版圍ニ關係セス蓋シ事業ノ版圍ハ
南亞弗利加ニ在ルモ又ハ太平洋島ニ在ルモ妨ナシトス組
合員英國ニ在リテ其ノ人數二十一名以上ナルトキハ登録
セサルヘカラス又其ノ人數七名以上二十名以下ナルトキ
ハ登録スルヲ得ルモノトス
英國ニ於テ營業スル目的ヲ以テ全ク外國ニ於テ組織シタ

外國會社

ル會社ハ必スシモ登録スルヲ要セス然レトモ斯ノ如キ會
社ニシテ若シ英國會社法ノ便益ヲ享受セント欲スルトキ
ハ英國ニ於テ其ノ店ヲ登録シ且其ノ組合員ノ内少クトモ
七名ハ英國内ニ居住セサルヘカラス

二外國會社ノ閉鎖

會社ニシテ其ノ負債ヲ辨償スルコト能ハサルカ又ハ其
ノ他條例ニ記載シタル理由ニ依リ閉鎖スルトキハ裁判
所ノ管轄權ハ獨リ登録會社ニ限ラスシテ七名以上ノ組
合員ヨリ成立スル無登録會社ニモ及フモノトス
外國會社ニシテ其ノ業務ノ幾分ニテモ英國ニ於テ之ヲ
取扱フモノニ關シテハ閉鎖狀ヲ下付スルヲ常則トセリ

會社閉鎖ニ
於ケル裁判
權

會社條例ノ解釋ハ果シテ當テ得タルモノナルヤ否ニ付
テハ多少ノ疑ヲ免レス何トナレハ予カ探知シ得タル所
ニ依レハ裁判所ハ閉鎖狀ヲ發スルニ當リ未タ其ノ會社
組合員七名以上英國内ニ在ルヤ否ヲ問ヒタルコトナケ
レハナリ然レトモ又一方ヨリ之ヲ言フトキハ普通ノ倒
産裁判權ニ依レハ凡ソ英國ニ於テ營業スル人ハ假令支
配人又ハ手代ヲシテ其ノ實務ヲ取扱ハシムルモノト雖
トモ仍ホ倒産ノ處分ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス
此ノ條例(會社條例ヲ云フ)カ更ニ一層此ノ問題ノ基礎ヲ
鞏固ニセサリシハ惜ムヘキコトトス何トナレハ此ノ問
題ハ商業社會ノ爲ニ至大至重ナルモノナレハナリ
若シ英國ノ會社ニ外國株主ヲ有スルトキ殊ニ外國法律

執行ノ範圍外ニ在ル純然タル外國會社ニシテ英國内ニ
在ル場合ニ於テハ復タ外國裁判所命令ノ認識ニ關スル
錯雜シタル問題ヲ提出セサルヲ得サルナリ
此ノ條例ニ依レハ何等ノ場合ニ於テモ閉鎖狀ヲ發スル
ト之ヲ發スルコトヲ拒ムトハ裁判所ノ意見ニ任スルモ
ノトス而シテ之ヲ發スル場合ノ一トシテ左ノ如キ款項
アリ曰ク總テ裁判所ニ於テ會社ノ閉鎖ヲ以テ正當衡平
ト思惟スルトキ云々
外國會社ニ關スル事件ニ於テ裁判所ハ二様ノ方法ヲ以
テ其ノ意見ヲ執行セリ
第一若シ債主ノ願書ニシテ他ノ點ニ於テ正當ナルトキ
ハ單ニ後日ニ至リ外國裁判所ニ依頼セサルヲ得サル事

故ニ依リ閉鎖狀ヲ發スルコトヲ拒マス何トナレハ國際
 法ノ原理ニ從ヘハ外國裁判所ハ其ノ閉鎖ヲ認識シ之ニ
 關スル命令ノ執行ヲ補助スルモノナレハナリ
 第二假令債主ノ願書正當ナルトキト雖トモ若シ英國ニ
 於テ實際衡平ヲ持スルノ方法アリ且干渉ニ依テ害ヲ生
 スルノ憂ナキコトヲ證明スルニアラサレハ裁判所ハ其
 ノ裁判權ヲ執行スルコトナシ
 次ニ同時倒産ニ關シ既ニ列舉シタル大則ハ會社ノ場合
 ニ於テモ之ヲ適應シ若シ正當ノ裁判權ヲ有スル外國裁
 判所ニ於テ已ニ會社ニ對シテ閉鎖狀ヲ發シタルトキハ
 英國裁判所ハ之ヲ認識シ只タ該外國ノ閉鎖ヲ補助シ英
 國ニ在ル財産ヲ保護スル爲ニ補充命令ヲ發スルノミ

三英國會社ノ外國株主ニ對スル裁判管轄權

會社財産ノ評定ヲ爲スニ當リ評定者カ第一ニ爲サ、ル
 ヘカラサル要件ハ未納株金ヲ徵收スルニ在リ株主ノ員
 數夥多ナルトキハ法律ノ機關ニ依テ其ノ義務ヲ執行セ
 シメサルヲ得サル者數多アルヘシ故ニ斯ノ如キ株主ニ
 對シ訴訟ヲ提起スル無益ノ費用ヲ省ンカ爲ニ召喚狀ヲ
 發シ差引請求ヲ命スルノ簡便法ヲ行ヒ以テ一ハ未納金
 ノ徵收ヲ迅速ナラシメ又一ハ株主ヲシテ辨護ノ機會ヲ
 得セシメタリ此ノ法ノ便利ナルコトハ明瞭ナリトス何
 トナレハ該負債義務ハ元來履行スヘキモノナレハナリ
 然レトモ裁判管轄外ニ在ル株主ニ對シテ之ヲ行フニ當

リ大ナル困難ヲ生シタルコトアリ
 第一ノ困難ハ未納金徵收命令ノ執行願ヲ受ケタル外國
 法廷ニ於テ之ヲ起生セリ殊ニ佛國裁判所ハ該簡便法ハ
 辨護ノ爲ニ充分ノ保證ヲ有セスト云フ大體ノ理由ニ依
 リ該命令ヲ認識スルコトヲ拒メリ是レ或ハ此ノ法ノ性
 質并ニ其ノ必要ニ關シ未タ充分ノ説明ヲ佛國裁判所ニ
 與ヘサルニ依ルナラント雖トモ元來其ノ認識ヲ要スル
 ハ單ニ簡便ナリト云フノ外他ニ正確ナル理由アルニ依
 ルナリ抑外國人英國會社ノ株主トナルトキハ明ニ同會
 社ノ定款ニ從ヒ且同會社トノ關係ニ就テハ同會社ヲ支
 配スル所ノ法律ニ服從スルモノトス若シ之ニ服從セス
 トセハ他ノ株主ハ一ノ株主ヲシテ利益ハ平等ニ享受シ

召喚狀ヲ外
 國ニ發フル

責任ニ關シテハ特別ノ地位ニ立タシムルコトヲ承認ス
 ルモノト斷定セサルヘカラス若シ外國人ニシテ其ノ自
 國裁判所ニ於テ斯ノ如キ判決ヲ得ルトキハ之ニ依テ少
 クトモ未納金ノアル間ハ會社ノ株ヲ所持スルヲ免ル、
 ニ至ルコト必然ノ結果ナラン
 英國裁判所ハ常ニ之ト反對ノ判決ヲ爲セリ既ニ記載セ
 シ如ク凡ソ英國人ニシテ外國會社ノ株主トナリタル者
 ハ同會社ノ定款并ニ外國會社法ノ條項ニ服從スルモノ
 ナルヲ以テ同人ニ對シ該法ニ從テ爲シ若クハ會社定款
 ニ依テ得タル判決ハ英國ニ於テ之ヲ執行スルコト是レ
 英國ノ制規ナリトス
 然レトモ更ニ一層緊要ナル困難事アリ乃チ近年ニ至リ

英國裁判所カ自ラ起シタルモノ是レナリ蓋シ從來ノ慣習ニ依レハ未納金通知書召喚狀并ニ差引請求ハ郵便ニ依テ之ヲ外國ニ在ル株主ニ送付セリ而シテ此ノ慣習ハ始審裁判所ノ採用スル所ナリシ予ハ民事裁判權ノ問題ヲ論スルニ當リ陳述シタル如ク凡ソ訴訟事件ヲ始ムルニ要スル召喚狀其ノ他ノ書類ハ成文律若クハ成文律ニ從テ設ケタル規則ニ依ルニアラサレハ之ヲ裁判管轄外ニ送付スルヲ許サ、ルヲ以テ英國訴訟法ノ原則トナセリ而シテ近年ニ至リ控訴院ハ此等ノ會社ニ關スル通知書ノ場合ニ於テハ斯ノ如キ制規ナキカ故ニ之ヲ外國ニ通知スルヲ以テ不法ト爲セリ予ハ他ノ章ニ於テ此ノ判決ノ果シテ正當ナルヤ否ニ關シテ疑點ヲ陳述セリ然レ

トモ貴族院ニ於テ予カ想像スル如ク此ノ判決ヲ取消スマテハ之ヲ以テ此ノ場合ニ適應スル法律ト視做サ、ルヘカラス
然レトモ此ノ判決ハ唯タ前來陳述シタル特殊ノ訴訟手續ニ關スルモノニシテ財産評定者ハ猶ホ外國株主ニ對シ所謂管轄外召喚狀ヲ送致スルノ許可ヲ請ヒ以テ未納金請求ノ訴訟ヲ英國裁判所ニ於テ提起スルヲ得ルナリ何トナレハ予カ此ノ意見書ノ前章ニ於テ開陳シタル約定違反ニ關スル訴訟ノ場合ニ於ケル召喚狀送付ノ條項ヲ此ノ事件ニ應用スルヲ得ヘケレハナリ

四裁判所ノ非常權

閉鎖ヲシテ成ル可ク有効ナラシメンカ爲ニ裁判所ハ當該會社ニ對スル訴訟ハ該事件前ニ起リタルト其ノ後ニ起リタルトヲ論セス總テ之ヲ停止スルノ權ヲ有ス而シテ外國法廷ニ於ケル訴訟ニ對シテ英國裁判所カ施ス處ノ處置ニ關スル理論ハ既ニ之ヲ論究セリ
裁判所ハ又株主ニシテ合衆王國ヲ去リ若クハ潛匿セントスル證據アルトキハ其ノ逮捕ヲ命シ或ハ未納金徵收ヲ免レ若クハ會社ノ事件ニ關シ檢査ヲ避ケンカ爲メ株主其ノ所有品ヲ輸送セントスルトキハ該物品ヲ差押フルコトヲ得又外國ニ在ル證人ノ審問ニ關シテモ充分ノ權力ヲ裁判所ニ與ヘタリ

第六章 婚姻事件ニ於ケル裁判管轄權

此ノ名目ハ婚姻契約ヲ爲ス能力婚姻ノ効力子女ノ正私婚姻ノ紛爭并ニ離婚ニ關スル裁判所ノ裁判權等ノ緊要問題ヲ總括スルモノナリ此等ノ問題ニ關スル英國法律ハ實際事件ノ起ルニ當リ之ヲ明瞭ニ點示スルコト能ハサル場合ナシトセス故ニ之ヲ以テ完全ナリト云フコトヲ得サルナリ然レトモ予ノ見ル所ニテハ他ノ諸國ノ法律ニ於テモ亦同一ノ觀アルヲ免レサルヘシ蓋シ此ノ問題ニ於テハ他ノ問題ニ於ケルヨリ統一ヲ缺クコト更ニ大ナルハ確乎タル事實ナルカ如シ
第一ニ婚姻ノ契約ヲ爲ス能力ニ付テ論述セン大體ニ於テ之ヲ云フトキハ此ノ能力如何ハ定住地ノ法律ニ依ルモノ

トス即チ之ヲ細言スレハ雙方ノ身分ハ各自其定住地ノ法律ニ依リ婚姻ノ自由ヲ有スルモノナラサルヘカラス語ヲ更テ之ヲ云ヘハ雙方ノ一ニ於テ該法律ニ依リ婚姻承諾ニ關スル一身上ノ不能力ヲ有セサルヲ要ス

此ノ定義ニ關シテ吾人ノ考慮ヲ要スル數個ノ論點アリ第一ニ此ノ定義ハ定住地ノ法律ヲ以テ本國法律ノ上ニ置クコトヲ考察スルコト緊要ナリ又此ノ定義ニ依レハ何人ニテモ其ノ臣屬關係ヲ有スル國ノ法律如何ニ拘ラス苟モ其ノ定住地ノ法律ニ依リ婚姻スル能力ヲ有セサルトキハ其ノ婚姻ハ無効タルヘキモノトス是レ英國裁判所ニ於テ意義廣大ニシテ普ク是認セラレタル法律ノ原理ナリトノ斷定ヲ得タルモノナリ然リト雖トモ一ノ邦國ニ於テ其ノ人

民婚姻能力ニ關スル法律ヲ制定スルトキハ法律上ノ紛爭ヲ生スルハ避クヘカラサルナリ

例ヘハ葡萄牙國ノ法律ニ於テハ從兄弟從姉妹ノ關係ヲ有スル同國臣民間ノ婚姻ヲ禁セリ然レトモ此ノ關係ヲ有スル二人ノ葡萄牙國臣民英國内ニ定住ヲ有シ婚姻スルトキハ英國裁判所ハ葡萄牙國ノ法律ニ拘ラス其ノ婚姻ヲ以テ有効ノモノト爲スヘシ

此ノ點ニ於テ英國法律ハ論理ニ協ヘリ何トナレハ或ル古キ成文律ニ於テ英國又ハ其ノ領地内ニ在ル臣民若クハ居住人ハ禁止程度内ニ於テ親屬ノ婚姻ヲ爲スヲ許サ、ルニ拘ラス若シ從兄弟從姉妹ノ關係ヲ有スル英國臣民ニシテ其ノ婚姻ヲ許可スル外國ニ於テ定住ヲ有スル者ニ對シテ

不能力ハ一
身上ナラサ

英國法律ハ(現今ノ通説ニ從ヘハ)其ノ婚姻ヲ認識スヘケレ
 ハナリ
 此ノ問題ハ多クハ英國法律ニ於テ禁スル亡妻ノ姊妹トノ
 婚姻ニ關シテ起ルモノトス吾人ハ一例ヲ舉テ前條ノ原則
 ナ應用セン茲ニ一英國人アリ斯ノ如キノ婚姻ヲ許ス所ノ
 丁抹國ニ至リ其ノ亡妻ノ姊妹ト婚姻ヲ行フト假想センニ
 此ノ婚姻ハ無効タルヘシ然レトモ若シ雙方共ニ同國內ニ
 定住ヲ有スルトキハ其ノ婚姻ハ有効ナリトス又丁抹國男
 女英國ニ於テ婚姻ヲ行フトキハ同國內ニ定住ヲ有セサル
 ニ於テハ其ノ婚姻ハ有効タルヘシ然レトモ若シ同國內ニ
 定住ヲ有スルトキハ其ノ婚姻ハ無効トス
 第二ニ不能力ハ全ク本人一身上ニ限ル不能力ナラサルヘ

ルヘカラス

カラス而シテ此ノ論點ハ各種異説ノ爭論ヲ經テ始メテ確
 定シタルモノナリ例ヘハ未タ或ル成規ノ年齢ニ達セサル
 人其ノ定住地ノ法律ニ依リ全ク婚姻ヲ行フコトヲ得サル
 トキハ是レ一身上ノ不能力トス之ニ反シテ若シ不能力ナ
 ルニアラスシテ第三者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ婚姻ヲ
 爲スヲ許サ、ル場合ノ如キハ一身上ノ不能力ト云フヘカ
 ラス此ノ場合ニ於テ婚姻ノ効力有無ハ他ノ規則ニ依テ之
 ナ斷定スルモノトス此ノ規則ニ依レハ婚姻ノ要件ハ定住
 地ノ法律ニ從フヲ要スト雖トモ契約ノ法式ハ一般契約ニ
 於ケル如ク契約ヲ爲ス土地ノ法律ニ從フヘキモノトス故
 ニ佛國男女英國ニ於テ婚姻ヲ爲シ佛國法律ニ於テ要スル
 如ク其ノ父母ニ對スル敬式ヲ行ハサルトキハ其婚姻ハ佛

外國ニ於ケル英國人ノ婚姻

國法律ニ於テハ無効ナリト雖トモ英國裁判所ニ於テハ之ヲ無効トスルコトヲ拒メリ

婚姻ノ法式ハ之ヲ行フ土地ノ法律ニ從フヘシト云フ制規ハ數多ノ難問ヲ生スルノ憂アルヲ以テ外國ニ居住スル英國臣民ニ對シ左ノ婚姻ヲ有効ト爲ス旨ノ規定ヲ爲セリ

任地ニ居住スル英國大使若クハ公使ノ寺院若クハ居宅ニ於テ監督教會牧師ノ面前ニ行フタル婚姻

外國ニ屯在スル英國軍隊ノ宣教師士官又ハ其ノ他司令官ノ命ヲ受クル者ノ面前ニ於テ爲ス兵士ノ婚姻

女皇陛下ノ國務大臣ノ命ニ依リ婚姻ヲ執行スルノ權力ヲ有スル英國領事又ハ領事代理ノ在住スル外國地方ニ於テ行フタル婚姻男女ノ内一人若クハ二人共英國臣民

領事婚姻

ナルトキ)

外國ニ於テ領事婚姻ヲ爲ストキハ領事ニ通知ヲ爲シ領事廳ニ此ノ通知ヲ揭示スヘキモノトス而シテ適當ノ權力ヲ有スルモノハ其ノ婚姻ノ執行ヲ禁スルコトヲ得蓋シ英國ニ於テ特許ニ依ル婚姻ニ必要トスル同意ハ此ノ場合ニ於テモ亦均シク必要ナリトス

特許ニ依ル婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ雙方共ニ其ノ婚姻ニ對シ法律上何等ノ故障ナシト信スルコト其ノ前滿一箇月間領事管轄地内ニ居住シタルコト及必要ノ場合ニ於テハ他ノ人ノ同意ヲ得タルコトヲ宣誓スルヲ要ス而シテ婚姻ハ領事廳ニ於テ領事ニ依リ又ハ領事并ニ二名ノ證人ノ面前ニ於テ特許ニ依ルノ婚姻ナレハ七日後ニ之ヲ行ヒ

若シ特許ニ依ルノ婚姻ニアラサルトキハ二十一日後ニ之ヲ行フヘキモノトス
 婚姻ノ登記ハ毎年之ヲ英國登記長官ニ宛テ進達スルモノトス
 最モ信用スヘキ論者ノ説ニ依レハ婚姻ハ之ヲ行フ土地ノ法律ニ從フヲ要スト云ヘル規定ニ對シ成文律ノ外ニ於テ英國法律ハ左ノ除外例ヲ認許スルモノトス
 第一婚姻セントスル男女外國ニ在留シ其ノ土地ノ法律ニ從ヘハ到底婚姻ヲ爲スノ道ナキトキハ其ノ好ム所ノ法律ニ從テ之ヲ行フヲ得而シテ其ノ婚姻ハ本國ニ於テ有効ノモノト認メラル、モノトス然レトモ婚姻ニ對シ土地ノ法律ヨリ生スル故障ハ實際排除スルコト能ハサルモノタラ

サルヘカラス例ヘハ宗教上ノ障碍ノ如キ是ナリ單ニ一時ノ故障ニシテ僅少時日ノ經過ニ依リ若クハ瑣少ノ讓與ニ依リ之ヲ避クルコトヲ得ル如キモノナルヘカラス
 第二若シ婚姻ヲ行フ土地ニ於テ普通法ノ外ニ外國人ヲシテ其ノ好ム所ノ法式ニ從ヒ婚姻ヲ行フヲ得セシメ其ノ婚姻ヲ有効ト認ムル特別ノ法律アルトキハ外國人ハ此ノ法律ヲ利用スルコトヲ得而シテ其ノ婚姻ニシテ其ノ定住地ノ法律ニ違反セサル以上ハ本國ニ於テモ有効タルヘキモノナリ
 子女正私ノ問題ハ兩親婚姻ノ効力有無ニ依テ之ト同時ニ判定スルモノトス

私生子ヲ婚
コト依テ爲ス
ト爲ス

以上開陳スル所ニ依レハ婚姻ノ法式ニシテ之ヲ行フ土地
ノ法律ニ依ラサルノ場合ヲ除ク外子女ノ正私ハ其ノ父定
住地ノ法律ニ依ルモノトス但シ婚姻雙方ノ臣屬スル國ノ
法律ニ依テ或ル特別ノ法式ヲ認許スルトキハ此ノ限ニ在
ラス
私生子ヲ婚姻ニ依テ正出子ト爲スコトニ關シテ甚ダ緊要
ナル問題ヲ生スルナリ英國法律上斯ノ如キ明條ナシト雖
トモ論理上斯ノ如キ方法ヲ以テ正出子ト爲スノ制規ヲ取
レリ
蘇格蘭ノ法律ニ於テハ私生子ヲ婚姻ニ依テ正出子ト爲ス
ヲ許スノ明條アリ
若シ父定住地ノ法律ニ於テ私生子ヲ婚姻ニ依テ正出子ト
爲ストキハ何レノ邦國ニ於テモ之ヲ以テ正出子ト視做ス

ヘシ而シテ該法律ニ於テ斯ル場合ノ婚姻ヲ定住地ニ於テ
執行スルコトヲ要セザルトキ上ニ陳述シタル原則ニ從フ
有効ノ婚姻タル以上ハ何レノ土地ニ於テ之ヲ行フモ亦妨
ケナカルヘシ
此ノ場合ニ於テハ夫ノ定住地法律ニ依ルヘキモノトス蓋
シ婚姻前ニ出世シタル子女ノ定住ハ其ノ母ト同一ニシテ
又妻ノ定住ハ夫ト同一ナリトス故ニ未成年ノ子女ノ定住
ト其ノ母ノ定住ト共ニ移動スルモノニシテ其ノ母ノ定住
ハ婚姻ニ因リ父ノ定住ト同一ニナルモノトス但シ子女成
年ニ達スルトキハ其ノ定住ハ斯ノ如キ移動ヲ爲スヲ得サ
ルノミ是ニ依テ之ヲ觀レハ婚姻後ニ既生ノ子女ヲ正出子
ト爲スヲ得ルモノニシテ其ノ結果ハ私生ノ惡名ヲ去リ以

テ子女ヲシテ宛モ婚姻後ニ出生シタルト同一ノ地位ニ居
 ラシムルニ在リ故ニ其ノ定住ハ其ノ父ノ定住ト同一ナル
 ヘシ是レ前記普通規則ノ理由ナリトス
 此ノ場合ニ適應スル定住地ノ法律ハ子女出生ノ當時ニ於
 ケル父ノ定住地ノ法律ニシテ婚姻ノ時ニ於ケル父ノ定住
 地ノ法律ニアラサルナリ
 既ニ正出子トナリタル者ノ國籍ハ其ノ父ニ從フモノトス
 次ニ吾人ハ何等ノ裁判所ハ婚姻關係ノ解除ニ關スル裁判
 權ヲ有スルヤト云ヘル重要ノ問題ヲ講究セン此ノ問題ハ
 社會上并ニ法律上ノ理由ニ依リ重要ナリトス而シテ後者
 ノ内民法ニ於テハ再婚ニ因テ出生シタル子女ノ正私并ニ
 其ノ相續權ノ件又刑法ニ於テハ多妻ノ件ヲ以テ其ノ重ナ

ルモノトス

外國ニ於テ爲シタル離婚ノ宣告ノ内如何ナルモノハ英國
 ニ於テ之ヲ認識スヘキヤト云ヘル問題ニ關スル法律ヲ確
 定セシハ近ク一千八百八十二年ニ在リ是レ豈ニ一大奇事
 ニアラスヤ或ル事件ニ關シ同年貴族院ニ於テハ英國ニ於
 ケル婚姻ハ英國裁判所ノ外之ヲ解除スルコト能ハスト云
 ヘル古説ハ最早適應スルコトヲ得サルモノニシテ外國裁
 判所ト雖トモ或ルモノハ啻ニ英國ニ於ケル婚姻ノミナラ
 ス何等ノ邦國ニ於テ行フタル婚姻ニテモ之ヲ解除スルヲ
 得又或ルモノハ之ヲ解除スルヲ得サルモノナリト議決セ
 リ既ニ或ル外國裁判所ハ婚姻ヲ解除スルヲ得ト云ヘハ該
 裁判所ノ宣告ハ英國ニ於テ之ヲ認識シ且離婚者ハ再ヒ婚

姻ノ自由ヲ有スルノ義ナリトス又或ル外國裁判所ニ於テ
 婚姻ヲ解除スルヲ得スト云ヘハ該裁判所ノ宣告ハ英國ニ
 於テ之ヲ認識セス且原被雙方トモ猶ホ夫妻ト視做スノ義
 ナリトス
 吾人カ民事裁判權ヲ講究スル時ニ際シテ論及シタル困難
 ハ又此ノ問題ニ於テ吾人ノ前ニ横ハレリ抑婚姻ニ於ケル
 裁判權ニ關スル法律ハ各國皆異レリ該法律ハ或ル國ニ於
 テハ甚タ廣ク或ル國ニ於テハ甚タ狹シ故ニ或ル適當ナル
 裁判所ノ宣告ハ之ヲ認識スト云フトキハ其ノ法律ニ於テ
 適當ナリト云フニアラス是レ最初ヨリ假定スル所ナリ又
 必シモ英國裁判所ノ裁判權ニ關スル法律ニ於テ適當ナリ
 ト云フノ意ニアラス唯タ當該裁判所ニ於テ其ノ事件ノ必

要ニ應シテ適用シタル衡平ナル標準ニ依テ適當ナリト云
 ノ義ナリトス議院ハ此ノ問題ヲ成文律ト爲スコトヲ終始
 拒否セリ其ノ結果ハ關係人雙方ノ爲ニ甚タ不利益ナリト
 ス何トナレハ或ル國ニ於テハ離婚シ或ル他ノ國ニ於テハ
 依然夫妻ノ關係ヲ有スレハナリ
 英國ニ於テ此問題ハ甚タ緊要ナリトス何トナレハ蘇格蘭
 ニ於テ離婚ニ關スル法律甚タ寬大ニ過タレハナリ同國裁
 判所ニ於テハ何レノ地ニ於テ婚姻シタル者ト雖トモ四十
 日以上同國ニ在住スルトキハ之ニ對シ離婚ノ宣告ヲ爲ス
 ヲ得又英國ニ於テ夫ノ姦通ハ單ニ法律上ノ別居ヲ許スニ
 止ルト雖トモ蘇格蘭ニ於テハ離婚ノ理由ト爲スヲ得故ニ
 英國人ハ國境ヲ越ヘ蘇格蘭裁判所ノ管轄ニ歸シ以テ離婚

英國ノ制規

ノ宣告ヲ得ント欲スルモノアリ而シテ此ノ種ノ離婚并ニ外國ニ於テ得タル類似ノ離婚ニ關シテハ若シ英國法律ヲ避ケ單ニ離婚ヲ得ルノ目的ヲ以テ外國法律ニ服從センカ爲メ同國ニ往キタルトキハ英國ニ於テ其ノ離婚ノ宣告ヲ認識セサルヲ以テ原則ト爲セリ

次ニ離婚ニ關スル英國裁判所ノ裁判權ニ論及スルヲ便利トス既ニ陳述シタル如ク此ノ問題ハ民事裁判權ノ如ク立法院若クハ裁判所制規ニ依リ規定スルコトナク全ク司法條例ノ規定スル條則ノ執行外ニ之ヲ置キ裁判所ヲシテ專ラ法理ニ據テ判決セシメタリ

然レトモ離婚裁判所ニ於テ訴訟ヲ提起スルトキニ差出ス訴願書ヲ裁判管轄外ニ送付スルコトニ關シテハ裁判所其

ノ送付ヲ許可スルヲ適當ト認ムル場合ニ對シ制規ヲ設ケタリ

離婚ノ裁判ハ最初婚姻關係ヲ完結シタル土地ニ關スル問題ト全ク別問題ニシテ之ヲ畧言スレハ關係人雙方ノ定住ニ依ルモノトス此ノ裁判權ハ左ノ種類ノ人ニ及フモノトス

一、何等ノ土地ニ居住スルニ拘ラス總テ英國内ニ定住ヲ有スル英國人

二、何等ノ土地ニ居住スルニ拘ラス總テ英國内ニ定住ヲ有スル外國人

關係人雙方ノ定住ニシテ已ニ英國内ニアルトキハ婚姻及姦通其ノ他離婚若クハ法律上別居ノ原因ハ外國ニ於

テ起リタル場合ト雖トモ英國裁判ノ管轄ニ屬スルハ普通ノ規則ナリトス
 此ノ普通規則ニ依レハ單ニ英國内ニ居住シ未ダ定住ナ有セサル者ハ其ノ裁判ノ管轄ニ屬セサルモノトス斯ノ如キ人ハ固ヨリ裁判所ニ於テ民事并ニ刑事裁判權ニ屬スト雖トモ婚姻解除ノ如キ重要ナル事件ノ爲ニハ單ニ居住ノ事實ヨリ更ニ永久ノ資格ヲ要スルモノトス
 外國ニ定住ナ有スル英國人ニ關シテ精確ナル規則ヲ記載スルコト困難ナリトス何トナレハ予ノ知ル所ニテハ此ノ點ニ論及スル訴訟ノ近年ニ起リタルヲ聞カサレハナリ往時ノ訴訟ニ於テハ假令定住ヲ移動スルトモ臣屬ノ關係未タ消滅セスト云ヘル理由ニ依リ斯ノ如キ人ニ對シテ裁判

夫妻居住地ノ法律

權ヲ執行セリ之ニ反對ノ判決ナキ間ハ假令間反對論ヲ持スル法律家アリト雖トモ之ヲ以テ法律ト視做サ、ルヘカラス
 外國ニ定住ナ有スル外國人ハ英國離婚裁判所ノ管轄ニ屬セサルヲ以テ普通ノ規則トス
 前二項ノ場合ニ對シ輒近ニ至リ緊要ナル除外例ヲ設ケタリ控訴裁判所ハ定住ノ如何ニ拘ラス苟モ夫妻居住^{マトリモニヤルホム}ヲ英國内ニ於テ有スル者ニ對シテ離婚裁判ハ其ノ權力ヲ執行スルコトヲ得ト判決シタルコト即チ是ナリトス而シテ此ノ問題ハ至重大ノモノナルヲ以テ予ハ該判決中ヨリ左ノ二項ヲ摘載セントス曰ク其ノ國人ナルト外人ナルヲ問ハス或ハ定住ナ有スルト否ニ拘ラス苟モ自ラ擇ンテ其ノ國

内ニ來住シ來住ノ間ニ天帝若クハ其ノ國ノ法律ニ觸ル、者ニ對シ一國立法院ニ於テ至當ト認ムル處分ヲ行フハ國際上ノ例規ニ反スルモノニアラスト又曰ク婚姻ヲ解除スルニ當リ單ニ夫ノ意向ニノミ從フヘキモノトスルハ最モ道理ニ悖リタル論ナリトス而シテ定住ナルモノハ一ニ夫ノ意向ニ依テ定ムルモノナルカ故ニ夫妻居住ニシテ既ニ英國内ニ存シ同國內ニ於テ非行ヲ爲シタル場合ニハ同國ノ裁判權ヲ執行シ同國ノ法律ヲ適用スヘキモノトスト之ヲ要スルニ離婚并ニ法律上ノ別居ニ關スル訴願ハ夫英國内ニ定住スルカ若クハ夫妻居住同國內ニ存スルトキニ限り英國裁判所ニ於テ之ヲ受理スルコト同國裁判所ノ制規ナルカ如シ

「ニゴエー」
ノ事件

夫妻居住ニ關シ該制規ノ緊要ナルコトハ此ノ制規ヲ確定シタル事件ノ事實ニ依テ明瞭ナリトス蓋シ該事件ニ於テハ夫ハ佛國人妻ハ英國人ニシテ婚姻ハ「ジブラルタル」ニ於テ舉行シ其ノ後數年間夫妻共ニ英國内ニ居住セシト雖トモ夫佛國領事ノ職ヲ帶ヒタルヲ以テ其ノ定住ハ尙ホ佛國ニ在リ而シテ離婚訴願ノ原因タル姦通放棄ノ所爲ハ英國内ニ於テ行フタルモノナリ
夫妻權ノ回復ニ關スル訴訟ハ被告裁判所ノ管轄内ニ在ル場合ノ外ハ之ヲ受理セス何トナレハ此ノ訴訟ニ於ケル判決ハ一身上ノ命令ノ性質ヲ有スレハナリ
婚姻ノ無効ニ關スル訴訟ハ全ク婚姻ヲ爲シタル當時夫ノ定住シタル土地ノ裁判所ノ管轄ニ在ルモノトス何トナレ

ハ此ノ問題ハ婚姻ノ當時ニ於ケル關係人雙方ノ地位及其ノ際ノ事情ニ關スルモノナレハナリ
次ニ吾人ハ再ヒ外國離婚ノ認識ニ關スル問題ニ立戻テ講究スヘキ機會ニ達シタリ
若シ夫レ一ノ問題ヲ確定スルニ當リ裁判所ヲシテ立法院ノ干涉ヲ受クルコトナカラシメハ其ノ全ク確定スルニ至ルマテニ數多ノ時日ヲ費スヲ免レスト雖トモ其ノ一旦確定スルニ於テハ事理論法ニ協ヒタル條文ヲ見ルヲ得ヘシ是レ實ニ吾人カ將ニ講究セントスル問題ニ於テ見ル所ナリ其ノ結果タルヤ民事ニ於テ制定シタル規則ト大ニ相反シタル趣ヲ呈セリ抑民事上ノ規則ハ半ハ裁判所ニ於テ判定シ半ハ立法院ニ於テ判定セリ故ニ不在被告ノ上ニ裁判

權ヲ有スル裁判所ノ規則ト外國ノ制定ニ關スル同一規則ノ認識ヲ拒ム法律トノ間ニ一モ論理ノ貫聯スルヲ見サルナリ然レトモ離婚裁判ノ問題ニ於テハ外國人并ニ不在訴願者ニ對スル裁判權ニ關スル規則及外國離婚判決ノ認識ニ關スル規則ノ兩者ハ同一ノ原理ニ基テ之ヲ制定スルヲ得タリ
依テ吾人ハ外國離婚ニ關スル規則ヲ左ノ如ク陳述スルヲ得ルナリ
夫其ノ國ニ定住若クハ夫妻居住ヲ有スル場合ニ於テ英國裁判所ハ外國裁判所ヲ以テ離婚若クハ法律上ノ別居ヲ宣告スルノ權力アルモノト爲シ其ノ判決ヲ認識スヘシ而シテ此ノ規則ハ關係人雙方ノ國籍婚姻舉行地及其ノ判決ノ

理由トナリタル事故ノ性質ニ關係セサルモノナリ
 未タ全ク確定セサル點ハ此ノ事故ハ必ス當該國內ニ於テ
 生シタルモノナルヲ要スルヤ否ニ在リ今最モ當テ得タル
 說ニ從ヘハ若シ本人同國內ニ定住ヲ有スルトキハ其ノ事
 故ハ必スシモ同國內ニ生シタルモノナルヲ要セスト雖ト
 モ獨リ夫妻居住ノミ同國內ニ在テ定住ハ他ノ國ニ在ルト
 キハ其ノ事故必ス同國內ニ於テ生シタルモノナルヲ要ス
 ルモノトセリ
 此ノ規則ニ所謂定住ナル語ハ英國法律ニ用井ルト同一ナ
 ル正確ノ意義ヲ有スルモノトス

基督教ヲ奉セサル國ニ於ケル婚姻ニ關シ「ベセル」事件

「ウェスト
 レー」
 キ「氏
 ノ説

ニ於テ判決シタル論點

近年英國裁判所ニ於テ爲シタル一ノ判決ニ關シ茲ニ別ニ
 講究スル所アラントス是レ實ニ日本ノ爲ニ最モ緊要ノ問
 題ナリトス而シテ此ノ判決事件ハ基督教ヲ奉セサル國ニ
 於ケル婚姻ニ關スルモノナリ
 此ノ問題ニ關スル英國裁判所ノ規則ヲ記載スルモノヲ見
 ルニ各其ノ體裁ヲ異ニセリ
 契約地ノ法律一夫多妻ヲ認許スルトキハ此ノ法律ノ下ニ
 爲シタル婚姻ハ假令初妻ノ場合ト雖トモ一夫一婦ノ婚姻
 ト別事ニシテ英國ニ於テハ其ノ夫妻義務ノ執行ヲ命シ若
 クハ同義務ノ違反ニ對シ離婚其ノ他ノ救濟處置ヲ行フコ
 トヲ許サス

又一説ニ依レハ凡ソ外國ニ於テ執行シタル一男一女ノ合
體ハ假令同國ニ於テハ之ヲ婚姻ト稱シ此ノ男女ヲ夫妻ト
呼フト雖トモ若シ基督教國間ニ行ハル、ト同一ノ基礎ニ
依テ之ヲ組成シ且其ノ本旨タル終身ノ間相互ニ一夫一妻
ノ義務ヲ盡スノ目的ニアラサルトキハ英國法律ニ於テ之
ヲ有効ナル婚姻ト認ムルヲ得スト云ヘリ
以上記載スル規則ハ婚姻効力有無ニ關スル普通規則ノ除
外例ナリトス蓋シ普通規則ニ依レハ凡ソ婚姻ノ効力ハ本
人ノ能力如何ハ姑ク擱キ之ヲ舉行スル國ノ法律ニ從フモ
ノニシテ其ノ法律ニ從テ爲サ、ル婚姻ハ無効タルヘキモ
ノトス但シ關係雙方ノ内一人ノ臣屬スル國ニ於テ特別ノ
規則アリテ他ノ方法ニ依テ婚姻スルヲ許ストキハ此ノ限

ニ在ラス

以上記載シタル除外例ハ數多ノ異説ヲ生スルノ原因トナ
レリ今此ノ除外例ヲ精確ニ記述セント欲セハ先ツ此等ノ
説ヲ舉示スルヲ便利トス依テ其ノ二三ヲ左ニ開陳セン
曰ク一夫多妻ヲ認許スル國ニ於ケル婚姻ハ英國ニ於テ之
ヲ認識セス曰ク蓄妾ヲ認許スル國ニ對シテモ之ト同一ノ
規則ヲ適用ス曰ク基督教ヲ奉セサル國ニ於ケル婚姻ハ認
識セス曰ク婚姻ヲ爲スノ法式基督教ノ主義ニ協ハサルト
キ殊ニ婚姻ノ關係ヲ容易ニ破却シ得ル場合ニ於テハ之レ
ヲ婚姻ト視做スヘカラス曰ク規則ノ如何ハ暫ク措キ總テ
ノ婚姻ニ均シク適用スルモノナリト
予ノ考フル所ニ依レハ凡ソ一社會ニ住スル二名ノ人民其

ノ慣習若クハ法律ニ依テ行フタル婚姻ハ其ノ社會ノ何タルヲ問ハス又其ノ社會ニ於ケル婚姻慣習法ノ如何ニ拘ラス之ヲ認識スヘキモノナルハ明瞭ナリトス例ヘハ二名ノ土耳其人回々教ノ法律ニ從ヒ又ハ二名ノ支那人其ノ自國ノ法律ニ依リ又ハ二名ノ「エスキモー」人其ノ慣習ニ據リ又ハ二名ノ赤印度人其ノ種族ノ慣習ニ順テ行フタル婚姻ハ何レモ英國ニ於テ之レヲ認識スヘシ

此ノ點ニ關シ明瞭ニ記載スル著書ナシト雖トモ予ノ見ル所ニテハ凡ソ一夫多妻ノ制ヲ認許スル社會ニ屬スル人民ノ間ニ爲シタル多妻的婚姻ト雖トモ少クモ或ル程度内ニ於テ此ノ規則ニ適應スルハ不可ナキカ如シ例ヘハ「モルモン」宗徒ノ第一第二若クハ第十妻ト雖トモ英國ニ於テ之レ

ヲ其ノ妻ト視做スヘカラサルノ理由果シテ何ノ處ニアルカ蓋シ著書ノ明瞭ナラサル所以ハ凡ソ基督教國ハ多妻的婚姻ヲ認識セスト云ヘル規則ヲ或ル一種特別ノ場合ヨリ推論シ來ルニ在リ此ノ特別ノ場合ハ必スシモ其ノ論定セントスル規則ヨリ更ニ廣濶ナル規則ヲ例證スルモノニアラサルナリ吾人ハ以上ノ規則ニ付キ左ニ之ヲ論セン

婚姻契約ノ有無ハ離婚裁判所ノ管轄權内ニ屬セサル事件ニ關シテ甚ダ緊要ナルコト往々之アリトス數年前若干名ノ亞米利加印度人倫敦府ニ滞在セリ抑英國ニ於テハ其ノ妻ノ起ス訴訟又ハ其ノ妻ニ對シテ起サレタル訴訟ニ付其ノ夫ヲシテ原被ノ地位ニ立タシムル爲メニ特別ノ法律アリ今假ニ此等印度酋長ノ妻鐵道會社ニ對シ損害要償ノ訴

訟ヲ起シ若クハ其ノ妻ニ對シテ損害要償ノ訴訟ヲ起スモ
 ノアルトキハ該規則ヲ適用シ酋長ヲシテ原告若クハ被告
 ノ地位ニ立タシムルヲ得ヘシ又此等ノ婦女若クハ其ノ子
 女ニ對スル遺贈ノ場合ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得ル
 ハ疑ヲ容レサル所ナリ蓋シ婚姻同國人相互ニ同國內ニ於
 テ爲シタル簡單ノ婚姻ノ効力有無并ニ子女ノ正私ハ其ノ
 屬スル所ノ種族ノ法律并ニ慣習ニ從テ之ヲ判定スヘキモ
 ノナリトス

多妻的婚姻ニ關シテ困難ノ生スル場合ハ唯タ遺贈ヲ爲ス
 ニ當リ單ニ何某ノ妻トノミ云テ其ノ妻ノ名ヲ記載セサル
 トキニ限ルモノトス此ノ場合ニ於テハ何某ノ子ト記シナ
 カラ二人以上ノ子アルトキニ當リ遺贈品ヲ處置スル規則

多妻的婚姻
 ハ離婚裁判
 所ニ於テ之
 ヲ認識セス

「ハイド」事
 件(法律報
 告書遺囑并
 ニ離婚事件
 ノ部第一第
 百三十一
 又ハ「スト
 著書第百四
 十七丁)

ヲ適用スルナラン

然レトモ以上吾人カ論スル所ハ離婚裁判所判事ガ一千八
 百六十六年ニ於テ「モルモン」宗徒ノ婚姻事件ヲ審判スルニ
 當テ爲シタル至重ノ判決ヲ有効ノモノトスルニアラス
 此ノ場合ニ於テ同判事カ婚姻義務ノ執行ヲ拒ミタル議論
 ノ大意左ノ如シ

曰ク婚姻ハ單ニ宗教上若クハ民事上ノ契約タルニ止ラス
 シテ實ニ一個ノ制度^{イニテキリコシ}タリ而シテ此ノ制度ハ假令其ノ瑣末
 ノ點ニ於テ相異ナルモ其ノ大體ニ於テハ各基督教國ヲ通
 シテ同一ノ性質ヲ有シ普通ノ基礎ニ立テリ其ノ同一普通
 ノ基礎トハ終身ノ間相互ニ一夫一妻ノ義務ヲ盡ス爲ニ各
 自其ノ任意ヲ以テ婚姻スルコト即チ是ナリ而シテ或ル國

ニ於テハ曾テ斯ノ如キ制度ヲ設クルコトナク一男數婦ヲ娶リ之ヲ嚴密ナル監視ノ下ニ置キ其ノ妻ノ多少ハ唯ダ經濟上ノ計算ニ依テ制セラル、ノミスノ如キ婦女ノ地位ハ基督教國ニ於テ所謂妻ノ地位ト大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ其ノ稱呼ニ至テハ或ハ我國ノ「ワイフ」妻ニ對スル文字ヲ用フルコトナシト云フヘカラスト雖トモ若シ其ノ夫妻ノ關係ニシテ我國ノ「ハズバンド」夫及「ワイフ」妻ノ關係ト同一ナラサルトキハ單ニ同一ノ文字ヲ用ヰルノ事實ヲ以テ其ノ關係ヲ同一ナリト斷定スヘカラスト夫レ英國婚姻法ハ基督教主義ノ婚姻ニ適スルモノニシテ一夫多妻ノ制ニハ全ク適セサルモノトス該法ハ婚姻契約ニ依リ雙方ノ合意ヲ以テ定メタル權利義務ニ應シテ制定シタルモノナリ故ニ若シ

其ノ條項并ニ其ノ規定スル救濟法ヲ一夫多妻的ノ婚姻ニ適用スルトキハ是レ裁判所ニ於テ新ニ夫妻義務ヲ制作スルモノニシテ之ヲ執行スルニアラス又犯罪ナキ場合ニ救濟法ヲ施スモノト云フヘシ英國ニ於テハ一夫多妻ノ標準若クハ其ノ必要ニ應スル法律アルコトナシ是ニ依テ之ヲ見レハ基督教主義ノ婚姻ト全ク其ノ旨意ヲ異ニシ且社會ニ於ケル軟性ノ地位ニ關シ吾人カ懷ク思想ト斯ノ如クニ相反スル所ノ制度ニ屬スル夫妻義務ハ假令明白ナル場合ト雖トモ英國法廷ニ於テ之カ執行ヲ命スルハ果シテ當ヲ得タルモノナルヤ否ヤ甚タ疑ハシ云々

又一夫多妻的婚姻ノ場合ニ於テハ第一ノ婚姻ニ對シ英國婚姻法ヲ適用シ其ノ他ノ婚姻ハ無効ノモノト爲シ其ノ婦

女ヲ妾ト視做スノ説ニ對シ左ノ如ク辨駁セリ曰ク離婚裁判所ニ於テハ關係人一方ノ請求ニ依リ他ノ一方ニ同居ノ義務ヲ履行セシムルヲ得ト雖トモ若シ一方ニ於テ姦通ヲ犯シタルトキハ他ノ一方ニ此ノ義務ヲ執行セシムルコトナシ又其ノ婚姻契約ニ依リ第二ノ妻ヲ娶リタル夫ハ此ノ救濟ヲ受クルノ權ナシト

又曰ク此ノ場合ニ於テ婚姻義務ヲ執行スル權既ニ消滅シタルカ故ニ婚姻誓約ノ違反ニ對シ救濟ヲ爲スハ正當ノ處置ニアラサルナリト

又曰ク若シ一夫多妻的婚姻ノ契約ニシテ我カ國ニ於テ婚姻法律ニ依リ執行ヲ保障スル所ノ義務ト同一ノ義務ヲ契約セサルトキハ其ノ婚姻ハ該法ノ範圍内ニ在ル者トスト

此ノ事件ヨ
リ推定スル
論點

吾人ハ先ツ此ノ事件ハ如何ナルモノナリシヤヲ講究シ次に此ノ事件ニ於テ如何ナル規則ヲ確定セルカヲ觀察セサルヘカラス

抑本件ハ妻ノ姦通ニ依リ婚姻解除ノ請求ニ關スル訴願ニ起因シテ關係人雙方共婚姻ノ當時米國ユタ州ニ住スルモノモ^ルニ至リ其ノ妻再婚セリ而シテ同宗門ノ慣習ニ依レハ此ノ再婚ハ姦通ナリトテ遂ニ本事件ヲ提起スルニ至レリ

第一此ノ事件ハ全ク婚姻法ニ屬スル離婚裁判所ニ於テ執行スル法律ニ從フヘキモノトス即チ夫妻義務ノ執行及婚姻犯罪ノ處罰ニ關スル訴願ナリトス然レトモ此ノ事件ニ於テ確定シタル原則ハ其ノ範圍廣濶ニシテ總テ夫妻義務

ニ關係シタル裁判所ニ均シク適用スヘキモノナリ其ノ議
 論ノ旨意ニ依レハ一夫多妻的ノ婚姻即チ英國ニ於テ權利
 義務ノ執行ヲ保障スルコトヲ得サル如キ婚姻ヲ爲シタル
 後再ヒ英國ニ於テ婚姻ヲ行フトモ是レ決シテ重婚ト視做
 スヘキニアラストスルモノ、如シ
 第二此ノ事件ハ英國人ニ關シテ起リタリト雖トモ此ノ事
 件ニ於テ確定シタル原則ハ婚姻其ノ物ニ適用スルノ義ニ
 シテ婚姻ヲ爲ス人ノ國籍トハ全ク獨立シタルモノトス
 第三若シ關係人ノ一方英國臣民ナルトキハ假令以上既ニ
 論述シタル如キ場合ト雖トモ一夫多妻的ノ婚姻ハ決シテ
 之ヲ認識セサルモノトス蓋シ他ニ理由ノ存スルアルナリ
 第四一夫多妻的婚姻ナル語ハ同婚姻ヲ認許スル國ニ於テ

蓄妾ヲ認許
スル婚姻

爲シタル第一并ニ其他ノ婚姻ニ等シク適用スルモノトス
 婚姻契約ヲ爲ス權利ハ即チ其ノ契約ノ要件ナレハナリ
 然レトモ最モ困難ヲ感スルハ最後ノ論點ナリトス乃チ此
 等ノ原則ハ蓄妾ヲ認許スル國ニ於ケル婚姻ニ對シ如何ナ
 ル程度ニマテ之ヲ適用スルヲ得ルヤ
 此ノ「モルモン」婚姻事件ニ於ケル判決ノ論旨ニ依レハ蓄妾
 權ヲ認許スル婚姻ハ英國婚姻法ヲ執行スル裁判所ノ認識
 スル所ニアラスト論定スルモノ、如シ何トナレハ一夫多
 妻的婚姻ノ場合ニ於ケルト等シク法律ニ於テ違反ヲ認許
 スル婚姻義務ノ違反ヲ罰シ又ハ法律ニ於テ執行ヲ命セサ
 ル權利ヲ回復スルヲ得サレハナリ然レトモ一夫多妻的制
 ハ其ノ範圍劃然タリ即チ婚姻ハ一夫多妻的ナルカ然ラサ

ルカノ二者アルノミ然ルニ蓄妾ナル語ハ數多ノ場合ニ適
 應スル文字ニシテ之ヲ講究セント欲スレハ吾人ハ程度ノ
 疑問ニ遭遇セサルヲ得サルナリ是ニ於テ予ハ左ノ説ヲ開
 陳セントス而シテ此點ニ於テ予ハ實ニ據ルヘキノ學說ア
 ルヲ知ラサルナリ
 予ノ見ル所ニ依レハ凡ソ蓄妾ヲ認許スル國即チ法律若ク
 ハ慣習ニ於テ之ヲ許可シ妾并ニ其ノ子女ニ權利義務ヲ賦
 與シ蓄妾ヲ以テ婚姻ノ隨件物ノ如クニ視做ス國ニ對シテ
 ハ以上開陳シタル原則ヲ適用シ斯ノ如キ國ニ於ケル婚姻
 ハ假令第一ノ婚姻ト雖トモ英國婚姻法ヲ執行スル裁判所
 ニ於テ之ヲ認識セサルヘシ
 然レトモ法律若クハ慣習ニ依テ蓄妾ヲ許可セス單ニ之ヲ

默許スル國ニ於テ舉行シタル婚姻ノ場合ニ於テハ此等ノ
 原則ヲ適用スルコトナク英國婚姻裁判所ニ於テ一般ノ規
 則ニ從テ之ヲ裁判スルモノトス
 一國ノ法律ニ於テ明ニ姦通ヲ認許セスト雖トモ姦通ノ爲
 ニ救濟法ヲ規定セスト云フ事實ニ依リ直ニ之ヲ前來陳述
 シタル規則ノ範圍内ニ入ル、ニ足ルモノト愚考スルコト
 能ハサルナリ若シ之ヲ以テ充分ナリトスレハ啻ニ斯ノ如
 キ婚姻上ノ犯行ニ對シ救濟ヲ制定セサル邦國ノミナラス
 英國ノ如キモ亦其ノ範圍内ニ在ルモノト認定セサルヲ得
 サラン何トナレハ英國ニ於テハ斯ノ如キ犯行ヲ默過スル
 コトアレハナリ
 予ノ考フル所ニ依レハ妻ヲシテ他ノ婦女ノ生ミタル子女

ナ其養子女ト爲サシムルコトヲ法律ノ明文ニ於テ認許スル邦國ハ右ノ範圍内ニ入ルヘキモノトス
 他ノ婦女ノ生ミタル子女ヲ養子女ト爲スト其ノ既生ノ子女ヲ婚姻ニ依テ正出子ト爲ストハ其ノ間ニ大ナル差異アルヲ知ルコト緊要ナリトス
 斯ノ如キ養子女ノ場合ニ於テ英國裁判所ハ如何ナル認識ヲ與フルヤト云ヘル問題ニ答ント欲スレハ吾人ハ既ニ陳述シタル論題ニ立戻ラサルヲ得ス
 既生ノ子女ヲ婚姻ニ依テ正出子ト爲スハ當ニ英國法律ニ規定セサルノミナラス我カ社會上ノ思想ト全ク相反スルモノトス然レトモ既ニ陳述シタル如ク或ル場合ニ於テ之ヲ認識セルコトハ疑フヘカラサル事實ナリトス

之ト同一ノ場合ニ於テ養子女ヲ英國ニ於テ認識スルハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ例ヘハ既ニ正妻ニ依テ子女ヲ舉ケタル場合ニ於テ他ノ婦女ニ依テ出生シ其ノ正出子ヨリ更ニ年長ナル子ヲ必要ノ法式ヲ經テ養子ト爲シタリト假定セシ若シ夫妻ノ屬スル國ニ於テ養子ヲ以テ正出子ト同一ノ地位ニ置キ養子ヲ以テ嫡子ト視做ス場合(婚姻ニ依テ既生ノ子女ヲ正出子ト爲ス場合ニハ年長ノモノヲ長男若クハ長女トス)ニ於テ英國裁判所ハ長子權ニ關スル訴訟ヲ受理スルニ際シ正妻ノ生ミタル正出子ト養子ノ間ニ何レヲ長男ト爲スヘキヤノ問題ハ關係人本國ノ慣習ニ依テ斷決スヘシ
 例ヘハ茲ニ養子ノ制ヲ行フ某國ノ住民ニ甲ナル人アリ其

ノ死スルニ當リ其ノ長子ニ遺囑ヲ爲スト云フ簡單ナル場
 合ニ於テ其ノ國ノ法律若シ養子ヲ以テ長男ト爲スヲ認許
 スルトキハ年長ノ養子ヲ以テ此ノ遺囑ヲ受クヘキモノト
 ス
 然レトモ此ノ所見ハ前段ニ於テ既ニ陳述シタル論旨ト撞
 着スルモノニアラス其ノ論旨トハ凡ソ基督教主義ノ婚姻
 ト同一ノ基礎ニ依ラサル婚姻ニ對シ英國婚姻裁判所ハ其
 ノ婚姻法ヲ適用セスト云フニ在リ
 是ニ於テ予ハ全問題中最モ緊要ナル論點ニ達セリ蓄妾ヲ
 認許スル國ノ人民間ニ行ヒタル婚姻ニ民事上ノ認識ヲ與
 フルト又關係人ノ一方英國人ナルトキハ斯ノ如キ婚姻ニ
 認識ヲ與ヘサルト此ノ兩極ノ間ニ中庸ノ良法ナキヤ否ヤ

ト云フ問題即チ是ナリ
 予ノ考フル所ニテハ斯ノ如キ中庸ノ良法アルヲ信セリ然
 レトモ現時ノ狀況ニ於テ此等ノ說ヲ精確ニ論陳スルコト
 到底望ムヘカラサルナリ
 前段ニ於テ予ハ或ル場合ニ於テ既生ノ子生ヲ婚姻ニ依テ
 正出ト爲スコトヲ認識スト云ヘリ而シテ或ル場合トハ國
 籍法ニ依ラスシテ該子女ノ出生シタル定住地ノ法律ニ依
 テ正出ト爲ス場合ヲ謂フモノニシテ又國籍法ト定住地ノ
 法律ト同一ナル場合少シトセス
 然ラハ養子ニ關シテ之ト同一ノ規則ヲ適用スルニ何ノ不
 可アラシヤ英國裁判所ノ規則ニ依レハ治外法權ノ條約ヲ
 締結シタル國ニ於テ英國人ハ定住ヲ有スルコト能ハサル

夫妻居住地
法律ノ適用

モノトセリ而シテ條約ヲ結ハサル未開國ニ對シテモ此ノ規則ヲ適用スルヤ否ヤ判然セス然レトモ普通ノ見ニ依レハ未開國ト開明國トノ間ニ於テハ宗教法律風俗慣習ノ差違甚タ大ナルカ故ニ斯ノ如キ定住ヲ得ルコト能ハサルノ理由甚タ多シトセリ然レトモ此ノ論點ハ茲ニ之ヲ論究スルノ要ナシ

婚姻法ノ最モ緊要ナル部ニ於テ定住地ノ法律ハ夫妻居住地ノ法律ノ爲ニ其ノ地歩ヲ奪ハレタリ予ノ考フル所ニテハ英國裁判所ナシテ其ノ離婚裁判ヲ行フニ當リ定住地ノ法律如何ニ拘ラス關係人其ノ夫妻居住地ヲ英國内ニ有スルト否ニ依テ判決ヲ下シ且同一ノ法理ニ基キ外國裁判所ニ於テ英國臣民ニ對シテ爲シタル離婚判決ヲ認識セシメ

タルト同一ノ理由ハ又英國裁判所ナシテ既生ノ子女ヲ婚姻ニ依テ正出ト爲ス件ニ於テモ均シク夫妻居住地ノ法律ニ依テ裁判ヲ爲サシメ又遂ニ養子ノ件ヲモ該法ニ依テ裁判セシムルニ至ランコト決シテ期スヘカラサルノ事ニアラサルカ如シ蓋シ斯ノ如キ國(即チ英國ト治外法權條約ヲ結ヒタル國)ニ居住スル英國臣民ノ爲ニハ養子ノ件ハ甚タ緊要ノ問題ニアラス然レトモ若シ養子ニ關スル問題ニシテ既ニ夫妻居住地ノ法律ニ從フヘキモノト確定スルトキハ婚姻ノ問題ハ自ラ同一ノ法律ニ從フニ至ルヘシ何トナレハ養子ノ件ハ婚姻問題ニ附隨スルモノナレハナリ

若シ此ノ問題ヲ充分ニ討議スルノ時機至ラハ假令斯ノ如キ推論ヲ爲サルモ猶ホ夫妻居住地ノ法律ヲ以テ婚姻ヲ

支配スルニ至ラシメタルト同一ノ理由ハ遂ニ該法律ヲ以テ婚姻認識ノ問題ヲ決定スル法律ト爲スニ至ルコトヲ豫知スルハ敢テ難キニアラサルナリ

論シテ茲ニ到ルモ英國裁判所ハ他ノ婚姻ヲ以テ斯ノ如キ國ノ人民間ニ爲シタル婚姻ヨリ更ニ高等ノ地位ニ置クニアラス唯タ英國臣民斯ノ如キ國ニ居住シ遂ニ同國ニ於テ夫妻居住ヲ有スルト其ノ國人トノ間ニ爲シタル婚姻ヲ其ノ國人間ニ爲シタル婚姻ト同等ノ地位ニ置クノミ之ヲ細言スレハ民事上ニ於テハ斯ノ如キ婚姻ヲ認識スト雖トモ之ヲ英國婚姻法ノ範圍内ニ置カスト云フニ在リ

「ハイド」事件ヲ記スル著書殊ニ「ストーレー」氏著國際私法ニ於テハ宣告ノ末文ヲ省畧セリ然レトモ同判決ノ基礎トス

ル原則ハ却テ此ノ文ニ在リトス其ノ言ニ曰ク此等ノ意見ニ依リ當裁判所ニ於テハ此ノ請願書ニ哀訴スル所ヲ拒絕セサルヘカラス然レトモ本官ハ此ノ判決ノ目的トスル所ハ單ニ此ニ在ルコトヲ陳述セサルヘカラス當裁判所ハ相續權又ハ正出權ノ問題ニ關シ判決ヲ爲スニアラス此等ノ權利ハ蓋シ一夫多妻的婚姻ニ依テ出生シタル子女ノ享受スルヲ得ヘキモノナラン又斯ノ如キ婚姻ノ認許ノ下ニ住スル人民ノ作爲スル所タル第三者ニ對スル權利義務ニ關シ判決ヲ下スニアラサルナリ茲ニ判決スル所ハ唯タ斯ノ如キ人民ハ其ノ相互ノ間ニ於テ英國婚姻法ノ規定スル損害裁判又ハ救濟ヲ享受スルノ權ヲ有セスト云フニ在リト是ニ依テ之ヲ觀レハ一夫多妻的婚姻并ニ類推ニ依テ考フ

「ベセル」事件ニ於ケル

レハ蓄妾ヲ認許スル婚姻ニ關シテ確定シタル點ハ唯タ婚姻ノ權利義務ニ關スル裁判權ヲ有スル英國裁判所ニ於テ之ヲ認定セスト云フニ在リ而シテ此ノ點ヨリ更ニ他ニ確定シタルモノアリト云フノ說ニ至テハ後段ニ論及セントスル「ベセル」事件ニ於ケル判決ノ外ハ一モ之ヲ贊成スルモノアルコトナシ

日本ニ居住スル英國人日本ノ慣例ニ從ヒ日本婦女ト婚姻シ日本ヲ以テ其ノ夫妻居住地ト爲シ且子女ヲ舉タル場合ニ於テ英國裁判所ハ其ノ子女ヲ私生子ト視做スコトナク又右英國人死去スルトキ其ノ子女ニ於テ其ノ財産ノ相續ヲ爲スヲ認許スルハ予ノ斷シテ疑ハサル所ナリ

次ニ左ニ陳述シタル結論ハ如何ナル點ニ於テ「ベセル」事件

判決ノ解剖

ニ於ケル判決ト撞着スルカナ講究スルコト必要ナリトス此ノ判決ハ英國始審裁判所ニ於テ下シタルモノナリ而シテ此ノ判決ハ若シ控訴スルトキハ破棄セラレタルナラント云フモ博識ナル當該判事ニ對シ敢テ尊敬ヲ缺クニアラス

「ベチナナランド」ニ居住スル一英國臣民亞弗利加南部ノ酋長ノ女ト其ノ種族ノ慣例ニ從テ婚姻セリ而シテ其ノ死去スルヤ遺囑書ヲ作り其ノ財産ノ幾部ヲ其ノ父生存中ノ費用ニ支給シ殘部ヲ其ノ正出子ニ與フル旨ヲ記載セリ是ニ於テ其ノ子女ハ果シテ正出ト視做シ財産相續權ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得ルヤ否ニ關シ法廷ニ於テ訴訟ヲ起スニ至レリ

其ノ判決ハ二個ノ部分ニ分ツコトヲ得ヘシ第一ノ部分ニ於テハ曾テ「ハイド」事件ニ於テ論定シタル大則ヲ引用シ之ヲ以テ其ノ問題ヲ判決スルヲ得ルモノトセリ然レトモ予カ前來陳述セル論旨ハ此ノ判決ニ對シ今後除外例ヲ附スルニ至ラントスルコトヲ證スルニ足レリ第二ノ部分ニ於テハ或ル場合ニハ斯ノ如キ婚姻ヲ認識スルヲ得ルコトヲ記載セリ例ヘハ若シ「ベセル」ニシテ其ノ本國ニ在ル親戚ニ其ノ婚姻ヲ通知シ又ハ歐洲人ニ向テ其ノ妻ヲ妻トシテ面會セシメ若クハ妻トシテ披露セシナラハ裁判所ハ或ハ其ノ婚姻事實ヲ認ムルコトヲ得タルナラン何トナレハ斯ノ如キ事情ノ存スルトキハ以テ基督教主義ニ依レル意義ニ於テ婚姻成立ノ要證ヲ得ヘケレハナリ

法律上外國ニ於ケル婚姻ニ關スル制規ヲ設クト雖トモ必スシモ其ノ制規ニ從フヲ要セサルコト又知ルベキナリ

此ノ判決ノ價值ヲ減殺スル所以ハ其ノ第一ノ部分ニ於テ確立セサル點アルニ依ルナリ

又此ノ判決ニ於テ「ベセル」ハ嘗テ自ラ其ノ居住地ノ種族ニ屬スルコトヲ明言セシコトアリト雖トモ其ノ定住ハ依然英國ニ在ルコトヲ論斷セリ然レトモ此ノ論斷ノ理由ハ報告書ニ記スルコトナシ且「ベセル」ハ其ノ婚姻ノ期限間其ノ種族ノ内ニ常住スル目的ヲ有セシヤ否ニ付テ充分ノ證據アルヲ見サルナリ

ナチユラモ
自_シ然_シ後_ト
見_ル

英國「チャ
ンズレー」
法廷ノ裁判
權

第七章 幼者ノ後見人事件ニ關スル裁判管轄權

成年未成年ノ問題ハ既ニ陳述セシ如ク定住地即チ其ノ父
ノ定住地ノ法律ニ從フヲ通則トス英國裁判所ハ一事件ノ
起ルニ當リ父子相互ノ關係ヲ認識シ且父ノ子ニ對スル權
利ヲ保護スルモノトス要スルニ自然_{ナチユラモ}後見_シノ件ニ關シテハ
一モ困難ナル問題ヲ生スルコトナシト雖トモ法律又ハ司
法命令ニ依リ後見人ヲ撰任スルニ至リ始メテ難問ノ起ル
ヲ免レサルノミ
開明國ニ於テハ君主ヲ以テ國父ト爲シ特ニ仰テ孤獨其ノ
他自ラ保護スルコト能ハサル者ノ保護者ト爲セリ然レト
モ此ノ權力ノ執行ニ至テハ代理者ニ之ヲ委任セリ英國ニ
於テ君主ハ此ノ權力ノ執行ヲ「チャンズレー」法廷ニ委任セ

リ該法廷ハ「チヤンセロル」即チ英國昔時ノ教語ニ於テ國王
良心ノ管理者ト稱シタル法官ノ宰司スル所ニシテ此等受
托代行ノ權利ハ今日ニ於テハ同法廷裁判權ノ一部ヲ組成
スルモノトス

該法廷ニ於テ此ノ權力ヲ執行スルノ方法ハ幼者ノ爲ニ後
見人ヲ撰ビ之ヲシテ同法廷ニ對シ其ノ義務ヲ盡サシムル
ニ在リ

第一ニ講究ヲ要スル點ハ此ノ裁判管轄ノ範圍ヲ明知スル
ニ在リ或ル重大ノ事件ニ於テ某「チヤンセロル」ノ論定スル
所ニ依レハ此ノ裁判管轄ハ單ニ英國内ニ在住スルノ事實
ニ由ルモノニシテ總テ幼者ハ其ノ國籍如何ニ拘ラス其ノ
範圍内ニ在ルモノトス嘗テ僅カニ數週日ヲ經テ成年ニ達

セントスル外國幼者英國ニ來住シテ遠カラス其ノ國ニ歸
ルノ恐アル極端ノ事件起リタルトキ裁判官ハ同法廷ヲ以
テ明カニ後見人ヲ撰ムノ權ヲ有スルモノト斷定シ唯タ之
ヲ執行セサルヲ得策トスト云ヘリ

第二該法廷ノ管轄權ハ總テ英國臣民ノ籍ヲ有スル幼者ニ
及フモノニシテ其ノ外國ニ在ルト内國ニ在トヲ問ハサル
ナリ而シテ其ノ外國ニ在ル場合ニ於テハ管轄地内ニ其ノ
財産ナキトキト雖トモ同法廷ハ其ノ權力ヲ執行スルモノ
トス

後見人ハ同法廷ニ對シテ責任ヲ有スルカ故ニ同法廷管轄
地内ニ居住シ其ノ責ニ當ルコトヲ得ル者ノ内ヨリ之ヲ撰
任セサルヘカラス而シテ後見人撰任ノ權ハ大貌利顛内ニ

外國ニ於ケル後見人撰任

外國ニ於ケル後見人撰任ニシテ特別ノ保護ヲ要スル場合ニ於テ若シ外國撰任ノ後見人此ノ保護ヲ爲スコト能ハサルトキハ英國

二百二十八
居住スル幼者ノ國籍又ハ英國籍ノ幼者外國ニ居住スル事實ニ左右セラル、モノニアラサルカ故ニ既ニ外國裁判所ニ於テ後見人ヲ撰任シタル場合往々之アリトス此ノ場合ニ於テ外國撰任ノ事實ヲ以テ英國「チャンスレー」法廷ノ管轄權ヲ消滅セサルコト明瞭ナリトス然レトモ不都合ヲ生セサルトキハ外國ノ撰任ヲ認識シ別ニ補充命令ヲ發シ同後見人ヲシテ英國内ニ於テ其ノ責ヲ盡サシムルヲ常例トス若シ斯ノ如キ命令ヲ受ケサルトキハ同後見人ハ英國内ニ於テ其ノ後見幼者ノ爲ニ其ノ責ヲ盡スノ權力ヲ有セサルナリ
幼者ノ財産ニシテ特別ノ保護ヲ要スル場合ニ於テ若シ外國撰任ノ後見人此ノ保護ヲ爲スコト能ハサルトキハ英國

「チャンスレー」法廷ハ外國撰任ヲ認識セサルコトヲ得又外國後見人若シ同法廷ニ向ヒ其ノ認識請願ヲ爲スニ先テ既ニ其ノ幼者ヲ疎遇シ若クハ放棄シタルトキハ英國ニ於テ後見人タルヲ許サ、ルモノトス
該法廷ハ其ノ保護スル幼者ノ爲ニ父トナリ以テ其ノ教育生計宗教ヨリ其ノ財産ノ管理并ニ婚姻等ニ至ルマテ監督ヲ爲スノ任ヲ負ヘリ而シテ幼者其ノ管轄地外ニ在ルトキハ同法廷ハ此ノ監督ヲ行フコト能ハサルヲ以テ幼者若シ外國ニ行ント欲スルトキハ其ノ許可ヲ請ハサルヘカラス且此ノ場合ニ於テ後見人ハ許可ナクシテ幼者ノ婚姻ヲ行ハサルコト總テ緊要ノ件ニ關シテ同法廷ニ通知ヲ爲スコト及同法廷ノ發スル命令ヲ遵守スルコトヲ同法廷ニ對シ

放蕩者

テ保證セサルヘカラス
英國ニ於テハ歐洲大陸ノ所謂放蕩者法律ニ比スヘキモノ
ナシ蓋シ英國裁判所ハ此ノ件ヲ以テ一身上ノ地位ニ關ス
ル問題ト視做スコトヲ欲セス唯タ本國ニ於テ本人ノ運動
ニ付キ自ラ障礙ヲ作ルモノト視做スノミ

「ロールド、
チャンセロ
ル」ノ裁判
權

第八章 風癲者ニ關スル裁判管轄權

君主ハ管ニ幼者ノ保護者ナルノミナラス又風癲者ノ保護
者ナリ故ニ君主ハ風癲者ノ爲ニ監視ノ場所ヲ設ケ其ノ生
存ヲ保テ又其ノ所有スル土地并ニ其ノ收益ヲ保存シ其ノ
常體ニ回復スルニ至テ之ヲ其ノ用ニ供セシム蓋シ此ノ裁
判權ハ「ロールド、チャンセロル」ニ委託シ控訴院裁判官ノ内女
皇陛下ノ勅命ヲ以テ風癲者監視ノ委任ヲ受ケタル法官ト
共ニ之ヲ執行セシム既ニ前數章ニ於テ講究シタル問題ニ
於ケルト等シク此ノ問題ニ於テモ英國法律ハ不分明ノ憾
ミアルヲ免レス一千八百五十三年ノ議決ニ關ル風癲者法
律ニ於テ此ノ問題ニ關スル制規ハ唯タ二節アルノミ其ノ
一節ニ於テハ若シ風癲ノ嫌疑アル者裁判管轄内ニ在ルト

風癲ニ關スル外國判決ノ効力

キハ其ノ風癲宣告ニ關スル請願ノ通知ヲ送致スルヲ要スル旨ヲ規定シ他ノ一節ニ於テハ若シ風癲ノ嫌疑ヲ受ケタル者裁判管轄地内ニ在ラサルトキハ陪審人ノ前ニ於テ審問ヲ爲スヘキコトヲ規定セリ故ニ此ノ問題ニ關スル制規ヲ了知セント欲セハ裁判所ノ判決例ヲ講究スルノ一法アルノミ此ノ裁判管轄權ハ幼者後見ノ件ニ於ケル如ク總テ王國內ニ在ル者ニ及ヒ其ノ國籍ノ如何ヲ問フコトナシ又英國臣民ノ籍ニ在ルモノハ國ノ内外ヲ論セス其ノ管轄權ノ範圍内ニアルモノトス
又後見人ノ場合ト等シク風癲ニ關スル外國判決ハ英國裁判所ニ於テ之ヲ認識スルモノトス而シテ其ノ認識ニ關スル簡單ナル例ハ風癲ヲ辨護スル事件是ナリ然レトモ「ロー

英國ニ在ル財產ヲ外國管理人ニ引渡スコト

ルド、チヤンセロル」ノ保護ヲ受クルヲ必要トスル場合ニ於テ若シ風癲者英國ニ來ルトキハ外國委員ヲシテ英國内ニ於テ其ノ責ヲ盡スノ權力ヲ得セシメンカ爲ニ若シ又其ノ英國ニ來ラサルトキハ他人ヲ撰テ風癲者并ニ其ノ財產ヲ管理セシメンカ爲ニ更ニ審問ヲ行フヲ要ス而シテ果シテ風癲者ナルヤ否ノ點ハ回復ノ望ミアル場合ヲ除ク外ハ外國判決ニ依テ之ヲ認定スルモノトス
外國ニ居住スル風癲者ノ外國管理人英國ニ在ル其ノ財產ノ引渡シヲ請求スルノ例尠シトセス風癲事實ハ前項ノ場合ト均シク外國裁判所ノ判決ニ依テ認定スルモノトス此ノ點ニ付テ講究スヘキ一ノ有益ナル實例アリ某英國人佛國ニ於テ旅行中風癲者トナリ佛國ニ於テ監視ニ付セラレ

シトキ英國裁判所ハ佛國裁判所ノ判決ヲ採用セリ然レトモ財産ノ引渡ハ各國ノ任意ニ在ルモノナレハ必スシモ之ヲ實行スルノ例ニアラス現ニ茲ニ記載シタル場合ニ於テモ財産ノ引渡ハ拒絕セリ何トナレハ佛國風癲監視長ハ特ニ風癲者ノ衣食并ニ快樂ニ供スル爲ニ財産ヲ預リ此ノ目的ニ對シ充分ノ資金ヲ有シタレハナリ

大體ニ於テハ外國法律ヲ認識スルモノトス而シテ監視長若シ風癲者財産ノ全部ニ對シ請求權ヲ有シ且風癲者外國人ナルトキハ其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得若シ風癲者英國臣民ナルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其ノ動産ノ引渡ヲ得ヘシト雖トモ不動産ハ然ラス但シ此ノ點ハ未タ疑問ニ屬ス又單ニ收入ノミヲ引渡シ其ノ財産ヲ引渡サ、ルノ例ア

リ此等ノ場合ニ於テ英國裁判所ハ恰モ謹慎ナル管理人ノ如クセンコトヲ務メタリ殊ニ財産高價ナル場合ニ於テ其ノ審査スル要點ハ外國裁判所ノ命ニ依リ管理人ノ執行スル保證ノ充分ナルヤ否ニ在リトス

外國裁判所ニ於テ非風癲ノ判決ヲ爲ストキハ風癲ノ判決ヲ爲シタルトキト同一ノ認識ヲ英國ニ於テ與フヘシ

抑遺囑問題ハ甚ダ複雑シタルモノニシテ三個ノ疑問之レ
ニ附屬セリ曰ク遺囑ヲ爲スノ能力アリヤ否曰ク遺囑ト稱
スルモノアリヤ否曰ク遺囑ハ有効ナルヤ否此ノ三個ノ要
件ヲ具備スルトキハ之ヲ完全ノ遺囑トシ若シ其ノ一ヲ缺
クトキハ之ヲ不完全ナルモノトシ死者ヲ以テ遺囑ヲ有セ
サルモノト爲ス

第一遺囑ヲ爲スノ能力ニ關スル問題ハ總テ他ノ行爲ニ於
ケル能力ト異ナラサルコト明瞭ナリ故ニ他ノ能力問題ト
均シク定住地ノ法律ニ從フモノトス未成年者其ノ定住地
ノ法律ニ依リ又ハ既婚ノ女子其ノ夫ノ定住地ノ法律ニ依
リ遺囑ヲ爲スノ能力ヲ有セサルトキハ假令遺囑ヲ爲スト
モ他國ニ於テ之ヲ有効ノモノト認識スルコトナシ然レト

モ若シ之ニ反シテ前記ノ法律上斯ノ如キ不能力ナキトキ
ハ其ノ遺囑書ハ斯ノ如キ不能力ヲ認識スル國ニ於テモ之
ヲ無効ノモノト爲ス能ハス

第二死者ノ遺囑書ト稱スルモノハ果シテ眞實ニ其ノ遺囑
書ナルヤ否又其ノ書類ハ遺囑ノ式ニ協フヤ否ノ問題ヲ生
ス而シテ此ノ問題モ亦死者定住地ノ法律ニ從フモノトス
第三遺囑ヲ爲ス法式順序モ同法(即チ定住地ノ法律)ニ從フ
ヘキモノニシテ之ヲ爲ス土地ノ法律ニ從フニアラサルコ
ト吾人ノ宜シク知了スヘキ所トス而シテ若シ當時死者ノ
居住シタル土地ノ法律ニ從ヒ作りタル遺囑書ヲ定住地ノ
法律ニ於テ有効ト認ムル旨ノ特條アルトキハ是レ普通規
則ノ除外例ニアラスシテ却テ之ヲ證スルモノトス

最後ニ遺囑ノ解釋ハ定住地ノ法律ニ依ルモノトス例ヘハ英國ニ定住ヲ有スル外國人其ノ本國ニ於テ且其ノ法律ニ規定スル法式ニ依テ作りタル遺囑書ニ依リ其ノ動産ノ遺贈ヲ受ケタル者遺囑者ノ生存中ニ死去スルトキハ後段ニ陳述セントスル議院ノ決議ニ依リ此ノ遺囑ヲ有効ト認識スト雖トモ遺囑者ノ定住英國ニ在ルカ故ニ遺贈有効期限ニ關シテ適用スヘキモノハ英國法律ニシテ外國法律ニアラス故ニ此ノ遺贈物ハ遺留財産ニ加フルモノトス以上ノ原理ニ基クトキハ左ノ大則ヲ發見スルヲ得ヘシ曰ク外國ニ定住ヲ有スル死者ニ屬スル財産處分ニ關スル訴願ヲ英國裁判所ニ爲ストキハ其ノ英國ニ於テ死シタルト否ヲ問ハス定住地ノ法律ニ從ヒ遺囑認定狀若クハ執行委

定住確定ノ時期

任狀ヲ付與ス之ヲ細言スレハ同法律ニ依テ死者ノ財産ヲ處分スルヲ得ル人ニ之ヲ付與スルナリ而シテ此ノ場合ニ於テハ本問題ニ關スル英國法律ハ全ク不問ニ付スルモノトス今特ニ例ヲ設ケテ此ノ規則ヲ説明スルノ必要ナシ次ニ二個ノ附屬問題ヲ講究セサルヘカラス吾人カ前ニ陳述セル定住地法律ハ遺囑書ヲ作りタル當時ノ定住地ナルヤ又ハ其ノ死去セル當時ノ定住地ナルヤノ問題起ラサルヲ得ス前來開陳シタル場合ニ於テハ一個ノ除外例ノ外ハ死去當時ノ定住地ヲ指スモノトス何トナレハ遺囑書ノ成立スルハ此ノ時ニ在ルヲ以テナリ又遺囑書ナキ場合ニ於テモ執行委任ヲ左右スル定住ハ死去ノ當時ノ定住タルヘキモノトス

故ニ定住ノ移動アルトキハ更ニ新定住地ノ法律ニ從ヒ新
遺囑書ヲ作ラサルヘカラス但シ舊遺囑書新定住地ノ法律
ニ抵触セサルトキ若クハ新ニ遺囑書ヲ作クルノ必要ナキ
コトヲ新定住地ノ法律ニ於テ規定スルトキハ此ノ限ニ在
ラス
然レトモ遺囑ヲ爲スノ能力ニ關スル場合ハ此ノ規則ノ除
外例ナリ何トナレハ此ノ場合ニ於テ定住ト稱スルハ遺囑
ヲ爲ス當時ノ定住ヲ云フモノナレハナリ蓋シ此ノ理由ハ
英國法律ニ依レハ凡ソ一身上不能力ノ存スルトキニ作り
タル遺囑書ハ遺囑者既ニ不能力ヲ脱却スト雖トモ法律上
現ニ遺囑ヲ執行スルト同一ノ効力ヲ有スル確定又ハ採用
ノ所爲之ニ隨伴スルニアラサレハ該遺囑書ヲ有効ト爲ス

ナ得サルナリ又外國ニ於テ作りタル遺囑書ノ場合ニ於テ
ハ現定住地ノ法律ニ從ヒ此ノ點ヲ確定スルモノトス
予カ既ニ陳述セシ如ク英國籍ヲ有スル者ノ爲シタル遺囑
ノ効力ニ對シテ立法院ハ往々定住地法律ニ關スル規則ニ
依テ起ル困難ヲ減却スルコトアリ而シテ此ノ問題ニ關ス
ル英國法律ハ吾人カ將ニ講究セントスル所ノモノナリ
一千八百六十一年ノ議決ニ係ル「キングダウ」公條例ト通
稱スルモノニ依レハ合衆王國外ニ於テ英國臣民カ爲シタ
ル遺囑書其ノ他遺囑的ノ書類ハ若シ當時本人定住シタル
土地ノ法律ニ規定スル法式又ハ女皇陛下ノ領地内ニ於テ
其ノ生來定住ヲ有スル土地ノ法律ヲ遵守シテ爲シタルト
キハ其ノ定住如何ニ拘ラス合衆王國內ニ於テ之ニ認定ヲ

條約締結ニ
關スル條例

與へ且執行セシムルモノトス又定住ノ移動ハ遺囑書ヲ取
消シ若クハ其ノ効力ヲ失ハシメ或ハ其ノ解釋ニ變更ヲ要
スルコトナシ
又同年ノ議決ニ係ルモノニシテ甚ダ緊要ナル成文律アリ
ト雖トモ未タ之ニ規定スル所ノ條項ニ適應スルノ條約ヲ
締結セサルヲ以テ其ノ効力ヲ見ルニ由シナシトス
此ノ條例ノ目的ハ女皇陛下ヲシテ外國ト條約ヲ結ビ以テ
條約國ノ一方ニ於テ他ノ一方ノ臣民其ノ死去ノ前少クト
モ一箇年間居住シタルカ若クハ其ノ國ニ定住ヲ志願スル
旨ノ書類ヲ官署ニ差出シタルニアラサレハ定住ヲ有スル
モノト認メサルヘキコトヲ約束セシムルニ在リ若シ動産
ニ關スル遺囑的相續ノ場合ニ於テ此ノ居住若クハ書類ヲ

外國判決ノ
結果

キトキハ死者同國ニ居住前ノ定住ヲ以テ其ノ定住ト認ム
ヘシ
又同條例ニ依レハ右ノ條約ニ左ノ一項ヲ加フルヲ得ルモ
ノトセリ曰ク條約一方ノ國ノ臣民英國ニ於テ死去スルニ
當リ財産ニ關スル執行狀ヲ受クル權利ヲ有スルモノナキ
トキハ其ノ國ノ領事之ヲ受クルヲ得ト
現役ニ在ル兵卒水夫水兵及戰時ノ俘虜ノ遺囑ニ關シテハ
特別ノ制規アリ
此等ノ問題ハ極メテ錯雜シタルモノナルカ故ニ之ヲ解セ
ント欲スレハ夥多ノ證據ヲ收攬スルヲ要スヘシト雖トモ
外國裁判所ニ於テ爲シタル判決ニ依リ之ヲ英國裁判所ニ
提出スルノ場合ニ至レハ其ノ解釋甚ダ簡單ナルヘシ大體

上ヨリ之ヲ言フトキハ英國裁判所ハ此ノ判決ニ確定スル事實ハ悉ク之ヲ認定スルモノトス例ヘハ此ノ判決ニ於テ遺囑者ハ遺囑ヲ爲ス能力ヲ有セサルモノトシ若クハ某ノ書類ハ遺囑的ノモノニアラストシ若クハ有効ナル遺囑タル必要ノ法式ヲ遵守シタリトシ若クハ某ノ人ハ相續ヲ爲スノ權利アリトスル等ノ場合ニ於テ外國判決ヲ以テ終局ノモノト爲スナリ

死者定住地裁判所ノ判決ノ場合ニ於テハ困難ヲ生スルコト甚タ稀ナリトス然レトモ英國内ニ於テ死者財産ヲ所有スルトキハ假令其ノ定住ハ英國内ニアラサルモ英國裁判所ハ猶ホ裁判權ヲ有スルカ如ク何國ノ裁判モ同一ノ場合ニ於テハ同一ノ理由ニ基キ同一ノ裁判權ヲ有スルコトアリ

ルヘシ外國判決執行ノ難問ニ關スル他ノ論點ノ如ク此ノ點ニ關スル法律ハ未タ充分ノ確定ヲ見スト雖トモ斯ノ如キ判決ニシテ定住地法律ニ基テ爲シタルモノナルトキハ英國裁判所ハ此ノ事件ニ於テ終局ノモノト認識スヘキハ疑ヲ容レス蓋シ處分ヲ要スル財産ニシテ英國裁判所ノ管轄内ニ在ルトキハ死者定住地裁判所ノ判決ナキ場合ト雖トモ英國裁判所ハ右定住地裁判所ニ拘ラス當該事件ヲ決定スルノ權ヲ有スルト等シク他國ノ裁判所ハ同一ノ理由ニ因リ同一ノ權ヲ有スヘキナリ

又外國裁判所ハ死者ノ財産ヲ管理スル爲ニ英國ニ於テ認定狀若クハ執行狀ニ依テ撰任スル如キ管理人ヲ撰任スルハ是レ普通ノ事トス上文既ニ陳述スル制規ニ依レハ此ノ

管理人ハ英國裁判所ノ許可ヲ得ルニアラサレハ英國ニ在
 ル財産ヲ處分スル能ハス然レトモ此ノ許可ヲ得ルハ論ヲ
 俟タサルコトニシテ英國裁判所ハ外國裁判所ノ許可ニ附
 スルニ補充許可ヲ以テス而シテ此ノ補充許可ハ原許可ト
 同一ノ効力ヲ有スルモノトス
 此ノ場合ニ於テハ前來既ニ定住地ニアラサル裁判所ノ判
 決ニ關シテ陳述シタル論旨ヲ適應スルモノトス
 又外國ニ於テ管理人タルノ許可ヲ得タル者ハ假令英國法
 律ニ於テ其ノ資格ヲ有セサルモ英國ニ於テハ前記ノ補充
 許可ヲ與フルヲ通例トス
 然レトモ必要上ヨリ一ノ除外例ヲ生スルヲ免ル、コト能
 ハス抑此ノ外國管理人一タヒ英國ニ於テ許可ヲ受クルト

キハ英國内ニ在ル財産ニ關シテハ英國裁判所ノ官吏タル
 ノ資格ヲ有シ英國法律ヲ遵奉セサルヘカラス例ヘハ外國
 ニ於テ未成年者ヲ管理人ニ撰任スト假定センニ此ノ未成
 年者ニシテ英國ニ於テ其ノ職務ヲ盡スコトヲ得ル場合ニ
 ハ假令英國法律ハ之ヲ許サ、ルニ拘ラス此ノ未成年者ニ
 管理人タルノ許可ヲ與フルヲ得然レトモ其ノ未成年者タ
 ルニ因リ其ノ職務ヲ行フ能ハサル場合少シトセス故ニ其
 ノ成年ニ達スルマテ此ノ許可ヲ與フルコトヲ停止シ之ヲ
 全ク拒否スルニアラス當分其ノ最近ノ親戚ニ假ノ許可ヲ
 與フモノトス
 猶ホ他ニ吾人ノ注意ヲ要スル點ハ英國ニ於テ認定狀若ク
 ハ執行狀ノ下付ハ嚴格ナル儀式ヲ要スト雖トモ外國人ニ

對シテハ斯ノ如キ儀式ヲ要セス唯タ死者ノ財産處分ノ權ヲ定住地法律ニ依テ得タルノ證明ヲ以テ足レリトスルノミ曾テ波斯裁判所ノ判決ニ關スル事件ヲ提出セシニ當リ右ノ權ヲ許可スル書類ハ英國ノ規定スル所ト大ニ異レリト雖トモ彼國法律ニ依リ有効ナルヲ以テ其ノ管理人タルコトヲ許可セリ

定住地法律ノ超高權ヲ認識スル規則ハ論理上之ヲ最終ノ結論ニマテ推及セリ故ニ英國遺囑認定ノ裁判ヲ爲スニ當リ若シ定住地裁判所ニ於テ既ニ之ヲ提出シタルトキハ英國ニ於ケル裁判所ハ外國裁判ノ宣告ニ至ルマテ之ヲ停止スヘシ又英國ニ於テ既ニ管理人ヲ撰任シタル後若シ定住地裁判所ニ於テ他ノ人ヲ撰任スルトキハ英國ノ撰任ハ之

ヲ取消シ以テ此ノ外國撰任ニ從ヒ更ニ撰任ヲ爲スモノトス

之ト同一ノ原理ニ從ヒ外國撰任ニ權力ノ制限アルトキハ英國ノ補充許可ニ於テモ亦此ノ制限ヲ記入スルモノトス遺囑認定狀若クハ執行狀ヲ許可スルニ當リ定住地法律ヲ以テ基礎ト爲ス如ク死者遺囑ヲ爲サル場合ニ於テモ定住地法律ニ從ヒ動産ノ相續ヲ確定スルモノトス曾テ「モロツコ」皇帝ノ臣民英國ニ於テ死去シ遺囑ヲ爲サ、リシニ當リ回々教ノ法律ニ依リ其ノ親戚及英國君主ヲ差措キ同皇帝ノ代表者ヲ以テ其ノ管理人ト爲セリ

行政訴訟即チ遺囑財産管理人ヲシテ其ノ信託義務ヲ盡サシメンカ爲メ之ニ對シテ「チャンスレー」法廷ニ起ス訴訟ニ

關スル難問ハ茲ニ論究スルヲ要セス唯タ前來陳述シタル原理ニ從ヒ遺囑認定狀ヲ許與スルノ法權ヲ有スル裁判所ハ又行政命令ヲ發スルノ法權ヲ有スト云フヲ以テ足レリトス

以上陳述スル所ハ動產ノ遺囑ニ關スルモノトス而シテ不動產ノ遺囑ニ關シテハ多言ヲ要セサルナリ蓋シ不動產ノ遺囑ノ場合ニ於テハ定住地法律全ク其ノ地位ヲ失ヒ物件所在地法律之ニ代リテ効力ヲ有ス言テ更テ之ヲ云フトキハ不動產ハ物件所在地法律ニ從フヘシト云ヘル規則ハ外國ニ居住スル外國所有者ノ爲シタル遺囑ニモ及フモノトス何トナレバ遺囑ナルモノハ死者カ其ノ相續人ニ其ノ財產ヲ引渡ス所以ノモノナレハナリ

故ニ死者遺囑ヲ爲サ、ルトキハ其ノ不動產ノ相續ハ物件所在地法律ニ依ルモノトス又不動產ニ關シテ遺囑ヲ解釋セント欲スレハ同國即チ物件所在國ノ解釋法ニ從フヘキモノトス又遺囑ノ有効ナルヤ否ハ同國ノ儀式ヲ遵守シタルカ否ニ關スルモノトス又外國人ハ斯ノ如キ財產處分ヲ爲スノ能力ヲ有スルヤ否ヲ判定スルハ恰モ其ノ同國ノ臣民タルト同一ナルヘキモノトス但シ其ノ不能力ノ因テ生スル事故例ヘハ未成年ノ如キハ動產ノ場合ト均シク定住地法律ニ依ルモノタリ

附 錄

本文第二百一丁ニ於テ予ハ既ニ外國ニ於ケル女皇ノ裁判權執行ニ關シ世間往々謬見ヲ懷ク者アルコトヲ陳述セリ而シテ本文上梓ノ後ニ至リ其謬見ノ行ハル、區域甚ダ廣汎ナルヲ知ルニ至リタレハ茲ニ之ヲ辨駁スルコト敢テ無益ノ業ニアラサルヘシ

抑外國ニ於ケル女皇ノ裁判權執行ニ關シテ起リタル論難二個アリトス其ノ一ハ樞密院令ニ所謂境土ノ讓與若クハ征服云々ノ文字ハ其ノ治外法權條約ノ一方タル邦國ノ君主ニ對シ侮辱ヲ與フルモノナリト云フニ在リ又其ノ二ハ讓與シタル裁判權ニ關シ且其ノ裁判權ノ爲ニハ斯ノ如キ邦國ヲ以テ英國領分ノ一部ト看做スコト是レ英國法律ノ

精神ノ在ル所ナリト云フニ在リ

此等ノ論難ハ相互ニ密着ノ關係ヲ有スルモノナリ而シテ其ノ據ル所一モ正當ノ理由アルヲ見ス蓋シ該樞密院令ハ單ニ議院ノ條例ニ用ヒタル文字ヲ記載シタルモノニシテ實ニ之ヲ記載セサルヲ得ザリシナリ議院ノ條例トハ普通執行認可條例ヲ指スモノニシテ本文ニ於テ一千八百四十三年ノ外國裁判權條例ト稱スルモノ即チ是ナリトス(此ノ條例制定ノ期日ハ江戸條約ト對論スルニ當リ緊要ナリトス)故ニ吾人ハ此問題ニ關シテハ唯此ノ條例ニ就テ論究スルヲ要スルノミ而シテ此ノ條例中裁判執行ニ關スル款項ハ萬般ノ場合ニ適應スルノ目的ヲ以テ制定シタルモノナリトス何トナレハ裁判權ノ讓與ハ各條約ニ於テ相異レハ

ナリ例ヘハ甲國ニ於テハ裁判權ノ讓與ハ專ラ女皇ノ臣民間ニ起ル民事裁判ニ限ルモノトシ乙國ニ於テハ同國ニ於テ女皇ノ臣民カ犯シタル罪ノ處罰ニ關スルモノトシ丙國ニ於テハ女皇ノ臣民ノ戶籍ヲ登記シ之ニ稅ヲ賦課スルヲ許シ丁國ニ於テハ以上諸般ノ要件ヲ悉ク若クハ其幾部ヲ認許スル等ノ如キ是ナリ

英國ハ漸次數多ノ君主ト條約ヲ締結シ之ニ依テ斯ノ如キ裁判權ヲ領得スルニ當リ何等ノ方法ヲ以テ此裁判權ヲ執行スヘキヤノ問題緊要ナルニ至レリ予ノ見ル所ニテハ此ノ時ニ當リ三個ノ方法アルカ如シ第一ハ斯ノ如キ外國ニ於ケル英國人ノ社會ヲ以テ宛モ英國内ニ在リ英國議院ノ專權ノ下ニ服スルモノ、如ク見做スニ在リ然レトモ此ノ

方法ニ對シテ非難ノ生スルハ明瞭ニシテ或ハ條約ノ款項ト抵觸スルノ恐ナシトセス第二ハ女皇陛下ノ全權公使ヲシテ立法權ヲ執行セシメ便宜ニ依リ同社會ヨリ撰出シタル參事會ヲ置クニ在リ然レトモ第一法ト均シク此方法モ亦非難ヲ免レス蓋シ其非難ノ要點ハ此方法ヲ行フトキハ其ノ社會ハ俗語ニ所謂英國殖民地タルノ實ヲ得ルニ至ルヘシト云フニ在リ第三ハ其ノ領地外ニ於テ讓與若クハ征服ニ依テ得タル土地ニ在ル臣民ノ上ニ其ノ裁判權ヲ執行スルト同一ノ法ヲ取ルニ在リ抑裁判權ノ一事ニ關シテ云フトキハ治外法權ノ行ハル、國ハ宛モ讓與若クハ征服ニ依テ得タル國ト同一般ニシテ前陳ノ法ヲ取ルコト至當ナリトス何トナレハ此ノ法ニ依ルトキハ以テ同地内ニ於テ

立法權ヲ執行スルノ嫌ナキヲ得ヘケレハナリ蓋シ讓與ニ依テ得タル土地未タ自治的殖民地ト爲ラサル間ハ同土地ニ關スル立法ハ英國ニ於テ女皇親ヲ樞密院令ヲ以テ之ヲ行フモノトス之ヲ要スルニ以上最後ニ陳述シタル方法ハ大小各般ノ場合ニ適應スルヲ以テ極メテ便利ナルモノナリトス是ニ於テ遂ニ之ヲ採用スルニ至リタルナリ此ノ方法ニ付テ幾多ノ解釋ヲ爲スヲ得ルヤト云フニ其意義唯一アルノミニシテ其ノ旨意ノ歸着スル所ハ女皇カ條約ニ依リ外國ニ在ル其ノ臣民ノ上ニ得タル裁判權ハ其ノ大ナルト小ナルニ拘ラス宛モ他ノ讓受國ニ於ケルト同様ニ之ヲ執行スヘシト云フニ在リ而シテ此ノ裁判權ハ無限完全ノモノナルヲ以テ女皇カ讓受國ニ在ル其ノ臣民ノ上

ニ行フ裁判權ノ一部ヲ成スモノトス然レトモ該條例(即チ外國裁判權條例)ハ其ノ條約ノ明條ニ依テ認許スル裁判權ノ外何等ノ權利ト雖トモ之ヲ女皇ニ與フルコトナク又女皇ノ爲ニ之ヲ請求スルコトナシ
茲ニ實例ヲ以テ論證センニ江戸條約ニ依レハ凡ソ日本ニ在住スル英國臣民相互ノ間ニ起ル財産權ニ關スル訴訟事件判決ノ權ヲ女皇ニ讓與スル旨ノ條款アリ而シテ女皇ハ讓受國ニ於テモ此ノ裁判權ヲ有セリ故ニ女皇ハ日本ニ於テモ讓受國ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ執行スヘシト云フニ在リ之ヲ細言スレハ此等ノ訴訟事件ハ何等ノ人ナシテ判決セシメ又何等ノ方法ヲ以テ之ヲ處置スヘキヤノ問題ニ關シ女皇ハ讓受國ニ於ケルト同一ノ措置ニ出ツ

ヘシト云フニ在リ而シテ其ノ社會即チ日本ニ在留スル英國人ノ社會ヲ云已ニ廣大ナルヲ以テ女皇ハ樞密院令ニ依リ特ニ裁判所ヲ設置シ同社會ニ於テ起ル總テノ訴訟ヲ裁判セシム又女皇ハ該裁判所ノ裁判官ノ爲ニ樞密院令ヲ以テ法律并ニ訴訟手續ニ關スル裁判規則ヲ發スルナリ
此ノ場合ニ於テ侮辱ヲ與フルノ點果シテ何處ニ在ルヤ治外法權其物ニ就テ論スルトキハ固ヨリ斯ノ如キ侮辱ノ點ナキヲ免レスト雖トモ予カ茲ニ論辨スル所ハ治外法權條約ノ執行ヲ認許スル英國條例ニ果シテ侮辱ノ意アリヤ否ニ在リ而シテ讓受國ト治外法權國トノ間ニ於ケル比較ヲ適用スルコト已ニ侮辱ノ意ナシトセハ其比較其物ニ於テ侮辱ノ存スヘキ理アルコトナシ蓋シ境土ノ讓與若クハ征

八
服云々ノ文字ハ女皇カ治外法權ヲ得タル邦國ニ適應スル
ニアラスシテ全ク裁判權ニ就テ云フニ止ルモノトス其ノ
目的タルヤ此ノ裁判權ノ執行ニ關シ已ニ世人ノ普ク知ル
所ノ標準ヲ示スニ在リ以上予カ民事裁判ニ就テ論陳シタ
ル所ハ總テ他ノ權例ヘハ刑事裁判權ノ如キモノニモ均シ
ク適用スルモノトス
民事裁判權ニ關シテハ予ハ更ニ一步ヲ進メテ外國裁判權
條例ニ用ヒタル文字ハ歐洲諸國ニ對シテモ之ヲ適用スル
ヲ得ヘキモノニシテ其ノ適用ノ機會ハ將來有リ得ヘキコ
トナリト斷言セントス例ヘハ佛國裁判所ハ外國人相互ノ
間ニ起リタル民事訴訟ヲ受理スルヲ拒ミ其本國ノ裁判所
ニ訴ヘシムト雖トモ本意見第二章ニ於テ陳述シタル民事

九
裁判ノ規則極メテ嚴峻ナルカ故ニ巴理府ニ在留スル二名
ノ英國人ノ間ニ起リタル訴訟ヲ英國ニ於テ審判スルヲ得
サルノ場合ナキコトヲ保セサルナリ
此ノ場合ニ於テ其ノ困難ヲ除去セント欲スルトキハ佛國
ニ在任スル女皇ノ領事ヲシテ此ノ訴訟ヲ判決セシムルヲ
得策トナス唯此ノ裁判權ヲ執行セント欲スレハ條約國雙
方ノ承諾ヲ要スルノミ而シテ其理由ハ已ニ陳述シタル所
ニテ明瞭ナリトス故ニ女皇ハ佛國政府ト條約ヲ結ヒ以テ
佛國內ニ其ノ領事裁判所ヲ設置シ之ヲシテ被告ナル英國
人ヲ召喚シ英國證人ヲシテ出廷セシムル等總テ効力アル
裁判所タルニ必要ノ機關ヲ具備セシムルコトヲ得ン此ノ
時ニ當リ女皇カ條約ニ依テ得タル權力ヲ執行センカ爲ニ

樞密院令ヲ發スルコト宛モ他ノ讓與若クハ征服ニ依テ得タル土地ニ向テ之ヲ發スルト同一一般ナリト云フノ事實又ハ英國議院ニ於テ該樞密院令ノ發布ヲ議決シタリトノ事實ヲ以テ直ニ佛國共和政府ノ尊嚴ニ侮辱ヲ加フルモノト爲スヘカラサルナリ

予ハ次ニ第二ノ論難ニ移ラントス而シテ此ノ論難ニ對スル予ノ答辨ハ前已ニ記載シタル文字ハ事體ヲ明示スルニ適當ナラスト云フニ在リ英國法律ハ領事裁判其他ノ目的ノ爲ニ若クハ領事裁判ニ關シテ日本若クハ其境土ノ一部分タリト雖トモ之ヲ英國ノ版圖ト視做サ、ルナリ此ノ論難ニ對シテ第一ニ非難スヘキ點ハ總テ治外法權ハ全ク一身上ニ關スルモノニシテ國內ニ於テ英國臣民ノ在留スル

ニ基クモノナリト云フニ在リ又第二ニ非難スヘキ點ハ言辭ノ輕重ヲ失ヒタルコト是ナリトス蓋シ此ノ論難ノ歸着スル所ヲ推究スレハ宛モ一ハ其範圍内ニ於テハ千ト均シク一日ハ其範圍内ニ於テハ一生涯ト異ナルコトナシト云フト殆ント同一一般ナリトス夫ノ條約ニ依レル女皇ノ裁判權ハ其範圍内ニ於テハ版圖内ニ於ケル裁判權ト同一物ナリト論斷スル論者ハ則チ此ノ誤謬ニ陷ルモノナリ之ヲ要スルニ治外法權ナルモノハ一定ノ意義ヲ有シ嚴格ナル制限ノ爲ニ拘束セラレ該權ヲ讓與スル邦國ノ有スル他ノ主權ト共ニ存立スルモノナリトス又此ノ權力ハ其ノ邦國ニ對シテ一定ノ文書(即チ條約書)ニ準據シテ之ヲ制限スルコトヲ得ルモノニシテ女皇ノ臣民ト雖トモ該權讓與内ニ於

テ同文書ニ據リ其制限ヲ請求スルヲ得ルモノナリ

